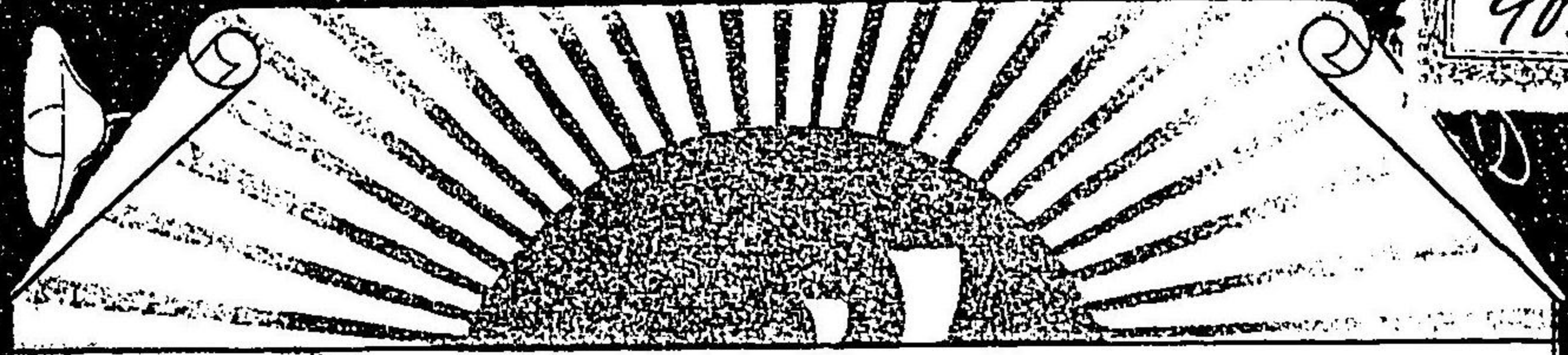
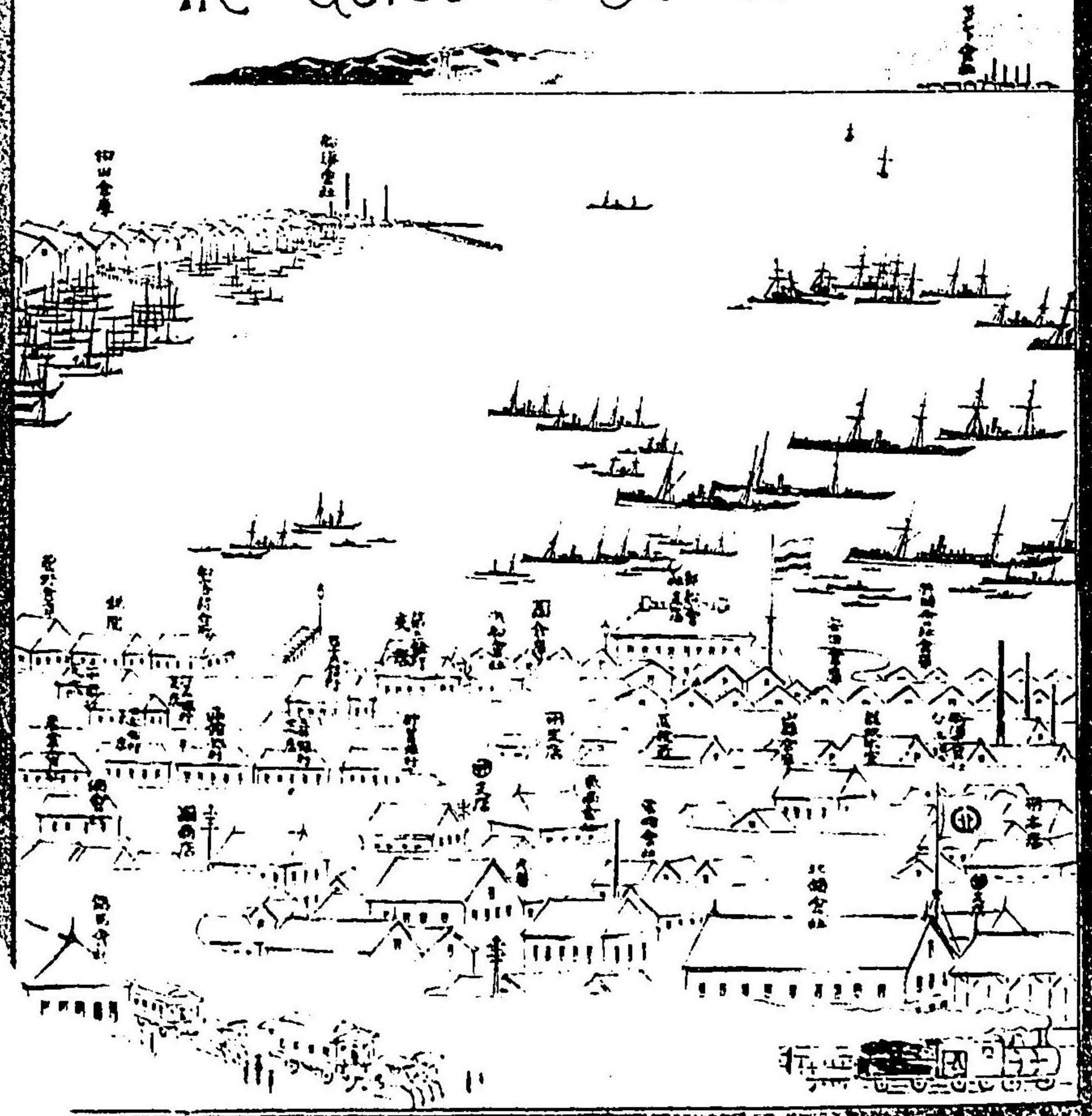


81
905



北海道案内

The Guide of Hokkaido.



北 海 道 概 覽 (最近調)

全道面積	六千九百十九方哩	既成排水溝渠	四百里
現住人口	百〇六萬八千人	重要農產物概價(年額)	千五百萬圓
山林面積	五百十三萬町步	重要水產物概價(全)	千四百萬圓
民有地	三十八萬町步	礦產物概價(全)	七百萬圓
現在貸附地	七十五萬町步	工事品概價(全)	七百萬圓
農耕地	三十萬町步	管外輸出品概價(全)	三千六百萬圓
馬數	八萬三千頭	全輸入品概價(全)	四千萬圓
牛數	八千頭	海外輸出品概價(全)	四百萬圓
既成道路	千六百里	全輸入品概價(全)	二千六百萬圓
既成鐵道	四百哩	國有未開地	百八十二萬町步

官長廳道海北

君賢安田園爵男

園田長官

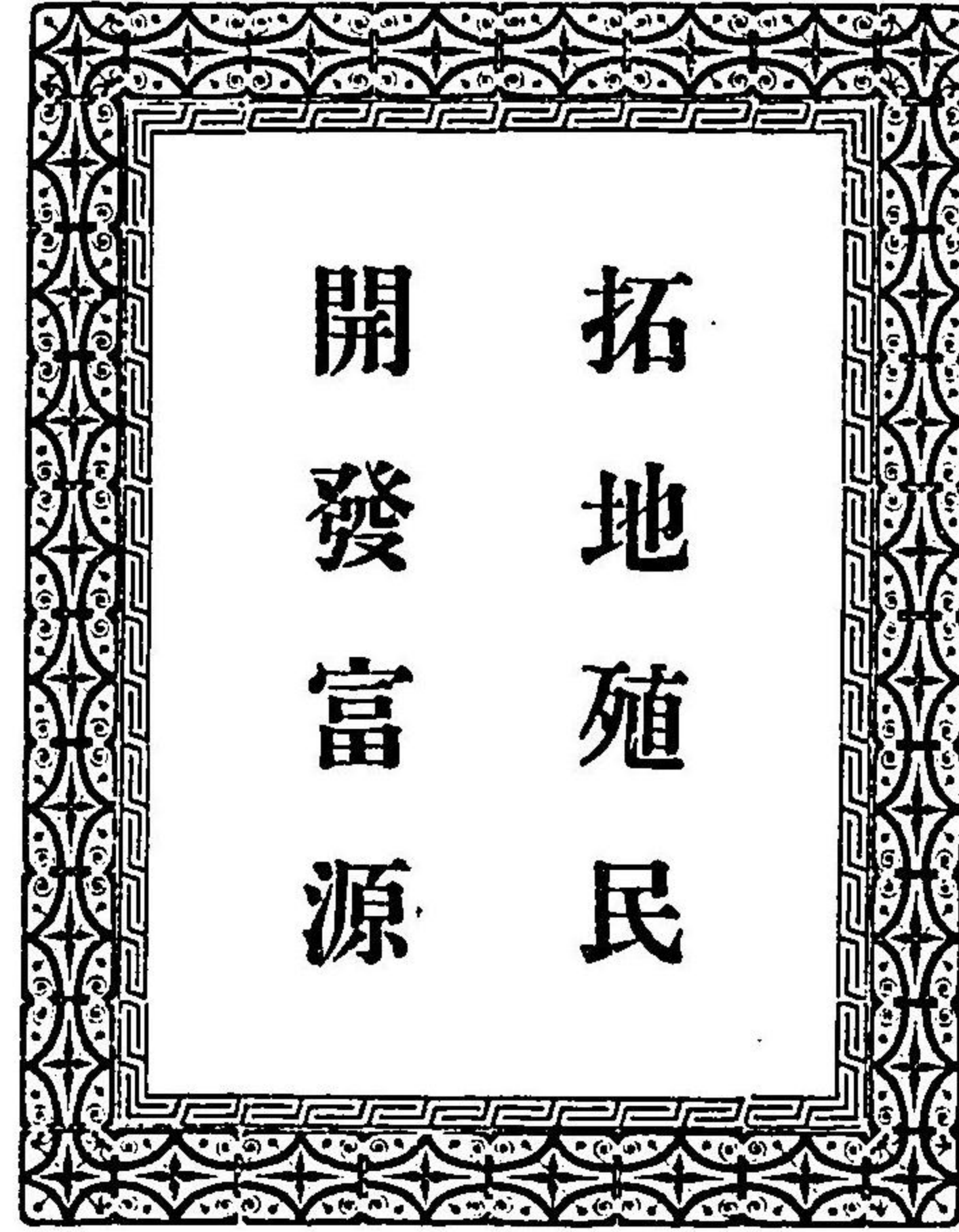


題
字

如法

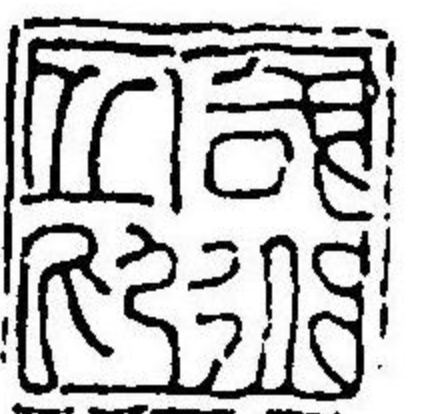


一變不見



拓地殖民
開發富源

明治癸卯年 新刊書



北海道案内序

友人内山鐵肝は畸人也、年甫めて十九、早く既に志を北海道に立て、荆榛を誅し荒蕪を墾かんと欲し、筆を投じて開拓に従事し、熊を驅り狼を逐ひ、耕耨こゝに年所を経たり、謂へらく、是れ農に偏すべきにあらず、商工を兼て富源を開かざるべからずと、是に於て力を殖産興業に盡くし、拮据二十餘年一日の如し、勤めたりと云ふべし、頃者予が門を敲き、語次北海道案内の稿本を示し、且つ曰はく、北海道の實況載せて本集にあり、今茲大坂市に於ける第五回勸業大博覽會開設の機に乗じ、其の實況を天下に紹介せんとなす、大坂地方は實業新聞社支局其他に於て既に之を辨せり、東京地方は専ら君の斡旋を俟つと、予因て之を通覽するに、寫真巧緻、記事精密、恰も身を北海道に置きて、一々其地を履み其人に而し、而して其殖産の原、興業の野に遊ぶの感あり、予覺せず絶叫して快と稱し、直ちに共同出版を約し、遂に予が一手に五萬部を販賣すべきを誓ふ

夫れ我が國今日の急務は、之を内にしては殖産興業を奨励し、之を外にしては、通商貿易を擴張するにあり、而して最も注目すべきは北海道、臺灣、南洋諸島とす、臺灣や南洋諸島や、來往する者少からずといへども、獨り北海道に至りては、往々之を顧みず、甚しきは爲すあるに足らずと云ふ者あり、蓋し其實況を知らざるの致す所なり、予之を聞く、我が國の一大幹線たる北鐵は、夙に函館、小樽より起工し兩端既に運轉を開始し、全通將に遠きにあらざらんとなす、日本郵船會社は航路を延長して、以て頻に貨客の便を

謀り、函館船渠會社の大渠船は、既に竣切して、船舶の新造修理に便すと、今此の案内記に依り、北海道の實況を詳かにすると共に、予は其の開進の真相に驚く、我が商界一幅の眼を具ふる者、輕々に看過して可ならんや、况んや全道より出す所の物産、海陸を合すれば、其實價數千萬圓に上り、府縣海外より輸入する所の、日用衣食什器より、以て諸器械工用品に至るまでを算すれば、亦數千萬圓を下らず、現在の人口は百萬を超えて、而して年々移住する者五六萬に及ふと云ふに於てをや、又た况んや西比利亞の鐵道既に、浦港に全通せりと云ふに於てをや、
日露の協商は東洋の大問題たり、而して其露に最も接近せるの北海道、豊手を拱して對岸の火災視すべけんや、世界の商戦に全勝を博せんと欲する者、地の利に依り更に人の和を得て以て平和の凱歌を奏し、更に西して歐に之き東して米に之き、以て我國商權の擴張を謀るべきは實に北海道にありとす、鐵肝農學に精しく水産學に通じ兼ねて商工の事情に詳かなり、人と爲り樸直眞率常に至誠を以て人に交はる、其事に従ふや、初は處女の如く後ち脱兎の如きものあり、皆其奇敏に服す、案内記の著、實に雲霧を披いて芙蓉の眞面目を覩るか如し、誰か之を快とせざらん

明治三十六年四月

東京駿河臺

萬卷堂主人識

例言

一此書一名大日本名譽錄と云ふ、本編は本道の開進に功勞ある名譽家、確實なる實業家の現況に於ける一部を撮影して之を挿入するもの多し、是れ其勤勉の結果を顯はし、其光榮を發揚して、以て富源の實を天下に紹介せんと欲するにあり、人呼んで之を名譽錄と云ふ、從て之を別名とせるなり、嗚呼勤むる者は榮ひ、怠るものは亡ぶ、榮枯盛衰誠に吾か志に依る、遂に天にあらざるなり

二本編店舗、邸宅、漁場等の寫眞は、技術の精巧を以て著名なる函館田本寫眞館に依頼し、著者共に親しく其實境に臨み、新に現況を撮影するものにして最も斬新なるものに係る、猶覽觀の便を謀り説明を附記す、而して事に觸れ一二の意見を挿むものは、聊か平生の感を述ぶるのみ、

三屋外寫眞に在りては、天候の良否、太陽の向背、位置の適否を選ばざるべからざるは勿論、特に函館の部は要塞地帯中にあるを以て、撮影上最も注意を要せり、是れ著者苦辛の存する所なり、幸に推察あらんとす

四説明は寫眞の及はざる所を補記するに過ぎず、漫に月旦を加へて以て其事を誇大にするものにあらず、而去て其記する所大同小異なるものあり、大に其趣を異にするものあり、皆事實の要を摘むに過ぎず、其盛況の詳細は本編の竭すへきにあらず、然れども余の北海道に住し實業界に在るもの前後二十餘年、聊か其真相に通ずる所なしとせず、而して記事最も公平を貴ぶ、世の玉石を混淆し、若くは其表を錦繡にするものと同一視するを勿れ、

五寫眞の第一編に挿入すべきもの猶多く、説明未だ盡さざるものあり、字句亦誤謬なきを保し難し、次版の時に於て之を訂正増補すべし

明治三十六年三月上浣

著者 内山鐵肝識

○總叙	一	○岡旅館	五二
○北海道鐵道株式會社	七	○東洋堂	五三
○大沼、小沼	一三	○樋口同酒店	五四
○蕨榮沼	一四	○黒井運漕部	五五
○今井合名會社	一五	○内山旅館	五六
○内山神社、石狩川上流	二四	○函館麥酒醸造所	五八
○佐野醬油醸造所	二五		
○三井銀行函館支店	二九		
○日本郵船會社函館支店	三〇		
○蓬萊家	四六		
○西島屋	四七		
○宗澤旅館	五〇		

次 目

○柳田雅天介庫	八三
○北海道セメント株式会社	八六
○菅谷商店	八八
○能登商店	九一
○江差銀行函館支店	九四
○服部半左衛門君	九五

○金森各商店	六〇
○魁文社	六二
○朋紋水室函館支店	六四
○第三銀行函館支店	六九
○北海道共同株式会社	七二
○函館船渠株式会社	七六

○函館魚商株式会社	九六
○井上商店	九八
○高森商店	一〇〇
○藤野函館支店	一〇二
○内山吉太君	一〇四
○米林商店	一〇六

○北海産業合資会社	一〇八
○岡本忠哉君	一一〇
○太刀川商店	一一二
○前田商店	一一三
○二十銀行函館支店	一一四
○濱崎商店	一一六

○函館馬車鐵道株式会社	一二八
○福田山松君	一二九
○雨夜高橋兩君凍水池	一三三
○函館公園及基坂ノ雪景	一三四
○五島軒	一三五
○常野牧場	一三六

○小川商店	一一七
○瀨川支店	一一八
○石垣商店	一二〇
○山田竹次郎君	一二一
○筑前善次郎君	一二四
○平出喜三郎君	一二六

○北海道ハ最モ牧畜ニ邁ス	一三七
○函館競馬會	一三九
○山田商店	一四〇
○鳥谷商店	一四一
○燐寸軸木ノ保護	一四三
○杉浦嘉七君	一四五

○村田陽吉君	一四六
○百十三銀行	一四七
○函館貯蓄銀行	一五〇
○田中正右衛門君	一五一
○大石貞雄女學校	一五三
○茶ノ湯	一五四

北海道案内

(大日本名譽録ノ一)

總叙

一 全道廣袤六千九百十九方里、之を帝國の全積に比ふれば、實に其四分の一を占む、即ち四國九州を合せたるもの、若くは東北七縣を合せたるものと相伯仲す、隨て有望の事業最も多し、又本道の廣き各地に在りて業務に多忙なるもの、或は最親の縁戚朋友、取引先と雖とも、儘音信の久瀕に至るなきを保せず、此書は全道各地及び各府縣に在る本道關係者の實況を掲ぐるもの多ければ、一見其消息を知るに便なり、況んや文化の日進實業の月歩する、常に社會の趨勢に注目を怠たるへからざるものをや

二本道に移住する者年々五萬人以上に及び、全道の人口既に百萬を過ぐ、大都會には函館、小樽、札幌あり、札幌は北海道政廳の在る所、小樽は西海岸の要港に當る、而して其函館港は人口十萬を以て數ふ、山擁し水廻り海深く波平かにして、大船巨艦の碇泊に安全なること帝國其比類を見ず、日本郵船會社の航路は本道沿海は勿論本洲各港に通じ、延て歐米の航路に連なり、本道の幹線たる北海道鐵道は其端を此地に開き、小樽の炭鐵、

上川の官鐵と相連絡を通じ、一方は津輕海峽を隔て、本洲の幹線たる日鐵と相呼應し、運輸交通寔に其便を極む、而して今や商工業の中心たり、萬櫛森然、百貨輻輳し、高樓傑閣灣頭より山腹に連る、市街は富家豪商を以て填充し、海運、陸運、銀行、倉庫、電話、電燈、鐵道馬車悉く備はらざるなし、函館港を経て本道各地に來往する者年々四十萬人以上に及ぶ、其繁華全道第一と稱す、是れ本編の筆を函館港より起す所以なり、嗚呼西比利亞鐵道は既に對岸の浦鹽斯德港に通せり、將來の函館港は、恰も世界航海の中點となり、太平洋、日本海の航海頻繁を加ふるに至らんこと必せり、况んや函館船渠株式會社の大船渠、修船架の既に完成し艦船の新造修理に至便を與ふるものをや前途最も有望の良港と云ふへし

三寫眞の配列法亦是一個の文章なり、乃ち帽頭なかるへからず、照應なかるへからず、波瀾なかるへからず、關鎖、段落、終結皆なかるへからざるなり、坐して全道富源の存する所、壯景、大觀、の在る所を總覽せんと欲するものは、請ふ余が、順路に従て叙列を完ふするを俟て、又進んで直に實利實益を起さんと欲するものは、速かに來りて其實況を踏査すべし、木道氣候の最も來遊に適するは、五月より十月迄とす、就中七八月の候は、

綠樹鬱蒼山水明媚、柳波の月清涼の風、爽快の境、人をして炎暑の苦を知らざらしむ、而して來往に氣車あり、馬車あり、腕車、轉車、船、馬皆あらざるはなし、足を勞せずして、到らんと欲する所に達す、其旅館は三層四層の高樓あり、客室は清洒華麗各雅趣を極め、器具裝飾皆其粹を盡せり、况んや北海の珍、毎に食膳に供するものをや

四我が 叙聖文武なる 皇帝陛下の至仁にして民を愛し北海道の拓殖に銳意し給ふや、曩日に明治九年七月、鳳登遙に東山道を経て青森に出で給ひ、更に函館港に臨幸あらせられ、親しく治績を察御あらせらる、特に 鳳登を五稜廓に廻らし給ひ、相馬胤彪(函館支廳雇舊時脱兵中に在りし者)を召し内閣顧問官木戸孝允をして赤川戰鬥の狀及五島三郎助父子戰没の地を訪はしめらる、更に招魂社及殉國者の墳墓へ金員を賜はる、全年八月更に 特旨を三條太政大臣、寺島參議、山縣參議、伊藤參議等に降し給ひ、北海道の民情を視察せしめらる、一行は函館に着し海路小樽に至り札幌に出で各地を巡視し、室蘭を経て再び函館に出て歸路に就く、全十四年 車駕重ねて本道に行幸あらせられ 鳳登親しく荒漠の野に臨み、民の疾苦を訪ひ給ふ、誠に臣民の感激に堪へざる所なり、十四年の時臣は實に開墾に従事して石狩國月寒村字大谷地ツネサツに在り、偶々沿道

の高原に御休息所を設けらるゝに會ふ、時はれ盛夏附近良水に乏しく開墾地の新井其水極めて清良なるを以て乃ち之を御茶料に供せらる、當時人烟稀少 風聲の過ぐる所、四望荒寥として際涯を見ず、而して今は則ち恩波洋々四隅に及ぶ、猶沃野密林を除すもの多しと雖とも、大道の通ずる所、鐵路の輾る所、麥隴、芋圃、稻田、桑畝、遠く相連なり、漁戸、農屋、軒相望み、國基を強ふするの富源は溢れて灣々の帆檣となり、漲りて縦横の鐵路となる、殊に本年は未曾有の大漁に會ひ、氣候亦順にして百穀の發生宜しく、遠近相和して 帝徳の隆昌を謳ひ 風聲の重ねて本道に廻らし給はんことを望むや切なり、故に聊か今昔の感を記し、謹んで道民の輿望を陳ふ、

千歳村途上

一帯長橋千歳河。兩涯春樹瑞烟多。記恩翁媪指相語。轡轡當年自是過。

更に明治二十四年片岡待従を本道に遣はし遠く千島の地理、風俗、海陸の物産を採檢せしめられ、特に越年を試みしめらる、一行は翌二十五年に至りて歸る、又北海道の中央石狩國上川郡に於ては、夙に 離宮御造營の御豫定地を相し給はる、十一州の草木皆恩露の浴きを喜ぶ、因みに一層の切望を述べれば、渡島國茅部郡大沼、小沼の地も亦最

も高貴避暑の地に適することを思ふ即ち北海道鐵道停車場の在る所にして、點々たる島嶼は大小兩湖の中當に星羅し、駒ヶ岳高く碧空に聳ひ、鬱乎たる其綠樹は新鮮の酸素を吹き、澄乎たる其水は清涼の風を含む、山水秀明、風光爽麗、冷泉あり、温泉あり、而して函館を距ること僅に十六哩に過ぎず、幸に第二の御豫定地を此處に相し給はるに至らば、誠に 聖壽の無窮を祈る臣民たるものゝ大慶之に加ふるものなり

五 北海道今日の開進は大要此の如し、然れども之を宇内の形勢に鑑みれば、猶更に一段の希望なかるへからず、最大の急務を絶叫せざるへからざるものあり、即ち精敏活潑、勇往敢爲の風を養ひ、整々堂々、俯仰天地に愧ぢざる雄豪偉大の元氣を振起して、以て愈々益々商工業の猛進發達を謀り、對岸西比利亞鐵道の貨客を輸送し來らざるに先ちて、早く通商貿易的の設備を完ふするにあり、而して之を爲すこと一に國民己人的義務のみに委すへきにあらず、帝國の執政に任ずる所の有司に在りては、大に本道の各地を實踐し、猶獎勵を加ふへきは、盛んに之を加へ、保護を厚ふすへきは一層之を厚ふし、以て殖産の事業を勃興し、世界的の經綸を畫策せざるへからざるなり、豈深く慮を致さずして可ならんや

六 本編記せんと欲し掲げんと欲する事項猶多しと雖とも、紙数の増加に至れば或は看官の倦厭を恐る、友人亦拙速を勸む割愛之を次編に譲る



倉田松濤先生筆

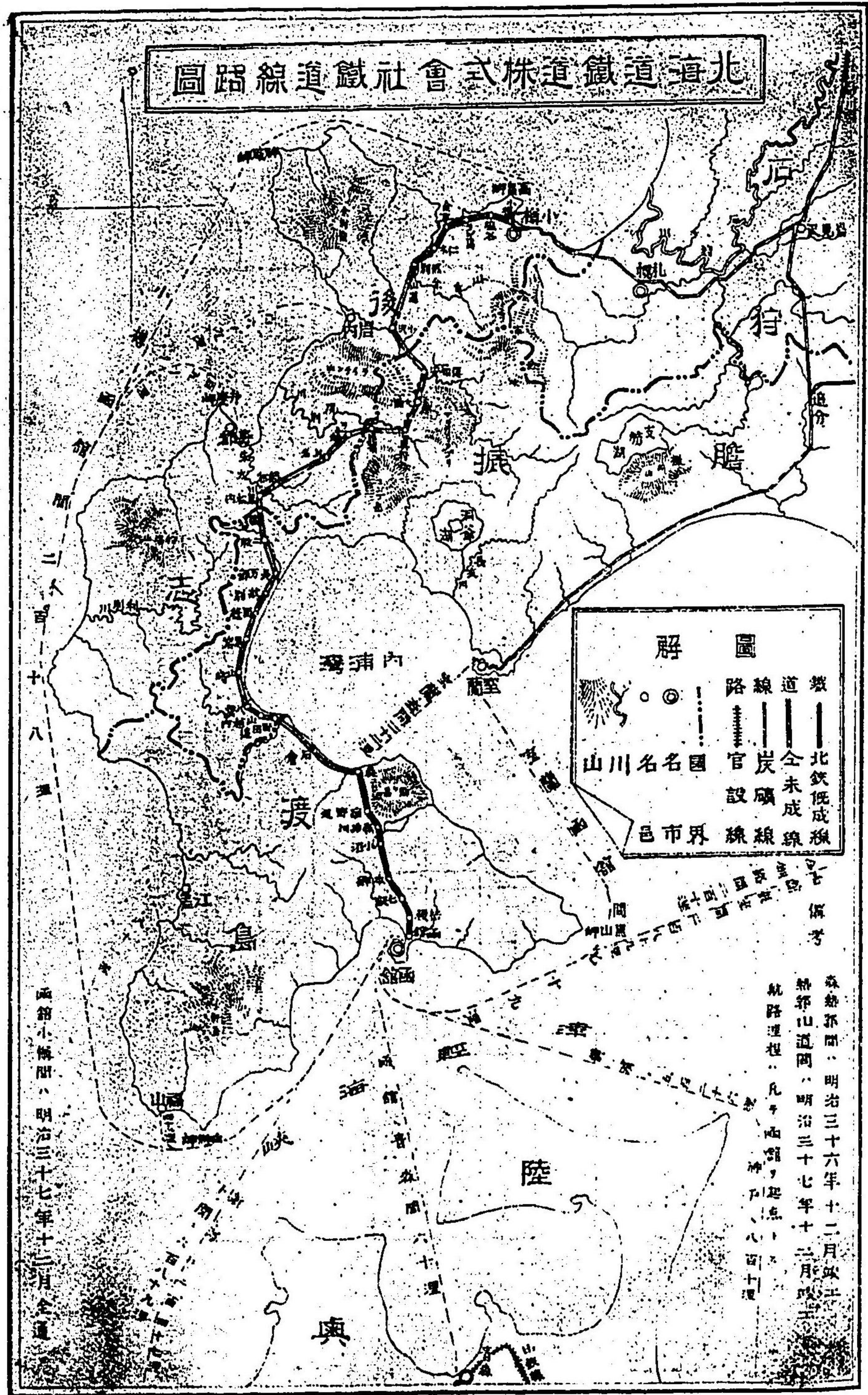
北海道鐵道株式會社

社長男爵北垣國道君



函館出張所
小樽出張所
所長 守下精君





HOKKAIDO RAILWAY Co.

八 北海道鐵道株式會社

北海道鐵道株式會社

本社所在地 東京市京橋區木挽町五丁目五番地

(電話新橋六二番)

(電話新橋九六七番)

函館出張所 函館海岸町六拾九番地

(電話三二〇番)

同所内 運輸課 (電話九三六番)

小樽出張所 小樽區稻穂町畑拾五番地

(電話二六六番)

如し

函館 北海水陸の要衝に當つて青森港を距ること海上僅かに六十哩に過ぎず、此一帯水を隔て、本州の幹線と聯絡を通ず、市街は山を負ひ海に臨み、戸數二萬人口十萬あり、船舶の出入頻繁其繁華本道第一に居る、商業殷盛、全道海陸の物産集散の夥きこと誠に商業の中心たるに負かず、停車場は海岸町にあり

本郷 函館を距る十哩餘、江差に通ずる要路に當て停車場を置く、此所より江差町迄十二里餘、日々數回馬車の便あり、江差は西海岸に於ける一要害にして海産物を以て名あり

小沼 函館を距る十六哩、峠下隧道を出つれば一碧明澄、大小の兩湖相通して周廻七里の秀景を現はす、大沼、小沼と云ふ、當面の駒ヶ嶽其全容を露はし、屹立の尖峰水波に映し、其風景の妍秀清麗なること能く筆墨の盡くす所にあらず、夏時の清遊之れに過ぐるものあらざるべし

宿野邊 函館を距る二十一哩、古來有名なる美林地にして、安政以來、木炭の生産地として其名著はる

森 函館を距る三十哩、内浦灣に瀕する一要害にして海上二十二哩餘を隔て、膽振の室蘭港と相對し船舶の出入に便なり、森、室蘭間聯終の航路を開始するに至らば、大に

旅程を短縮することを得るにより、青森と室蘭以北相互發着に係る貨客は之れに依るを最便利とす、森、室蘭間海上僅かに二時間を費やすに過ぎず、前途有望の地に屬す

石倉 函館を距る三十七哩の地に在り、一里餘にして鶴の湯の温泉あり

八雲 函館を距る四十九哩にして、膽振國山越郡に屬する農業地なり、物産は海陸兩

産に富むと雖も、殊に澱粉、晒箔製造の業を以て最も盛大なるものとす

黒松内 函館を距る七十九哩、後志國壽都郡に屬し、東西海岸を通ずる驛路に當て停車場を置く、此所より壽都町迄四里にして馬車の便あり、壽都は西海岸の一良港にして

常に船舶の出入多く、附近の農業は近來大に進歩し、沿海魚介を出す饒し

倶知安 膽振國虻田郡に屬し、函館を距る百十七哩、小樽を距る二十九哩の地に在り、

本道に於ける三大原野の一にして、稀有の沃野なり、此の地開墾は明治二十五年の創始に係り其進歩長足目下戸數一千三百、人口六千二百を有し、成耕地約五千町歩あり、更に年々の新墾四百町歩乃至八百町歩に及び、戸口の増殖亦之れに伴ふ、實に將來最有望の地たり、此の地又風景に富み、有名なる蝦夷富士は高く空に聳へ、尻別川は到る所に深邃幽致の「パノラマ」を現出す、倶知安の温泉頗る多しと雖も、就中琴甕、山田温泉を最とす、山田温泉は温度適好にして諸病に効あり、全線開通後は七時間にして函館に達することを得べし

小澤

後志國岩内郡に屬し函館を距る百二十四哩、小樽を距る三十二哩の地にあり、附近は近時開墾漸次に發達しつつあり、岩内町を距る三里、道路平坦馬車の便あり、岩内は西海岸の一要港にして函館、小樽間航行の船舶必ず寄港せざるなく、沿海漁業盛大にして附近耕地廣し、又全港の附近に岩内炭山あり、雷電は本道著名の硫黃山にして其脈四方に延く此邊一圓硫黃に富む

然別

後志國余市郡に屬し函館を距る百三十六哩、小樽を距る二十哩の地にあり、有名なる然別及蘇金銀坑は此の附近に在り

余市

函館を距る百四十二哩、小樽を距る十四哩の地に在りて、後志國余市郡に屬す、戸數二千、人口一萬、地味豊沃最も農作に適し、殊に林檎は其特産にして沿海又漁業盛なり

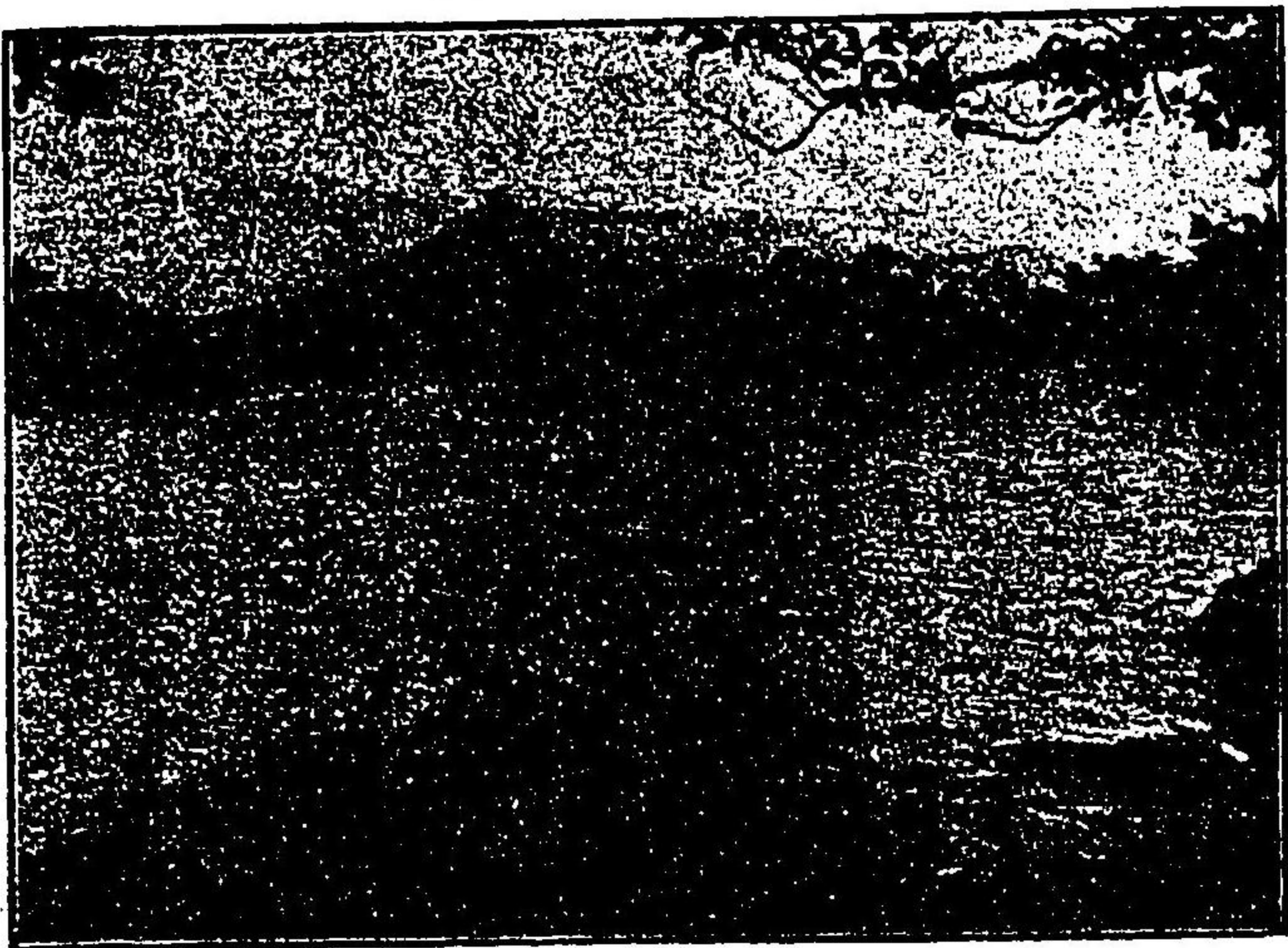
小樽

近來長足の進歩を爲し、商況活潑幾んど函館を凌がんとするの勢あり、其戸數一萬三千、人口七萬餘、其地形は本道中腹の都會、殖民地に出入するの關門に當るを以て陸産物を出すこと夥しく、海産は西北半面の沿海より吸收し百貨の集散夥し、其重なる輸出品は農産、水産、石炭等とす

(本編上下巻及び次編の沿道寫眞參照すべし)

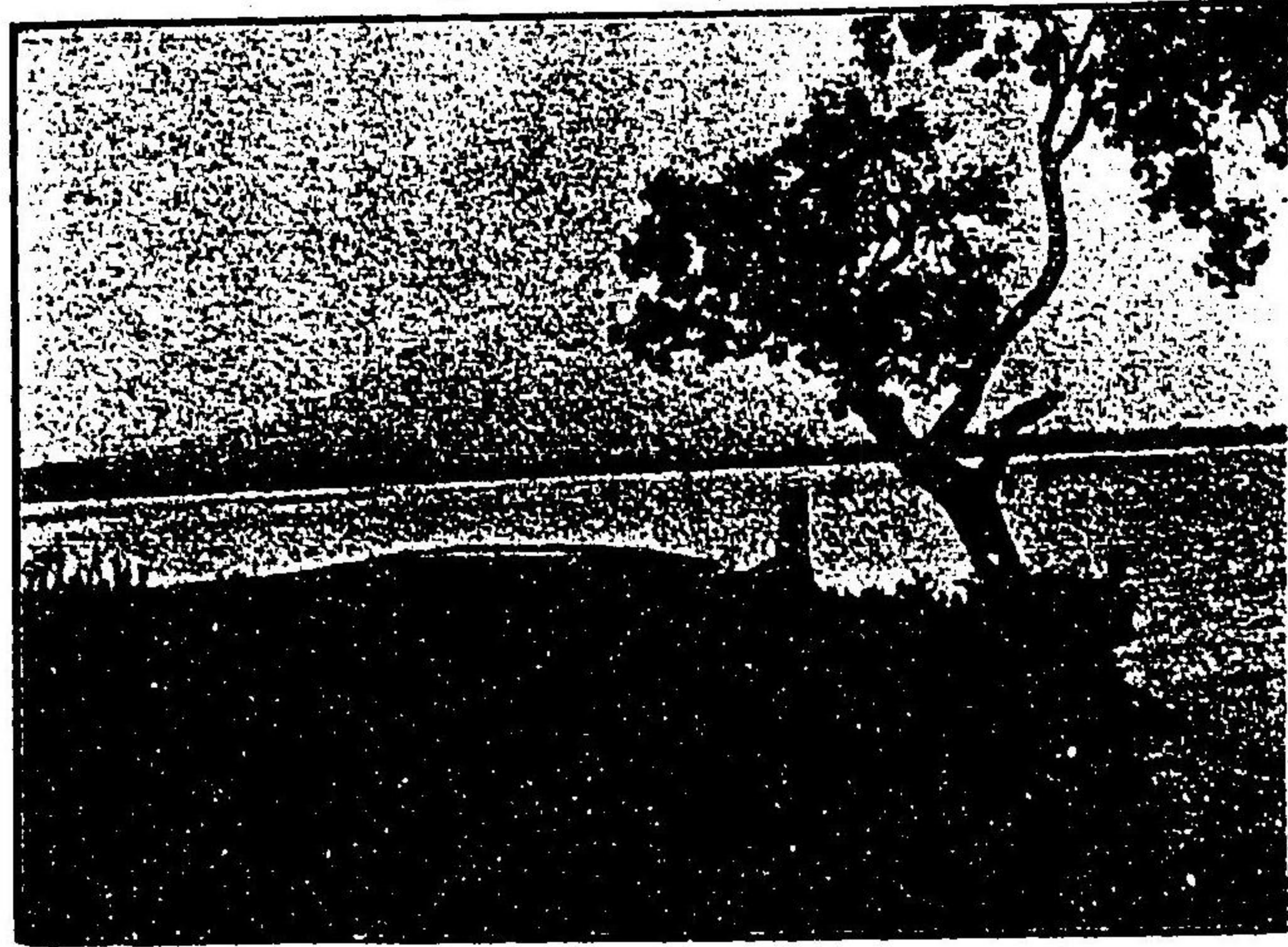
大

沼



小

沼

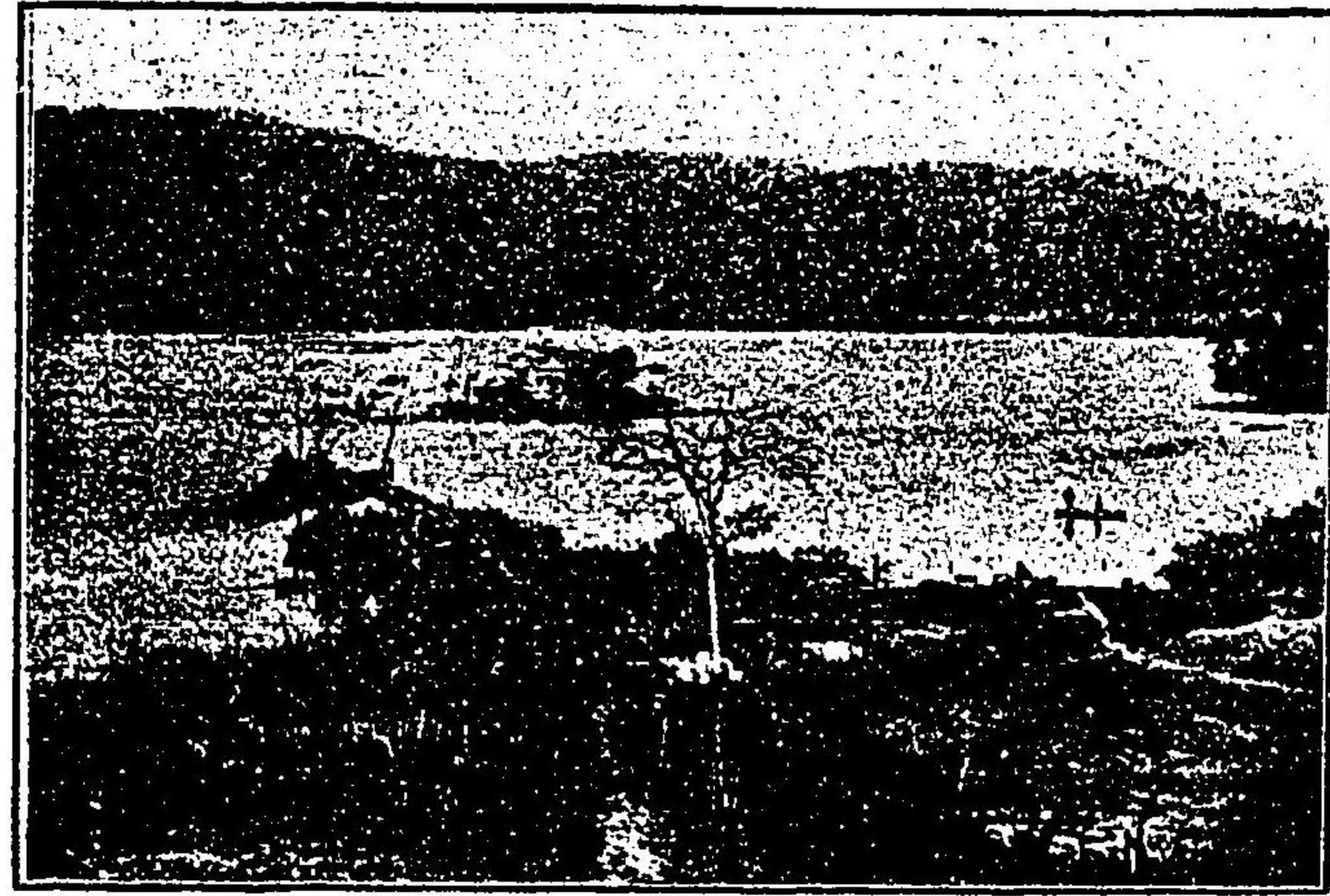
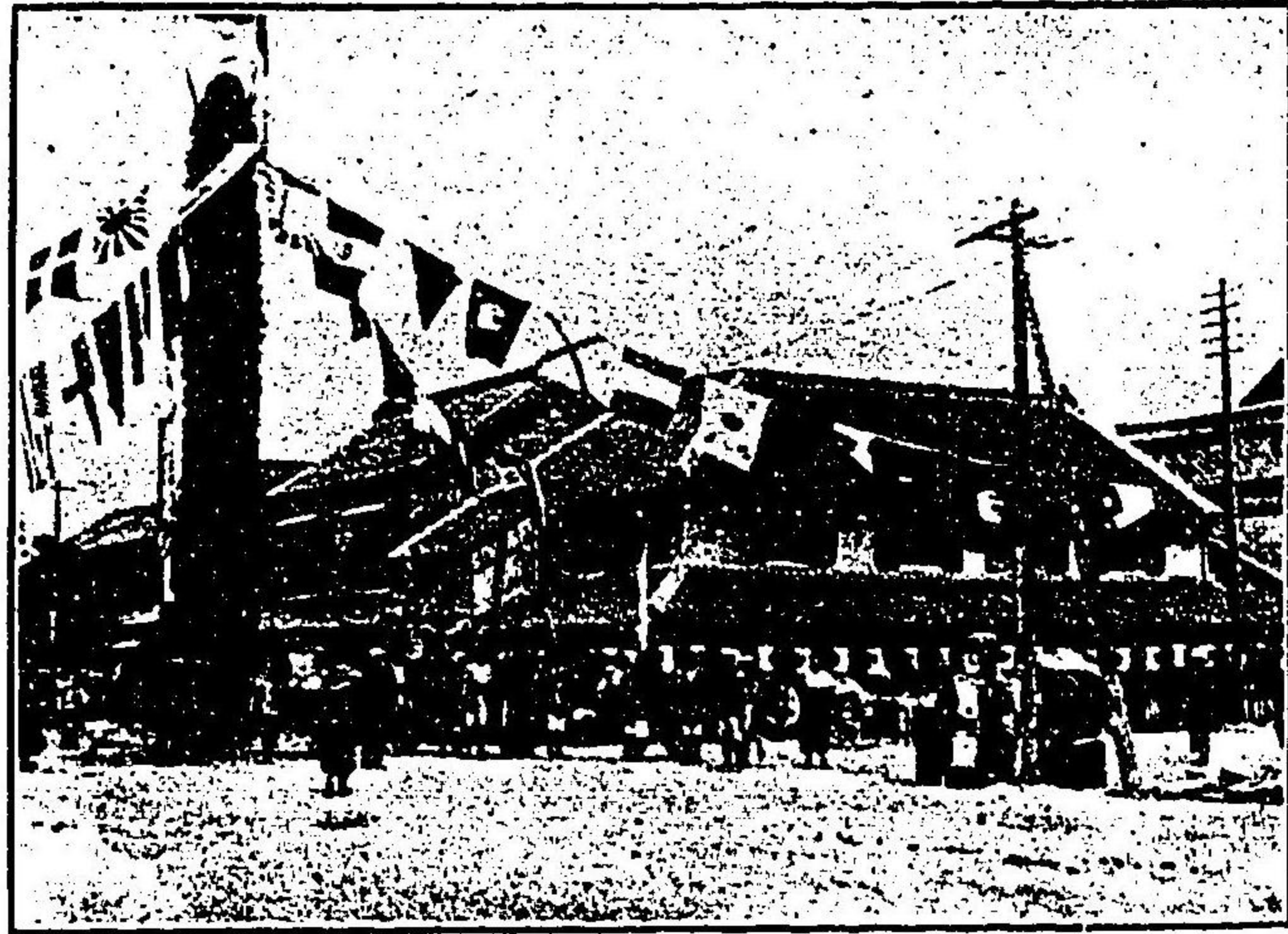


井

今井合名会社

本店札幌

全上札幌呉服店

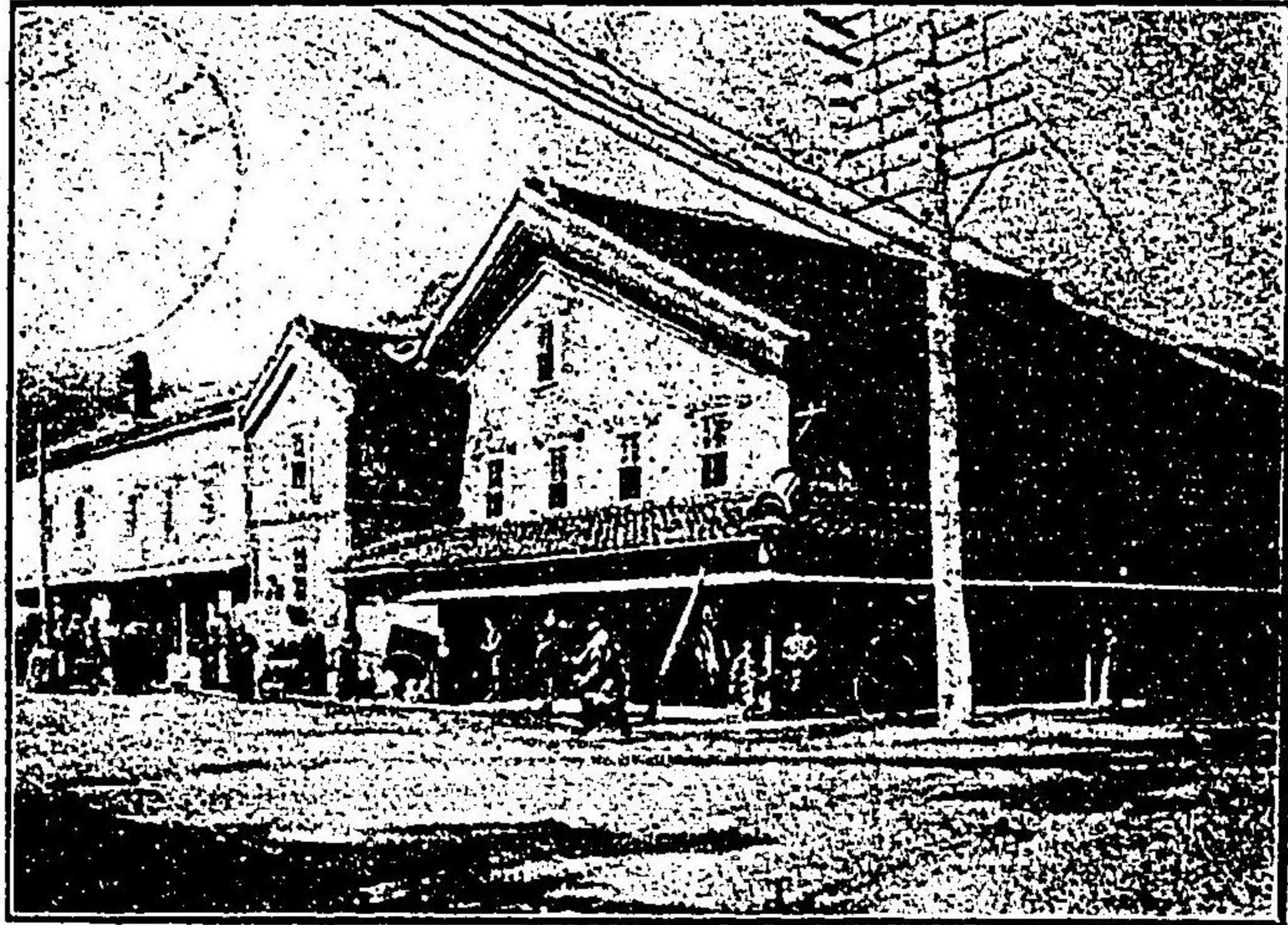


●北鐵線避暑案内

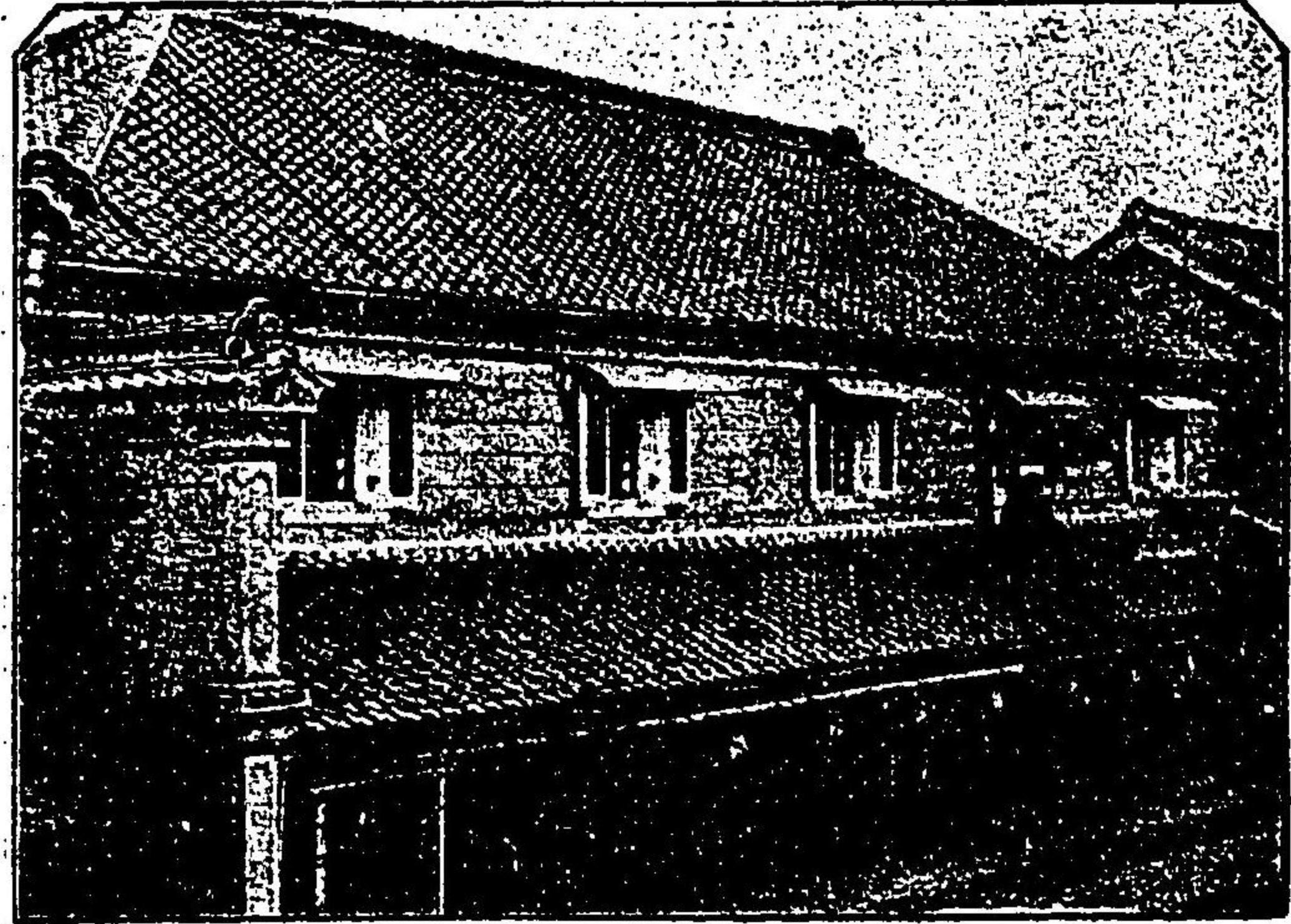
●小沼停車場

- 敷島館(旅舎、遊船、釣具アリ)
- 山月亭(旅舎、温泉、ピヤホ、運送部アリ)
- 勝景館(蘆ノ湯)
- 大沼遊船俱樂部
- 鯉鮒カマチエツプ魚御料理店
- ⑤**御休憩所
- 尊菜沼は尊菜の名所なり小沼停車場より行くことを得べし

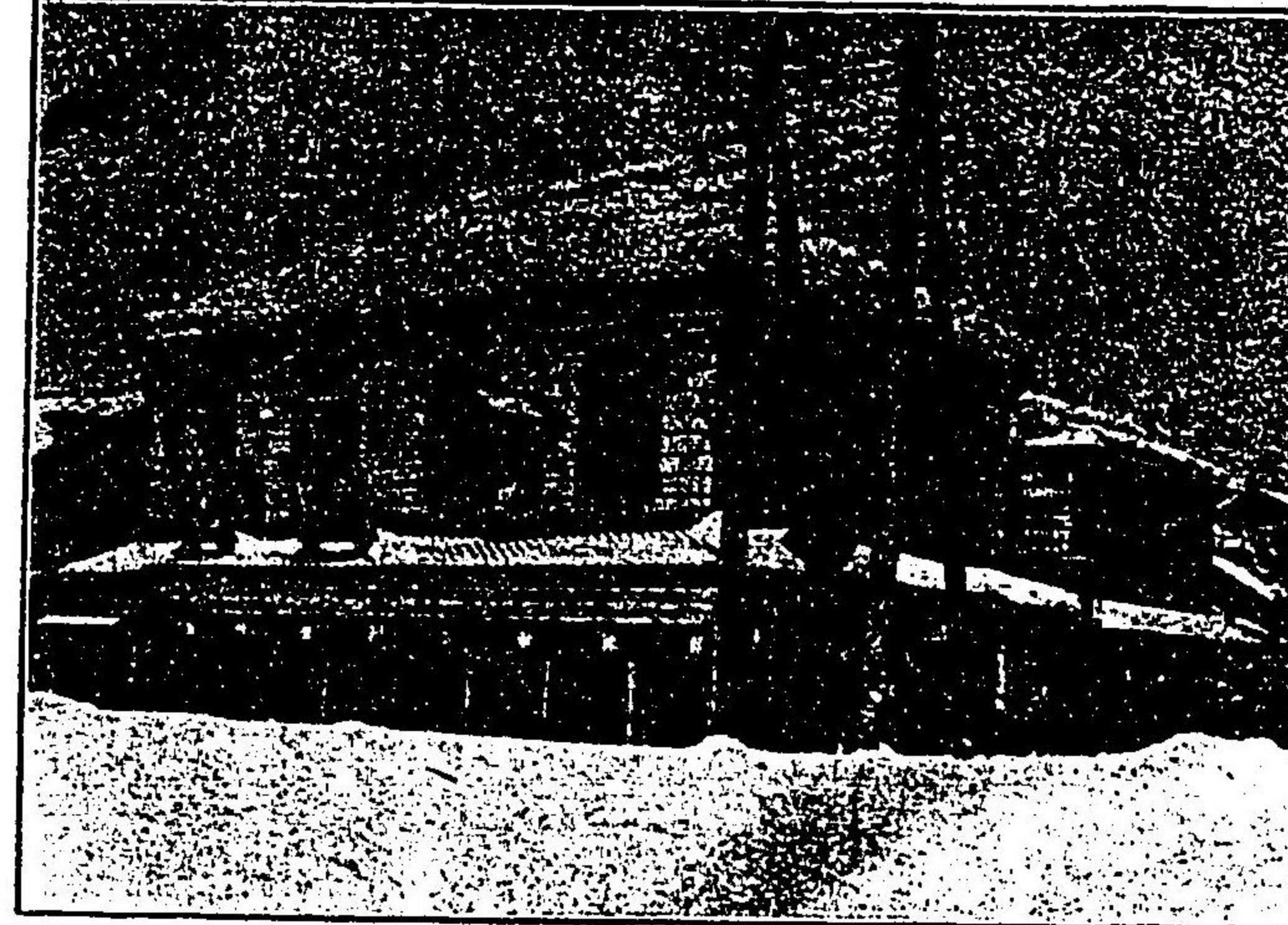
店支館函上全



店支樽小上全



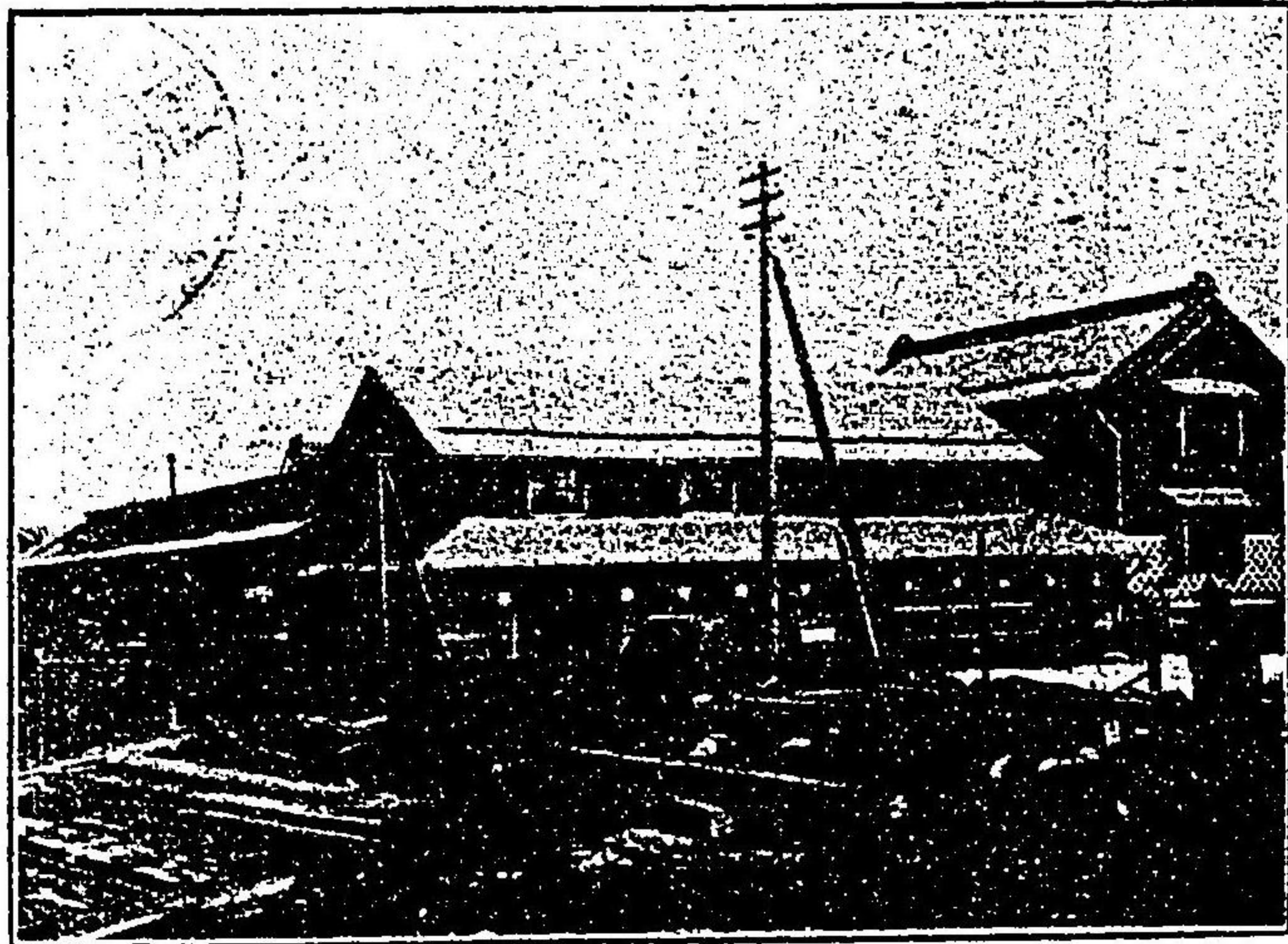
店服洋幌札上全



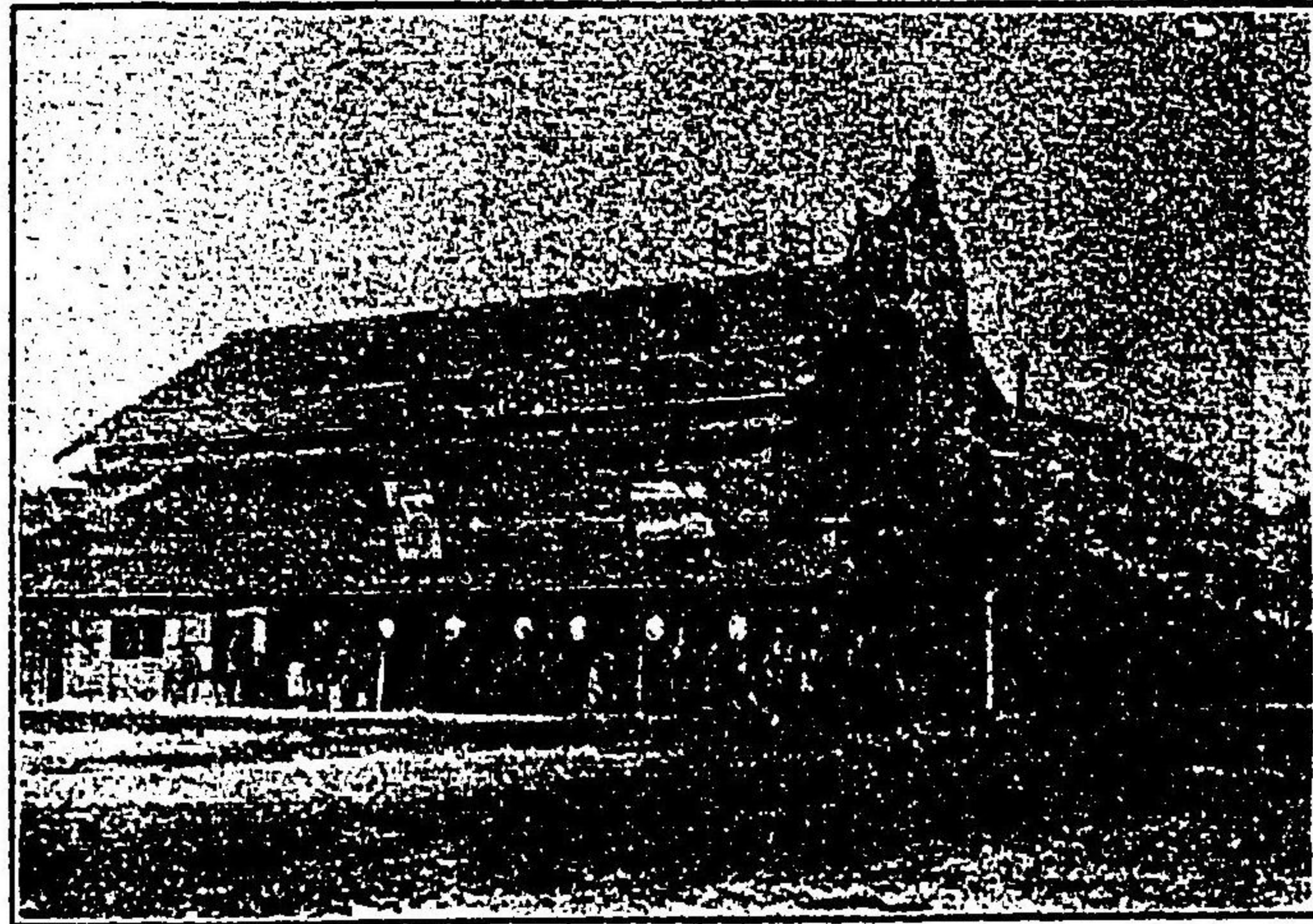
店良武藤上全



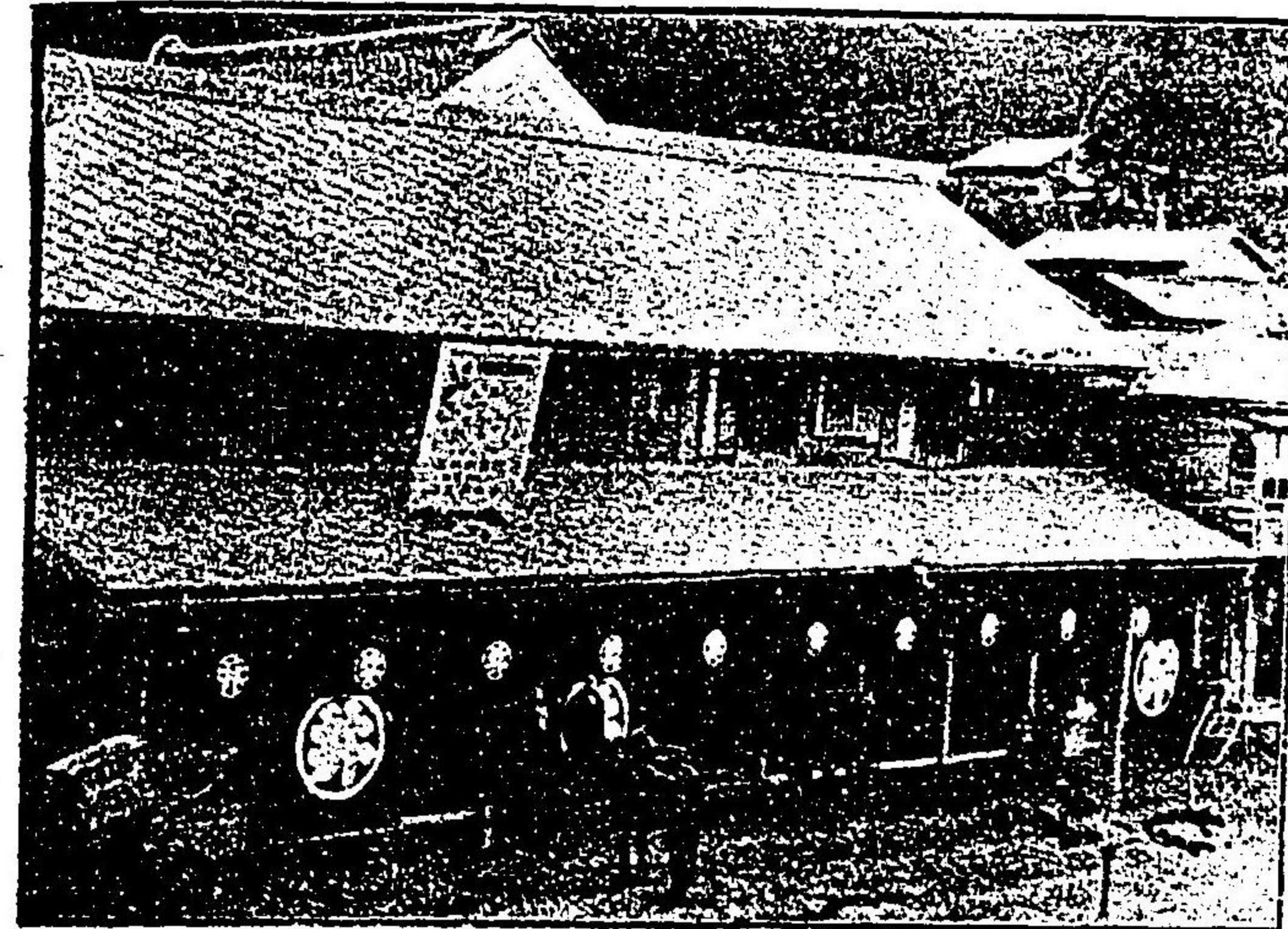
全上旭川支店



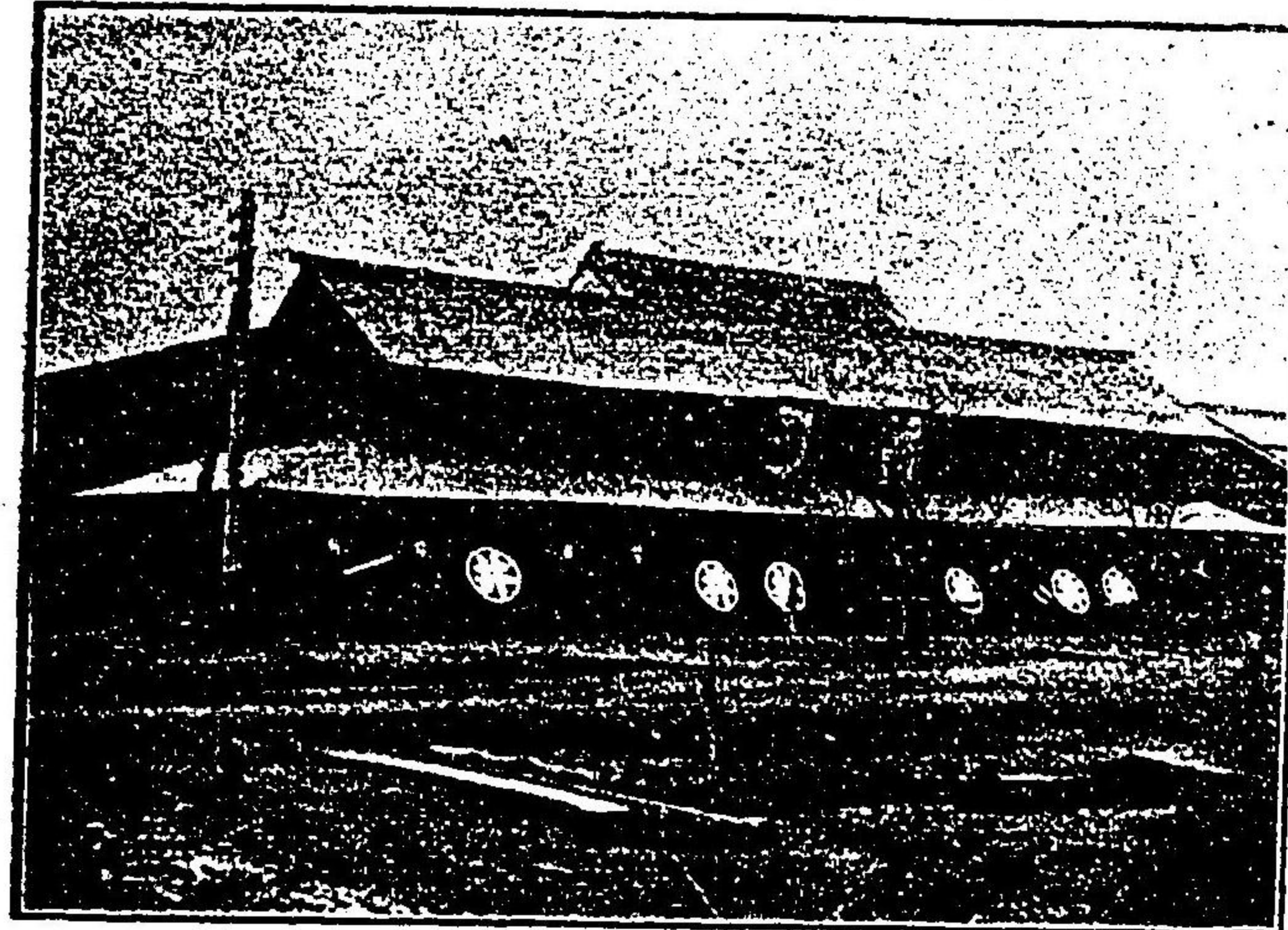
全上旭川洋物店



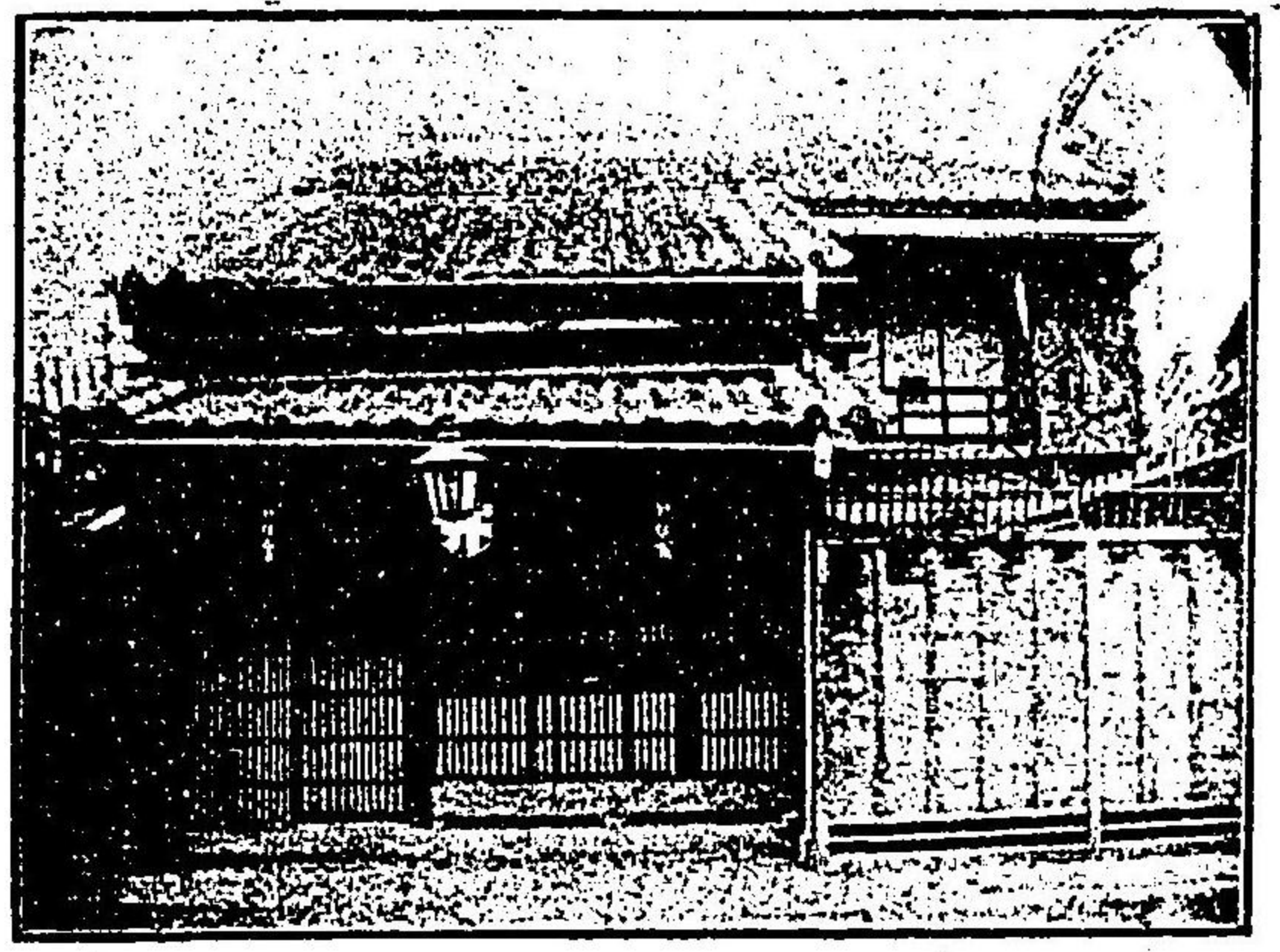
全土室蘭支店



全上瀧川支店



全上東京仕入店

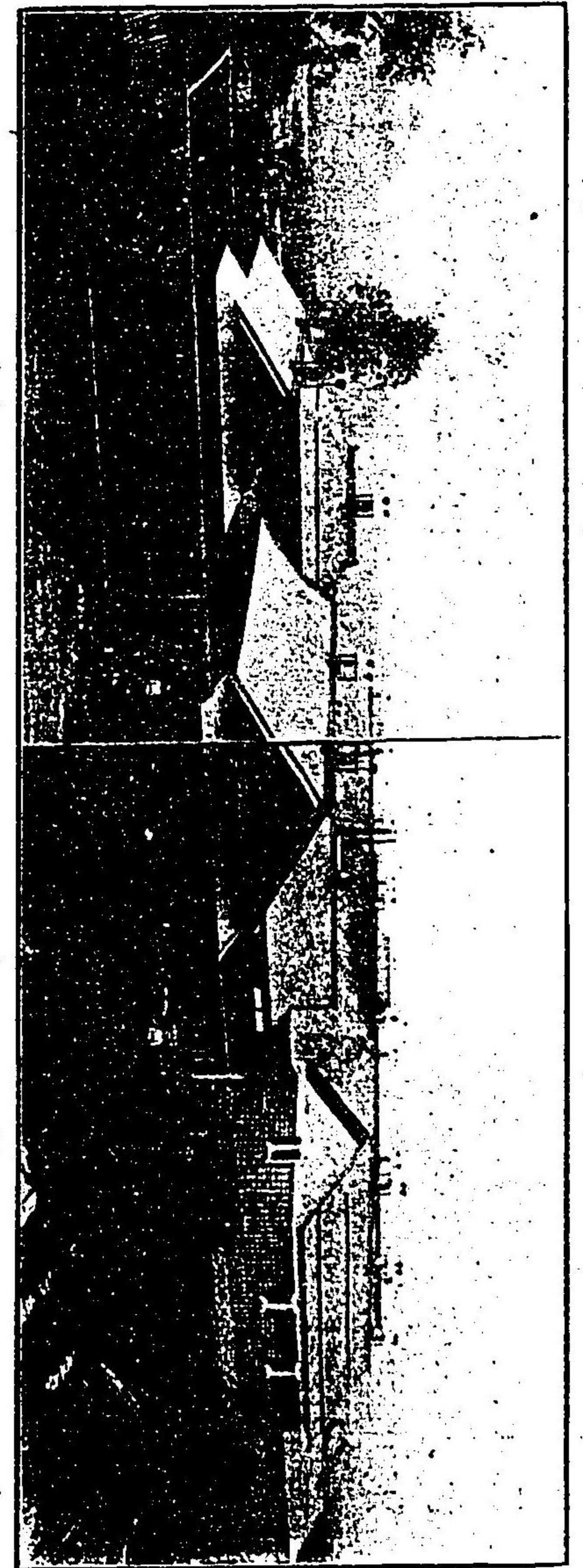


二〇 今井合名會社

全上大坂仕入店



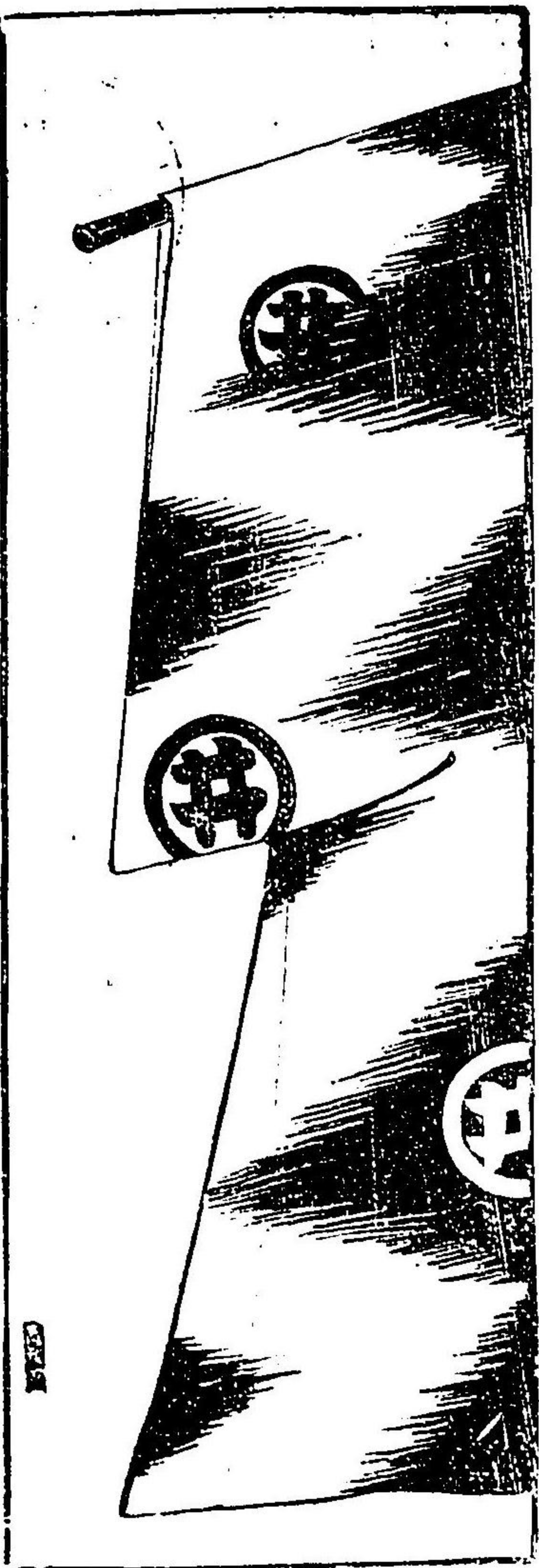
全上旭川醬油醸造所



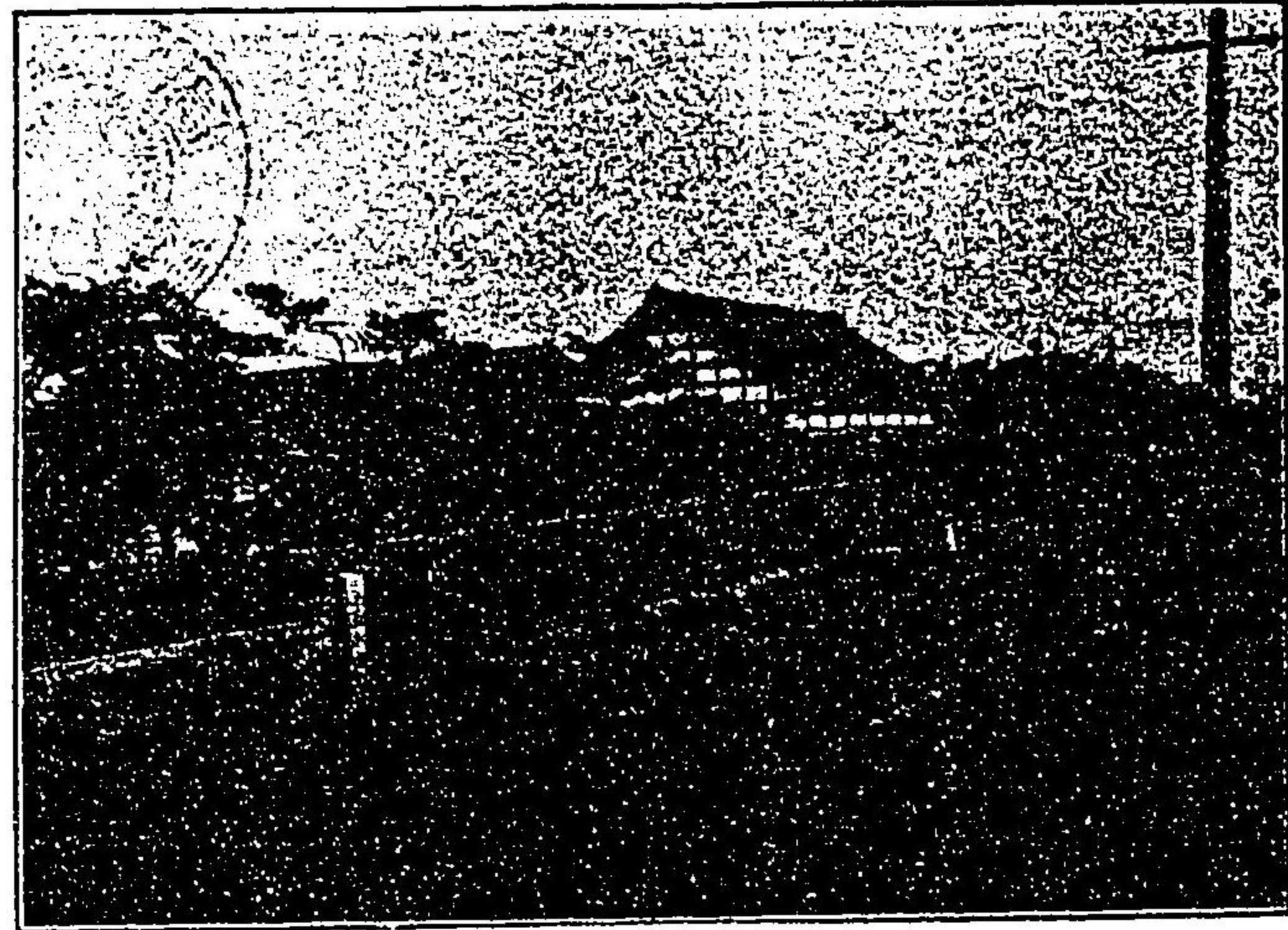
二一 今井合名會社

今井合名會社は本道屈指の大商店にして、今井藤七、今井武七、今井良七の兄弟三君を以て組織せらる、其支店は全道到る所の樞要なる都邑にあり、營業確實、信用、最も厚く、商界常に機先を制し、盛名夙に全道に轟く、商品の豊富なる品質の精良なる全道多くあらざる所なり、就中吳服、太物類に在りては三都流行の珍品は必ず先づ其本支店に顯はる、其敏捷實に驚くべし、又旭川に於て廣大の醬油醸造所を有し、純精の佳品を醸出し、販路全道に廣まり、年々の産出實に巨額に及ぶ、盛なりと云ふべし、余明治十四年札幌近郷に在り、吳服店に至ることに常に華客の織るが如きを見る、當時其販賣額既に全國に冠たるの稱あり、爾來益々擴張して今日の盛況に至る、而して恭謙、毫も誇色なし、其志望の遠大測るへからざるものあり、三君又能く思を公共に致し拓殖に裨益する所尠少にあらず、札幌區に就て之を云ふときは、實に繁華史上の元勳と稱するも敢て不可なかるべし、而して藤七君の意を用ゆる公私共に最も切實余嘗て其店員に示す所の略を知る、曰忠實、曰懇切、曰敏捷、曰信義、曰勤勉、曰不撓、亦以て其隆盛を致す所以偶然にあらずるを知るべし、富豪家の子弟にして同店に見習奉公するもの最も多し、其店規の整然として商況の益々隆昌に赴く、其態度の堂々として常に優勢なる、以て基礎の鞏固なるを知るべし、誠に商界

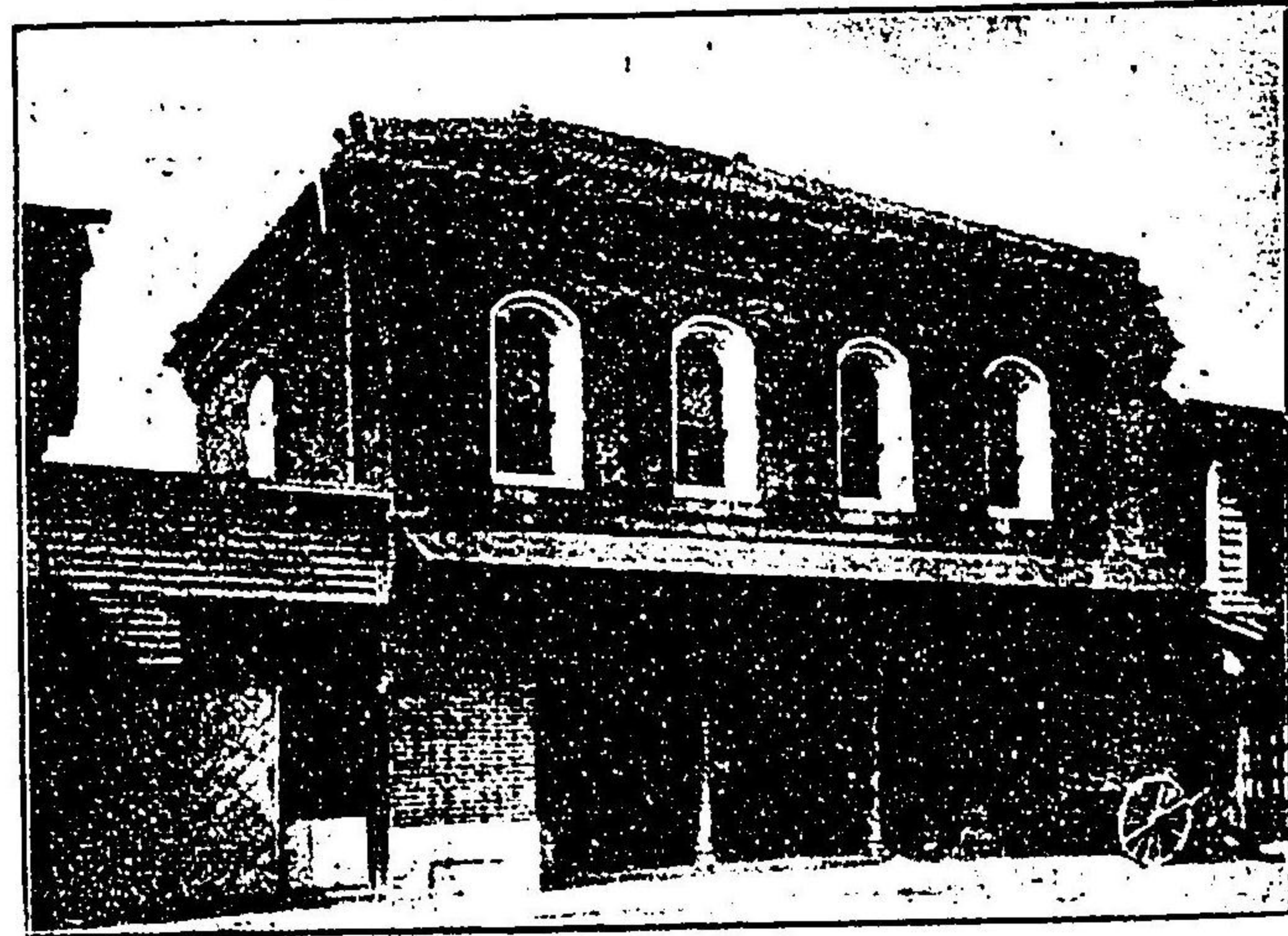
の泰斗にして實業家の龜鑑たり、本支店の營業種目は後表紙に於て別に之を掲出せり
函館支店は其位置市街の中心を占め、四通の衢に當る、其營む所吳服、太物、洋物、等の販賣に在り、之を卸部、小賣部の二大部に分てり、其吳服最も珍柄多し、支配人を淡路勘治君と云ふ、業を執る最も熱心、店員亦皆懇切、顧客日夕絶へず、而して其の卸賣に至りては四方の取引盛んにして貨物の出入常に頻繁を極む



佐野醬油醸造所



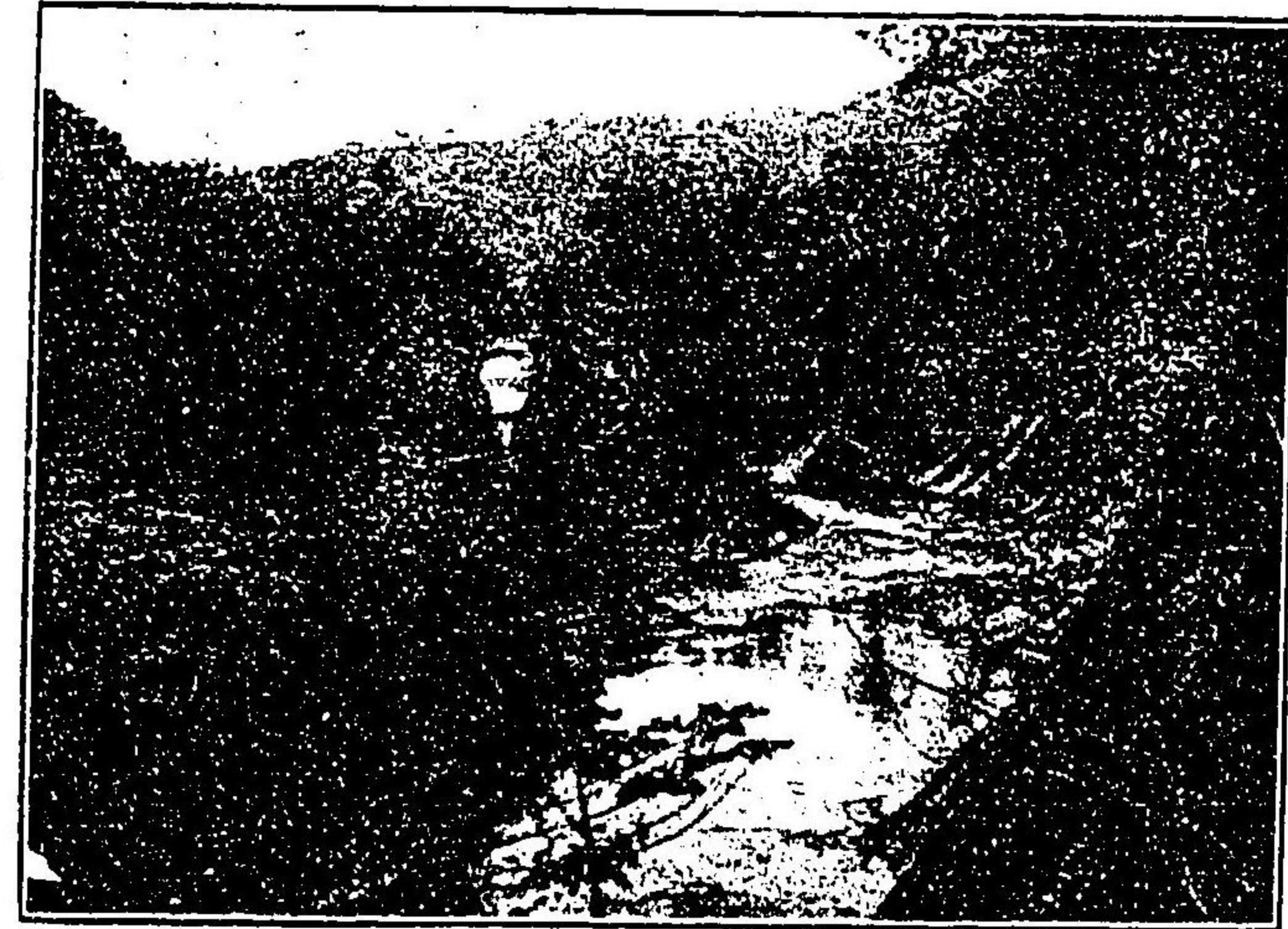
全上豐川町支店



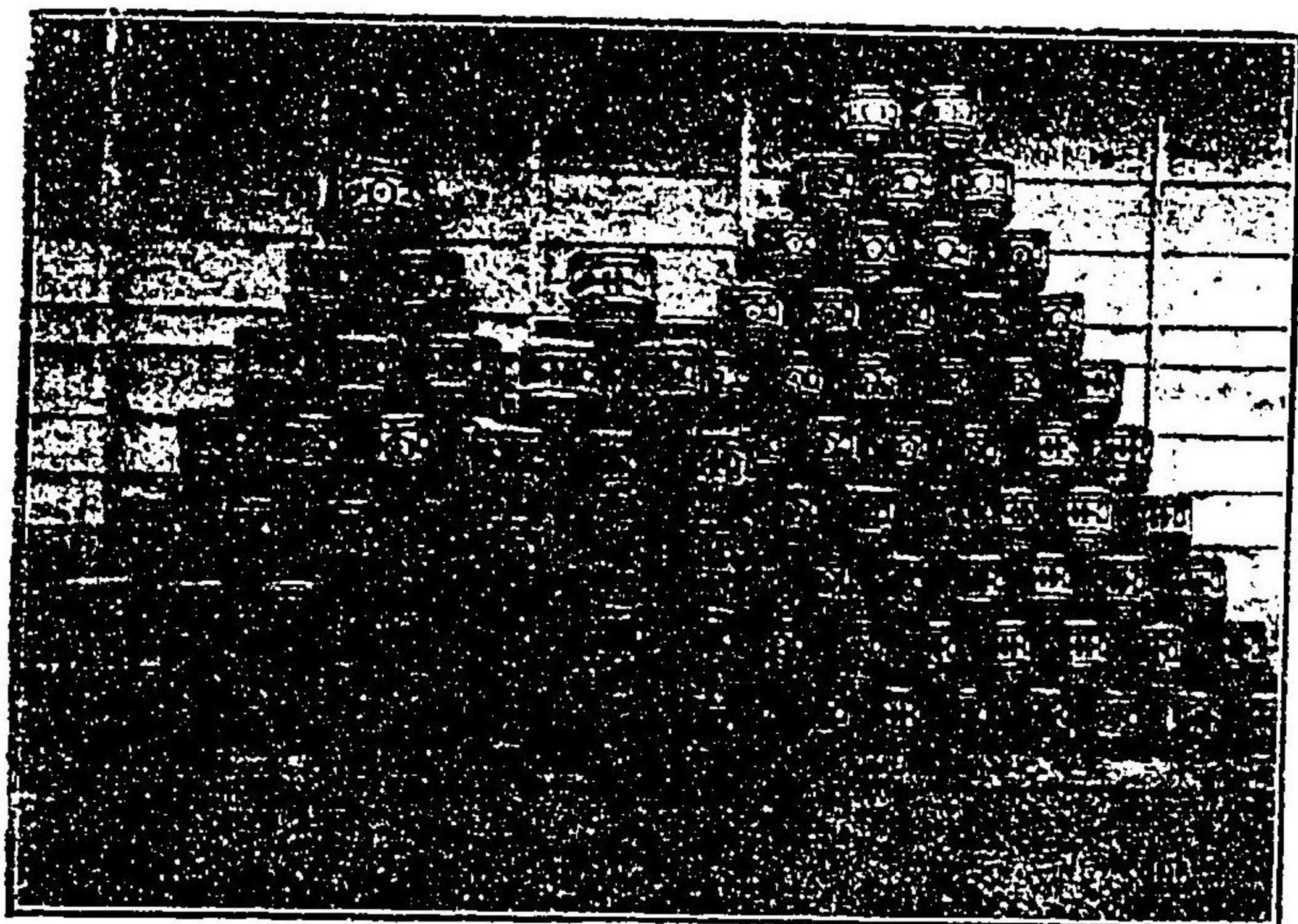
札幌圓山神社境内



石狩川上流



醬油櫛の圖



二六 佐野醬油店

醬油釀造販賣

釀造元

函館區龜田

司佐野本店

(電話一〇三番)

全 豐川町

佐野支店

(電話一〇四番)

佐野定七君は、本道に於ける第一流の富豪家にして、其盛名風に世に著はる廣大の耕宅地、を有し、其大なるものは數ヶ村に跨る、函館市街中樞要の地を占むる亦多し、君は著實温厚の長者にして慈仁に深く輿望最も高し、又能く心を國家實益の事業に注ぐ、宜なり、選はれて北海道會議員に擧げらるることや、其他諸大會社の重役となり、又公共の職を兼ねる多し、而して其醬油釀造の業に至りては、其規模宏大、年々の産生額夥しく實に本道當業の巨擘たり、大小の樽を製造して以て炊煙を擧ぐるもの數十戸に及ぶ、亦以て其盛況を推すへし、其品質の精良にして、價格の割合に低廉なるは、世間既に好評あり況んや佛國巴里大博覽會より褒狀を授與せられ其他内國博覽會褒狀の多きものをや

二七 佐野醬油店

Mitsui
Ginko.



資本金五百萬圓

積立金五百三十五萬圓

諸預金三千六百餘萬圓

東京日本橋區駿河町二番地

會社名

三井銀行

電話六十二

函館支店

函館末廣町九番

The
Oldest
Banking
Establishment

in Japan.

千歲の瀑布

二八
千歲の瀑布



激湍俄欲雨。飛沫忽生風。
霏霧霏煙底。長嘯我心雄。

佇立長松下。征衣濕翠霏。
何來雲一片。挾我遠思飛。

溪雨長苔髮。涼痕石上浮。
歸禽自天外。心與暮雲悠。

● 函館金融ノ概況

最近函館各銀行ノ總計ニ於テハ諸預金出入各五千萬圓内外ニテシ一ケ年ノ差引入金ハ毎ニ百萬圓以上アリ、諸貸付金ハ出入各二千萬圓内外ニシテ一ケ年差引出ハ毎ニ四五萬圓ナリ、爲替ハ一ケ年ノ出入各二千萬圓以上ニシテ、一ケ年ノ差引入金毎ニ二百萬圓以上ナリ、割引手形、代金取立手形等ヲ合スレハ、一ケ年ノ銀行融通高出入各九千萬圓内外ナリ、又銀行以外更ニ貸金ヲ爲ス者多シ、金融ハ毎年三月ノ頃各漁場各般仕込ノ時ニ於テ資金ノ需要多キヲ通例トシ其他ハ漁業ノ豊凶等ニ伴フテ繁閑ヲ來タスヲ常トセリ概スルニ最モ繁忙ナルハ每年下半年期魚粕出盛リノ時ナリトス

○又郵便貯金預拂各一ケ年七萬圓内外ニシテ郵便電信爲替金ハ出入各八十八萬圓内外ナリ、郵便物數ハ一ケ年出入各五百萬通以上ニシテ電信數ハ出入各四十萬通以上ニ及ベリ

三井銀行の本道に於ける支店は函館小樽にあり、函館支店は其開設明治四年にありて、諸銀行中最も舊し、東京本店創始は今を距ること二百二十餘年前にあり、其盛名夙に内外に轟く、最も信用ある帝國屈指の銀行なり、其支店及取引先の多き、全國の都邑到る所にあらざるなし、明治の初め本道に開拓使を置かるゝや、政府は維新の革政に際し、財政の事未だ完からず、而して拓殖の事實に急務に屬す乃ち、當時の三井組に命ずるに兌換金券發行の事を以券發行の嚆矢とす、爾來同行の本道に於ける取引は舊縁によりて益々其盛況を呈し、北海道實業界に益する所鮮少にあらず、函館支店支配人を田宮善次郎君と云ふ、温良恪謹にして斯業の經歷に富み、最も徳望あり、實業家皆之に信賴す、營業日に繁盛なり

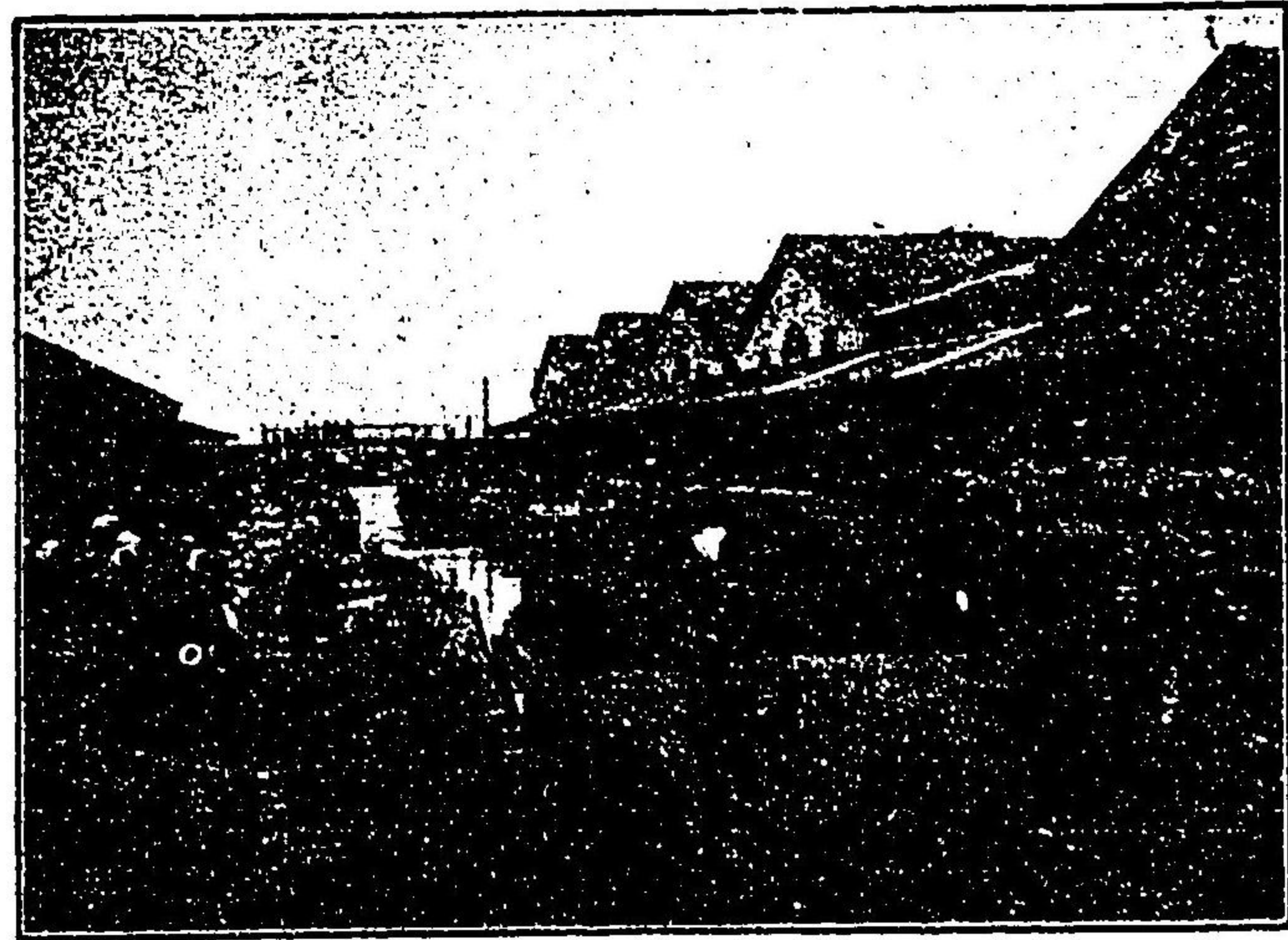
函館支店 田宮善次郎君 支配人



全上函館支店



全上倉庫の一部



三一 日本郵船會社函館支店

日本郵船株式會社

N. Y. K.

社長 近藤廉平君



三〇 日本郵船會社函館支店



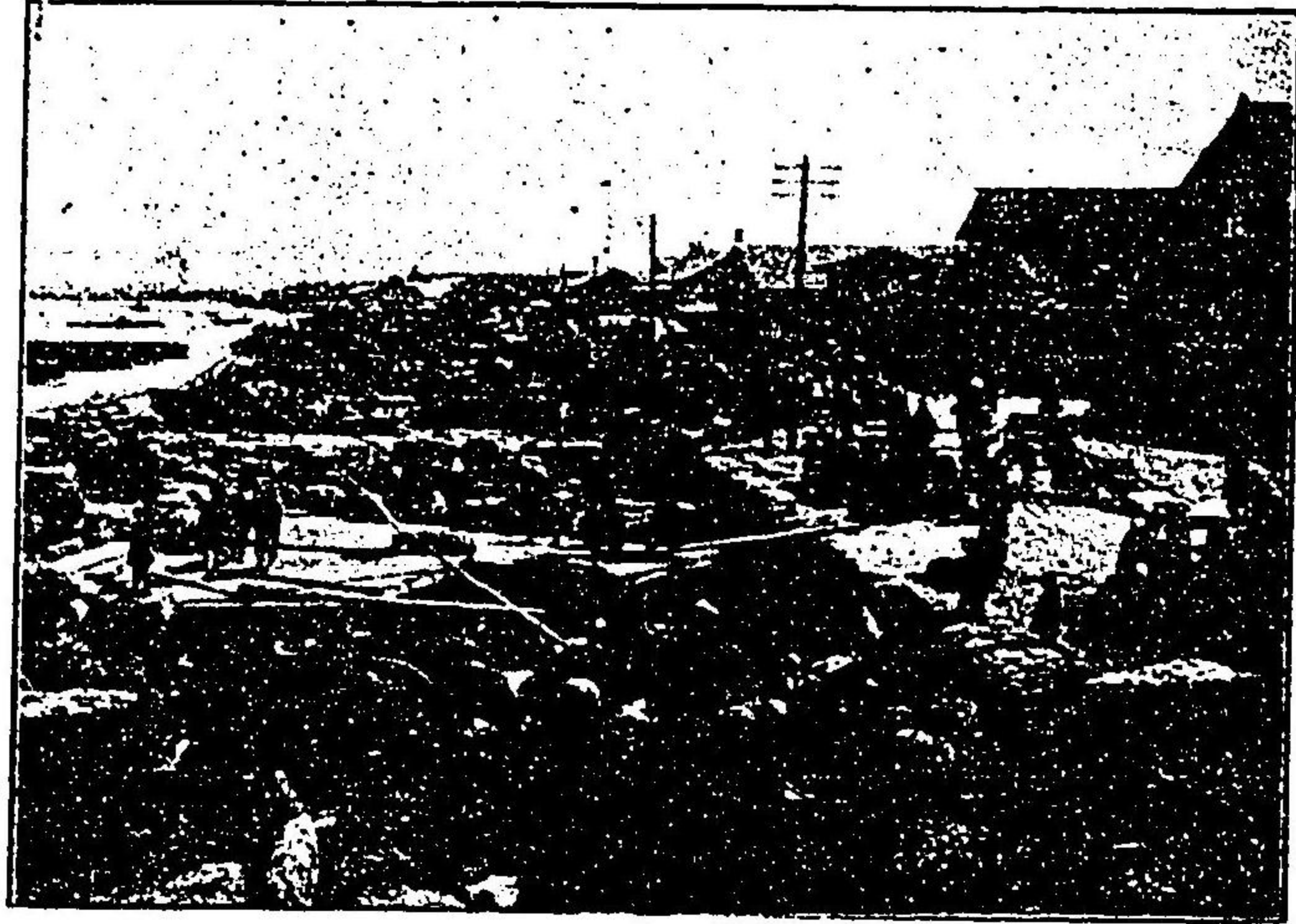
函館支店長 榎茂夫君

全上船客待合所



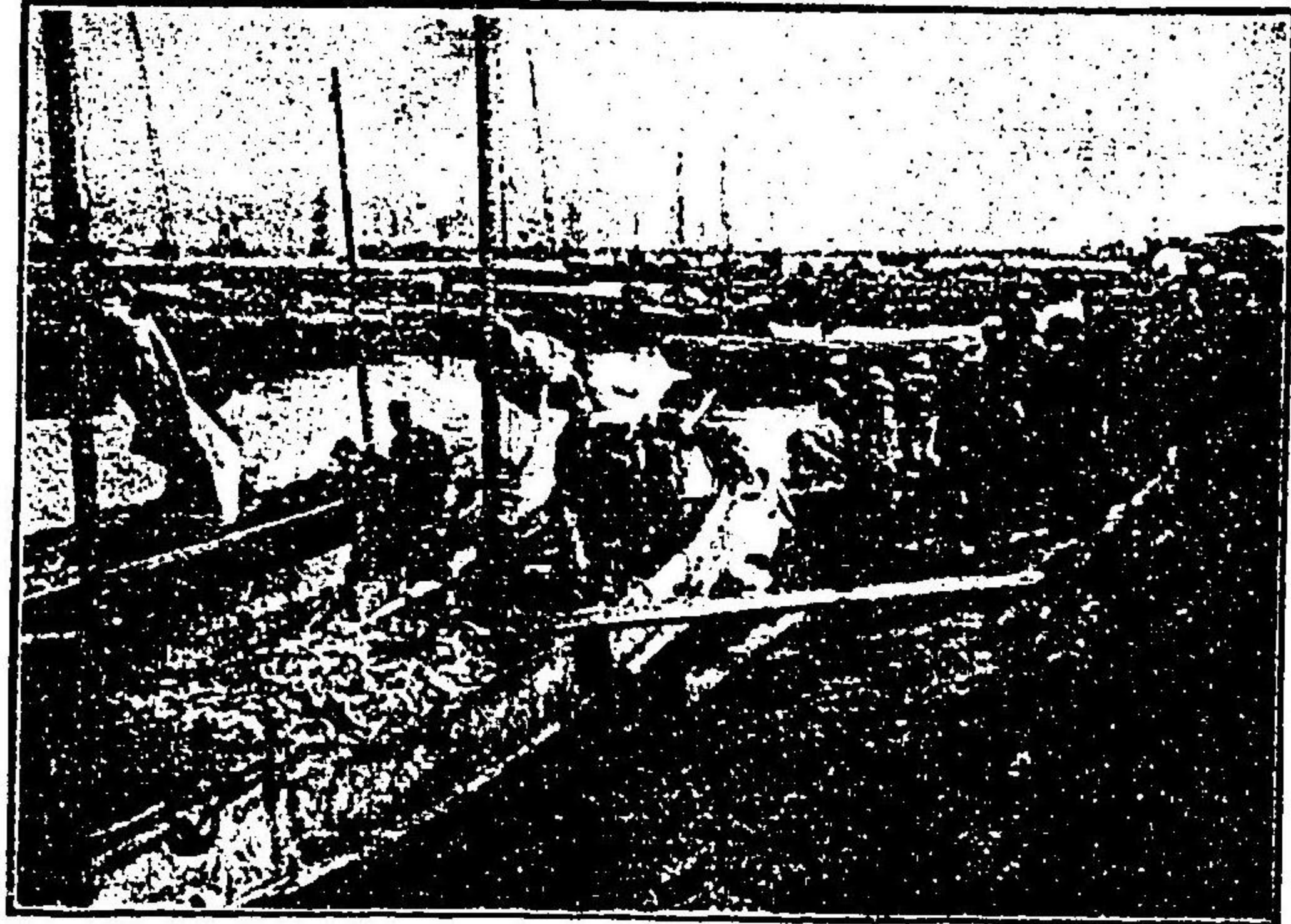
三三 日本郵船會社函館支店

全上前海岸



三三 日本郵船會社函館支店

全上



日本郵船株式會社

函館支店

船場町十九番地

電話 一三七八番
一三七番(宿直兼用)

船客待合所

東濱町十六番地
(電話 五四八番)

◎起原及び現在

明治十八年十月の創立に係り爾來十七の
星霜を閲し其間漸次社運の隆盛を來たじ

今日に在りては世界屈指の一大汽船會社たり現在の内外航路は左の如し

- 歐洲線 孟買線
- 濠洲線 米國線
- 橫濱、上海線 神戸、浦鹽線
- 神戸、韓國、北清線 神戸、天津線
- 神戸、牛莊線 小笠原嶋線
- 神戸、小樽、東廻線 橫濱、四日市線
- 橫濱、神戸、小樽西廻線 臺灣線
- 青森、室蘭線 青森、函館線
- 函館、根室線 根室、紗那線
- 根室、網走線 函館、小樽線
- 小樽、稚内線 稚内、網走線

所有汽船七十八艘、總噸數二十四萬七千六百五噸
本社所在東京市麴町區有樂一丁目一番地

内外の要港には支店十八、出張所十七、代理店四十四あり

●北海道關係定期航路

一青森、室蘭線 遞信省命令航路

毎日一回青森は午前十一時三十分、室蘭は午後十時に發船し函館に寄港す、函館出帆青森行は午前十時、室蘭行は午後十時なり、本線は本嶋、北海道間交通の要航路にして、美麗快速なる汽船薩摩丸、肥後丸及陸奥丸、の三艘を以て之れに充てり

二函館、青森線 自由航路

毎夜函館は午後十時、青森は夜半十二時出發し翌朝双方へ到着す、但會社船線都合により、欠航することもあり

三函館、根室線 北海道廳命令航路

毎月六回函館出發往復航共釧路に寄港し、厚岸、霧多布は隔航に寄港す、但一月、二月、三月は毎月六回の内一回を釧路に止むることあり、本線は根室、紗那線、根室、網走線に直通し、供用船舶は斬新の構造にして、壯麗快速の姉妹汽船即ち十勝丸、天鹽丸なり

四根室、紗那線 北海道廳命令航路

五月より十一月迄毎月三回、十二月一回の發船を爲し、往復航共留別に往航乳石路、斜古丹に寄港し、五月九月の航路中各一回得撫島、床丹に寄港す、本線には函館、根室線の汽船を共用せり

五根室、網走線 北海道廳命令航路

五月より十一月迄毎月三回、四月及十二月各一回の發船を爲し、往復航共泊に、四月より十二月迄毎月一回往航又は復航斜里に寄港す、本線には函館、根室線の汽船を共用す

六函館、小樽線 北海道廳命令航路

四月より十月迄毎月五回、十一月より三月迄毎月三回、函館を發船し往復航共、江差、壽都、岩内に寄港し、往航又は復航隔便に奥尻島、釣懸に寄港す、本線は稚内、網走線に直通し、最新建造の壯麗快速なる汽船釧路丸、及北見丸を以て通航せり

七稚内、網走線 北海道廳命令航路

四月より十月迄毎月五回、十一月及十二月迄毎月二回の航海を爲し、往復航共枝幸、紋別、湧別に四月より十月迄毎月三回、往復航共雄武、常呂に十一月及十二月毎月二回、往復航共雄武に寄港す、供用船舶は函館小樽線と同一なり

八小樽、稚内線 北海道廳命令航路

四月より十一月迄毎月五回、十二月より三月迄毎月三回、小樽を發船し、往復航共増毛、焼尻、天賣、鬼脇、鴛泊、香深に寄港す、本線には美麗輕快の新造汽船日高丸、を用ゆるなり

九神戸、小樽東廻線遞信省命令航路

三日毎に一回、往航は神戸、横濱、荻野濱より來り小樽向け、復航は小樽より來り荻野濱、横濱、を経て神戸に向け函館を發船し、復航三回の内一回は四日市に寄港す、本線には巨大堅牢の汽船七艘、を以て之れに充つ

十横濱、神戸、小樽、西廻 遞信省命令航路

毎週一回往航横濱、神戸、尾ノ道、下ノ關、境、敦賀、伏木、直江津、新潟、酒田、土崎より來り小樽に向け、復航は小樽より來り土崎、酒田、新潟、直江津、伏木、敦賀、境、下の關、尾の道、神戸、鹽津を経て横濱に向け函館を發船し、往航中毎月一回七尾、四回の内一回能代に、復航中四回の内一回能代に寄港す、但七尾寄港のときは尾の道、能代寄港のときは直江津の寄港を省く、本線寄港中冬季は直江津、新潟、酒田、土崎、

能代の寄港を止め、佐渡、船川に代ふ、巨大堅牢の汽船六艘を使用す
 前第一項より第八項に至る各航路の豫備として、汽船住の江丸、尾張丸、東海丸、田子の浦丸、駿河丸、の數艘あり

更に三十六年七月一日より青森室蘭間直航定期を開始せり青森發は毎日午後十時室蘭發は毎日午後五時なり皆是れ旅客の便を謀るを要とせり

● 荷物

會社は貨主の便益を主とし町噺に其荷物を取扱ひ迅速に輸送し定期船の外商況に應じ時に臨時船を回航するのみならず、函館と直接通航せざる地方たりとも會社の航路或は特約ある他航路なれば横濱、神戸、等便宜の地に於て接續輸送を爲せり又特に小荷物（見本品贈進物其他の小荷物及引越荷物等）は東京、横濱、大阪、神戸、京都、伏見の各地は其市内に限り早達持届けの取扱を爲すにより、貨主は出荷の時持届扱として申込みを便利とす、其他日本鐵道株式會社、北海道炭礦鐵道株式會社、北海道鐵道部、の三線と連帶運輸の特約あり、小荷物速達、荷物の輸送を取扱ふ外、尙北越鐵道株式會社とも連絡の特約あり、越後國柏崎、長岡、見付、三條、加茂の各驛迄は新潟より更に同社の汽車送とし、海陸通

して運送の引受をも爲すべし

● 船客

船客待合所内に於て事務を取扱ふを以て船客に於て乗船切符を購求せらるゝには取次人を介するも、直接同所へ申込まるゝも隨意たるべし、而して函館と直通せざる航路たりとも、専ら船客の便利を圖り、需めに應じて横濱、神戸、等便宜の場所に於て接續の通切符を發賣す、其他日本鐵道株式會社、北海道炭礦鐵道株式會社、北海道鐵道部の三線と特約連絡し、旅客及手荷物の輸送を取扱ふ、又函館上陸船客の爲め手荷物組合ありて、親切に手荷物の世話を爲し船客乗込上陸の爲めには巴港組なる會社專屬あり、一定賃錢を受けて町噺に送迎せり

○ 從函館至各地船客乘船賃表

地 名	一 等	二 等	三 等
青 森	貳圓七拾錢	壹圓八拾錢	九 拾 錢
室 蘭	參圓六拾錢	貳圓四拾錢	壹圓貳拾錢

同往復	神戶(東廻線)	四日市	同洋食付往復	同洋食付	同往復	橫濱	同洋食付往復	同洋食付	同往復	荻ノ濱	網走(稚内網走線)
參拾貳圓	拾八圓	拾五圓五拾錢	貳拾五圓	拾四圓	拾九圓	拾壹圓	拾四圓	八圓	拾壹圓	六圓	貳拾五圓參拾錢
貳拾貳圓	拾參圓	拾四圓			拾貳圓	七圓			七圓	四圓	拾九圓貳拾錢
	六圓五拾錢	五圓				參圓五拾錢				貳圓	九圓六拾錢

敦賀	七大尾木	直江津	新潟、佐渡	酒田	船能川代土崎	同洋食付往復	同洋食付	同往復	小樽(東、西廻線)	同洋食付往復	神戶洋食付
拾九圓五拾錢	拾六圓五拾錢	拾五圓	拾貳圓	九圓	七圓五拾錢	拾六圓	九圓	拾貳圓	七圓	四拾參圓	貳拾四圓
拾參圓	拾壹圓	拾圓	八圓	六圓	五圓			九圓	五圓		
六圓五拾錢	五圓五拾錢	五圓	四圓	參圓	貳圓五拾錢				貳圓五拾錢		

境	貳拾四圓拾六圓八
下門	貳拾七圓拾八圓九
尼	參拾壹圓五拾錢 貳拾壹圓拾圓五拾錢
神戸(西廻線)	參拾參圓貳拾貳圓拾壹圓

本表中青森室蘭に限り特に上下船解貨は會社之を負擔せり

小兒運賃は四歳未満無賃、四歳以上十二歳未満半額とす

一二等往復運賃定額のみき航路たりとも船客の望に依り復航運賃定額の貳割引を以て往復切符を發行することあるへし、但青森室蘭を除く

手荷物は左の量目を限り無賃にて携帯するを得、但菴包の類は手荷物と爲すことを得ず

一等船客 拾貳貫目 二等船客 九貫目 三等船客 六貫目

船客若し中途寄港に於て、下船滯陸を望むときは本船に就き滯陸券を請求し、他日再び乗船の節は其地會社へ申出乗船切符と引替するとの便あり

近藤社長は曾て久しく歐、米に周遊し、經歷社交共に廣く、徳望最も高く、其英名夙に内外に轟く、其勢力の極めて大なるは余の喋々を要せず、紳商支店長亦内外實業の經歷に富み、最も清、韓、露の事情に詳かに、而して學術材幹共に秀拔夙に交際場裡の泰斗を以て稱せられ、内外の貨主多く望を屬す、君更に北海道公益の爲めに斡旋する所少からず、社運日に隆盛なり





蓬萊家

旅人宿

東京市日本橋通二丁目

中田與三兵衛

(特本局一、二二三番)

東京市芝區芝口一丁目

中田與一郎

(新橋一、〇一五番)

横濱海岸通五丁目

中田鶴

兼回酒業 (電二四八番)



◎營業品目

- 洋酒食料品食器
- 葉卷蓆並紙卷蓆
- 流行珍柄羅紗地
- 洋小間物並メリヤス類
- 護謨長短及子供靴
- 舶來諸品洋服調進
- 當別村トラピスト修院吟製品質優等生バタ

函館東濱町

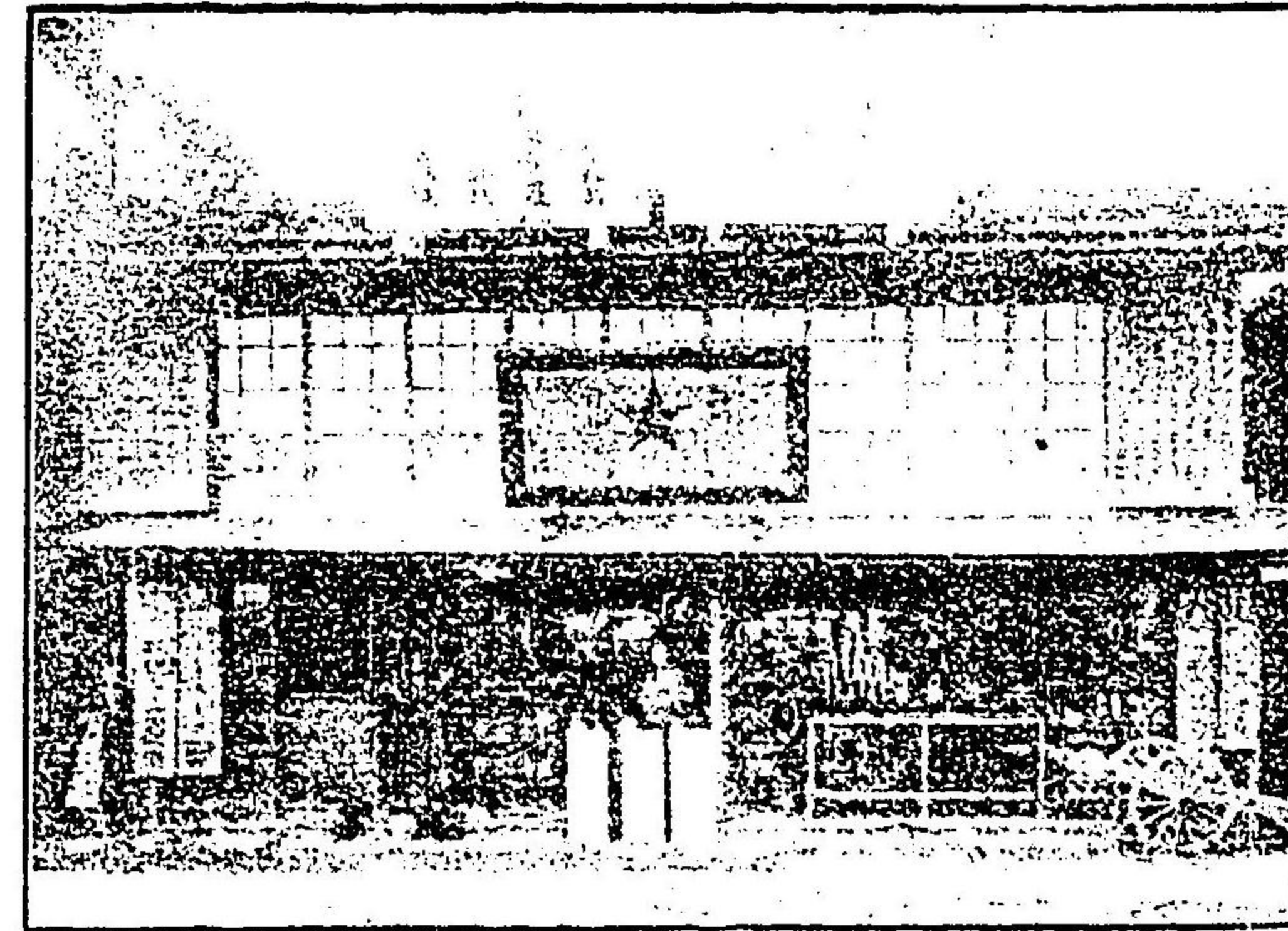


宗西島屋

洋物部
洋服部

電話(二五四番)電略(カワ)

西島屋川口商店



四八 西島屋川口商店

Wine Provisions

Cigarettes Goods Wollen Cloth

Boots and Shoes

Hakodate Nishijima Shop.

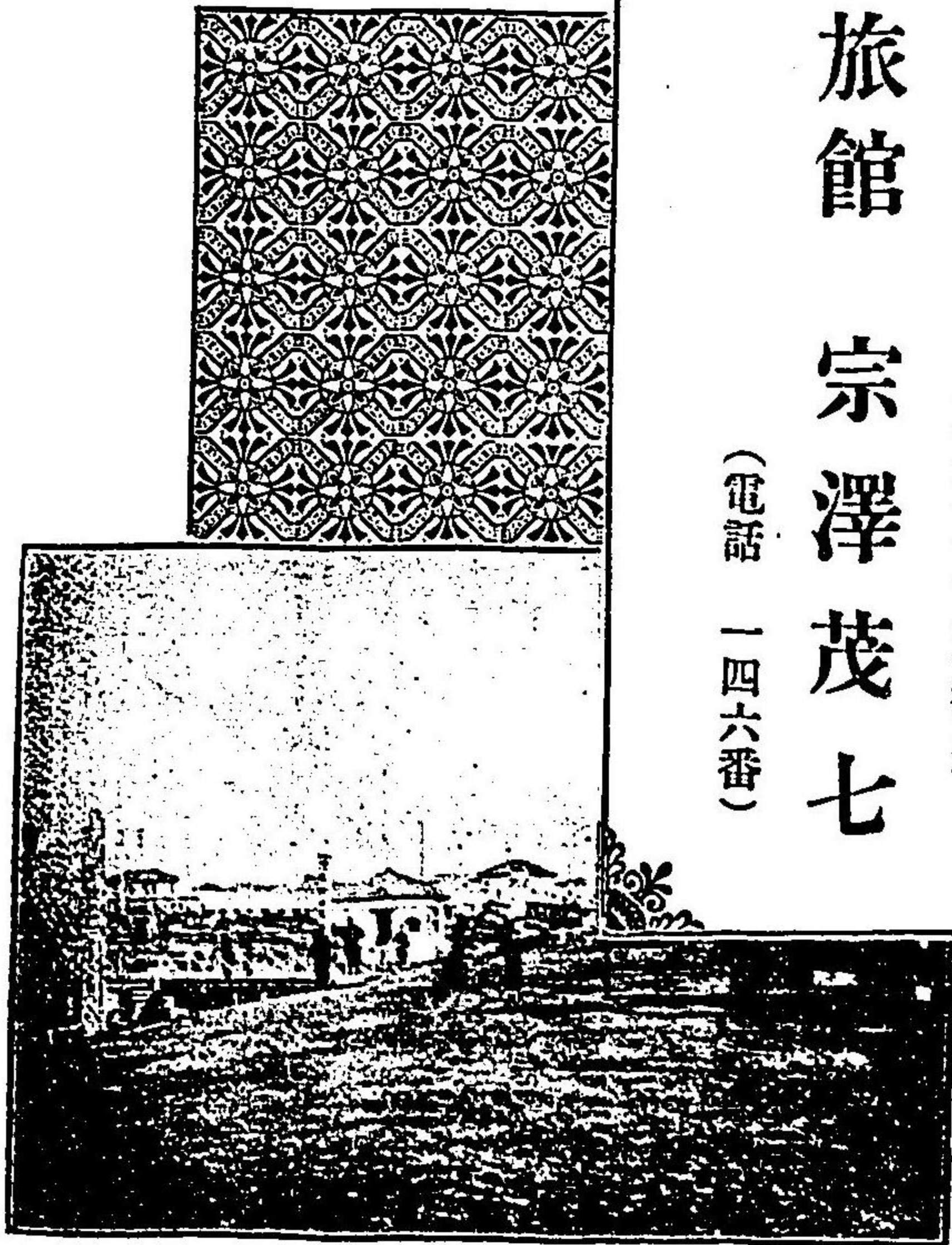
西島商店は店主を川口金次郎君と云ふ、屈指の豪商にして
 温良の人あり、夙に歐米の事情に通じ、信用内外人に厚し
 横濱其他に支店を有し盛に本邦物産を海外に輸出し、又洋
 物類は直輸入を爲すもの多し、西島屋の號、早く海外に振
 ふ、函館支店の位置は、最も船舶に便なる所に在り、店員
 亦忠實機敏其人を得て、取引精確營業日に隆盛を加ふ

四九 西島屋川口商店

函館區東濱町十三番地

朴旅館 宗澤茂七

(電話 一四六番)



函館東濱町棧橋

朴旅館は東京、小樽に支店を有し、又回漕業を兼ね、函館港に入りて先づ眼に映するものは**朴**三層樓とす、樓に登りて快哉を呼ぶものは室内の麗綺にして眺望の佳絶なるにあり、滯留して、而して旅情を忘るゝものは其待遇の懇切なるに依る、食に對して杯を呼ぶものは珍味の饒きを以てなり、上流の人多く宿す、本道屈指の旅館なり、客室數十あり、來往ノ華客春秋絶ユル時ナシ、營業日に繁榮なり、上陸、乗船、亦極めて便なり、主人を宗澤茂七君と云ふ、着實にして順良の人なり

岡本館 旅船東中 電話二二三 八二八番 取扱番 所地



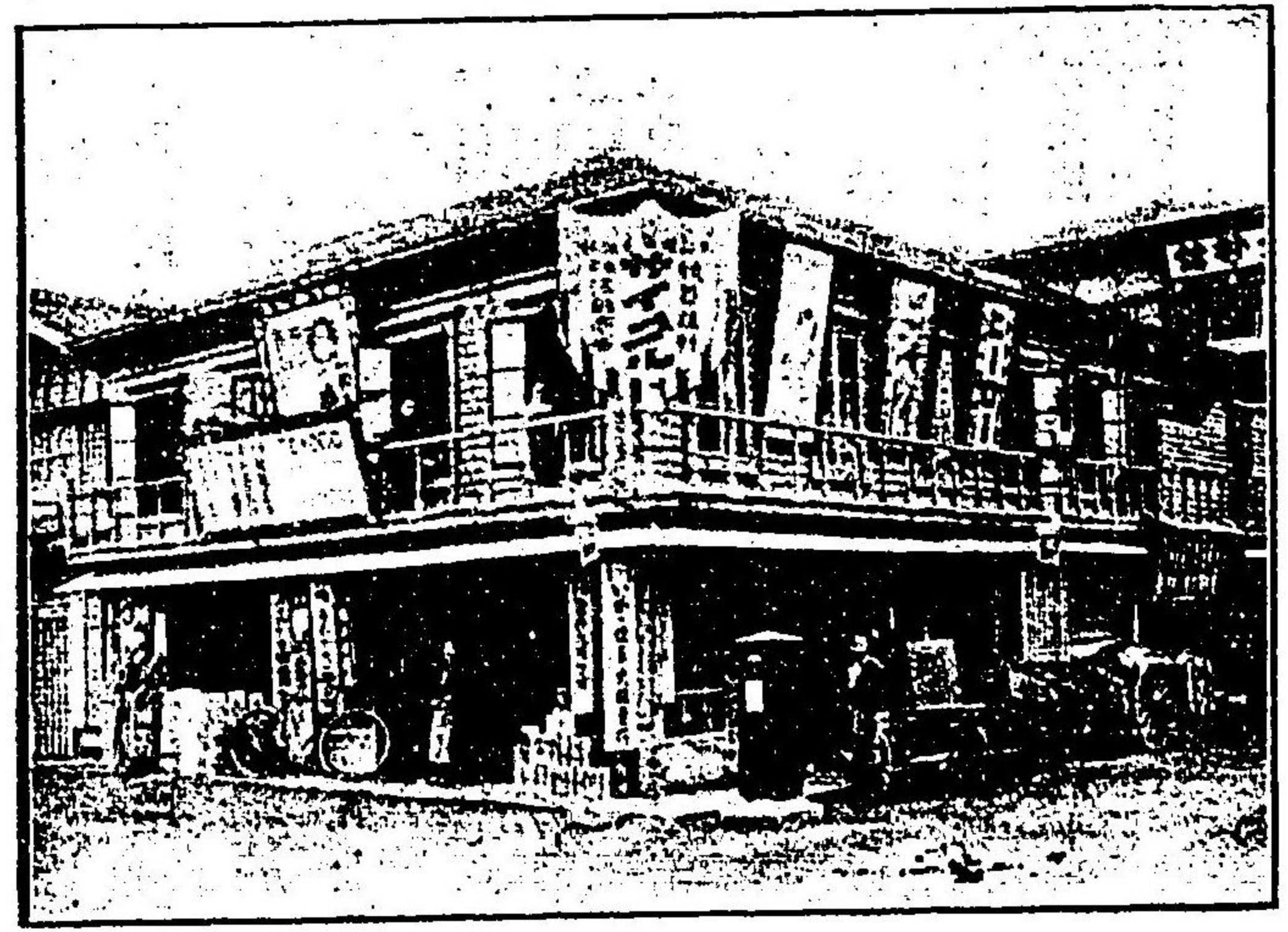
岡旅館は本道屈指の旅店にして、貴顕紳士の來往するもの多くは此に宿す、兼て回漕業を營む、各室清雅、優美客に對する最も懇切、食膳常に美味を供す、上陸、乗船、貨物の取扱極めて便なり、主人を岡七郎兵衛君と云ふ、着實にして風雅の嗜みあり、裝飾、器具の優美なる謂ある哉、客室數十あり、中庭の苔緑にして尺鯉清池に躍り、噴水高く散して珠玉をなす、清冷の趣亦、以て旅情を慰するに足る、顧客常に絶へず、

函館東濱町九番地

東洋堂高須商店

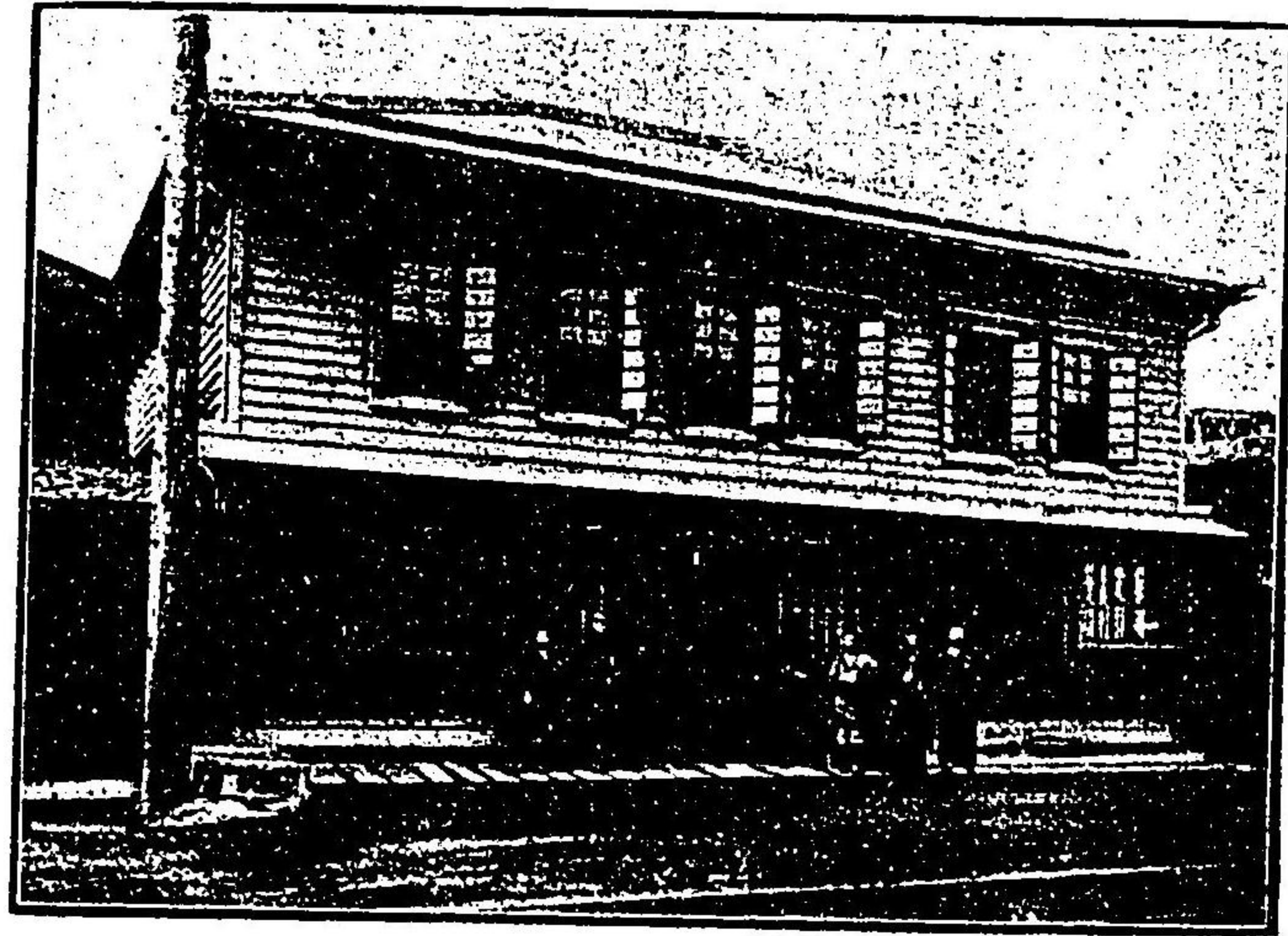
(電話一一〇番)

東洋堂高須商店は函館東濱町棧橋前最も船客往來に便なる所にあり、洋酒、食料品、罐詰、和洋菓子、和洋煙草各種、北海道産物類、其他雜貨を販賣せり、店主を高須長七郎君と云ふ、温良直實にして信用内外國人に厚く、營業日々に繁榮なり



東洋堂高須商店

樋口回漕店



五四 樋口回漕店

函館東濱町二十七番地
太 樋口回漕店

(電話一五七)

樋口回漕店は店主を樋口多喜藏君と云ふ温厚の人なり、營業鞏固にして沿海の回漕店中最も信用あり、名聲早く振ふ、就中本道西海岸の岩内、壽都、江差等の方面に於ては、東京灣汽船會社の元扱店たり、鯨粕は實に本道第一の物産にして、西海岸は其重なる産地とす、而して當店の得意最も此方面に多く、營業日に隆盛を加ふ

黒井運送部



五五 黒井商店

函館船場町二十二番地
石 黒井商店

(電話六〇三)

黒井運漕部は大小數十の船舶を有して海運業、運送業、解業を兼ね、函館港に在りては最も須要の營業に屬し、其名夙に著はる當港船舶出入の頻繁を加へ貨物集散の増加するに従て、其營業漸次に隆盛に至る、沿海の得意最も多く、其使用する所の船夫數百人に及ぶ、亦以て其盛況を知るべし、店主を黒井房吉君と云ふ、沈毅にして篤實、事に處する極めて敏活なり、店員亦懇切なるを以て信用極めて厚し

内山金山兵衛君



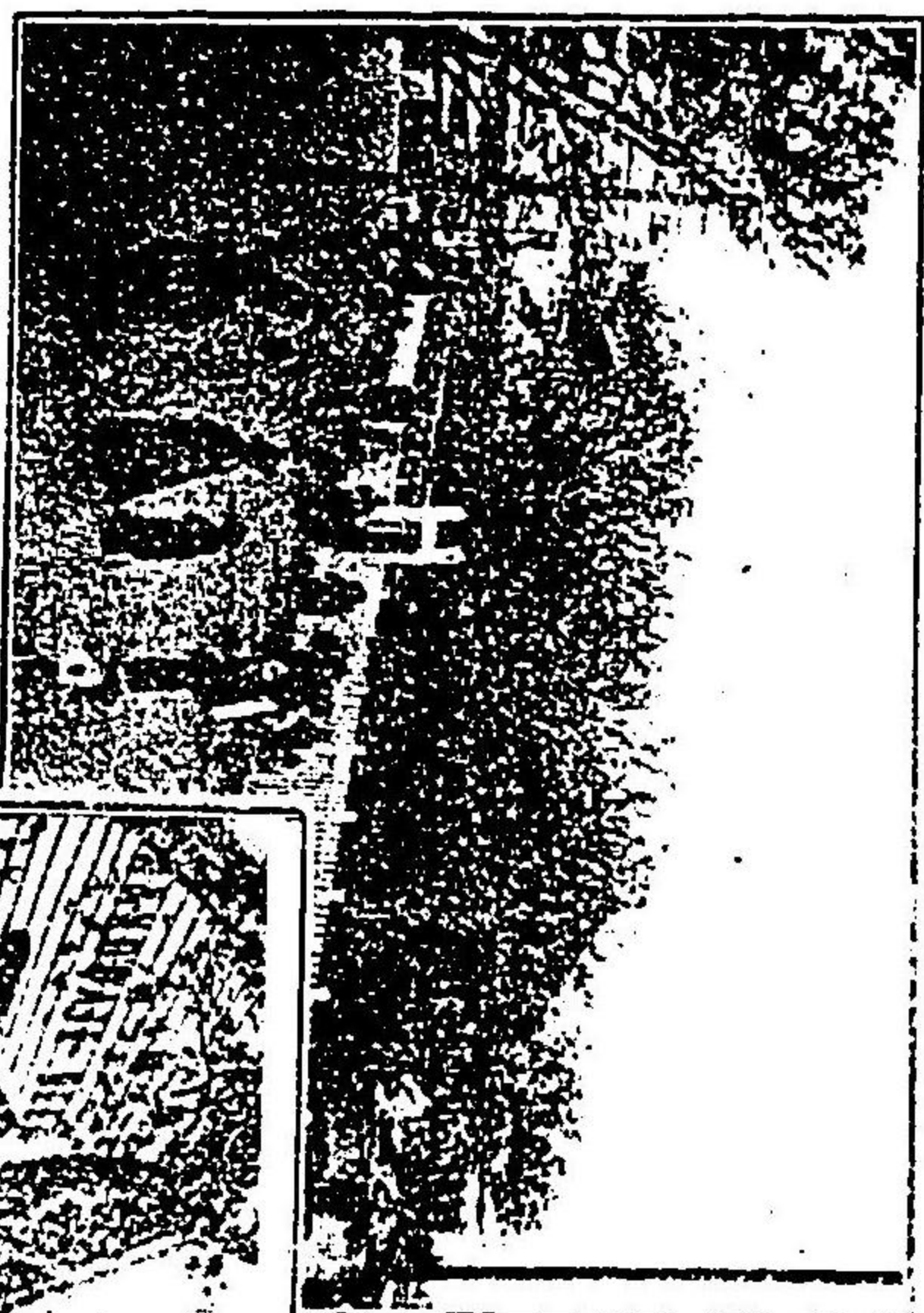
(電話 四四五番)

函館區豊川町二番地

命 内山旅館



内山旅館は本道屈指の旅店にして其盛名夙に世に著はる、客室數十あり、室内の清麗裝飾の優美、器具の高雅なる多く見ざる所なり、而して客に對する最も懇切、紳商紳士の本道に來往するもの多く此に宿す、營業日に繁榮を極む、店主を内山金山兵衛君と云ふ、選はれて函館區會議員となり、又函館商業會議所議員となり又現に函館旅人宿組合取締たり其名望の高き知るべきなり、家に藏する所の褒狀、感狀、謝狀、危然として數帙を爲す、以て君の心を公共に用ゆる、厚きを推知すべし、又同店主は嘗て茶代の賚物なるを説き自ら店規を設け一意旅客宿泊の利便を謀るを以て要とす、夫れ人の他郷に出づるや、親戚、朋友の知に乏しきは最も愁心の事に屬す、左れば旅行中に在りて最も頼みとする所のものは、其親切好意なる旅店にありとす、同店の如きは、店員皆此意を服膺し送迎共に頗る鄭重を加ふ、宜哉、日々繁榮を極むるとや、吾人の我が國一般の旅店に希望する所のもの敢て飲食の間にあらず、寧ろ物の薄ふして情の厚きを貴ぶ、況んや同店の如き當に待遇の親切なるのみに止まらず、百端完備、更に食膳毎に鮮貝の珍を添ゆるものをや



函館麥酒醸造所

Hakodate Beer Brewery.



函館ビヤホール

Hakodate Beer Hall.

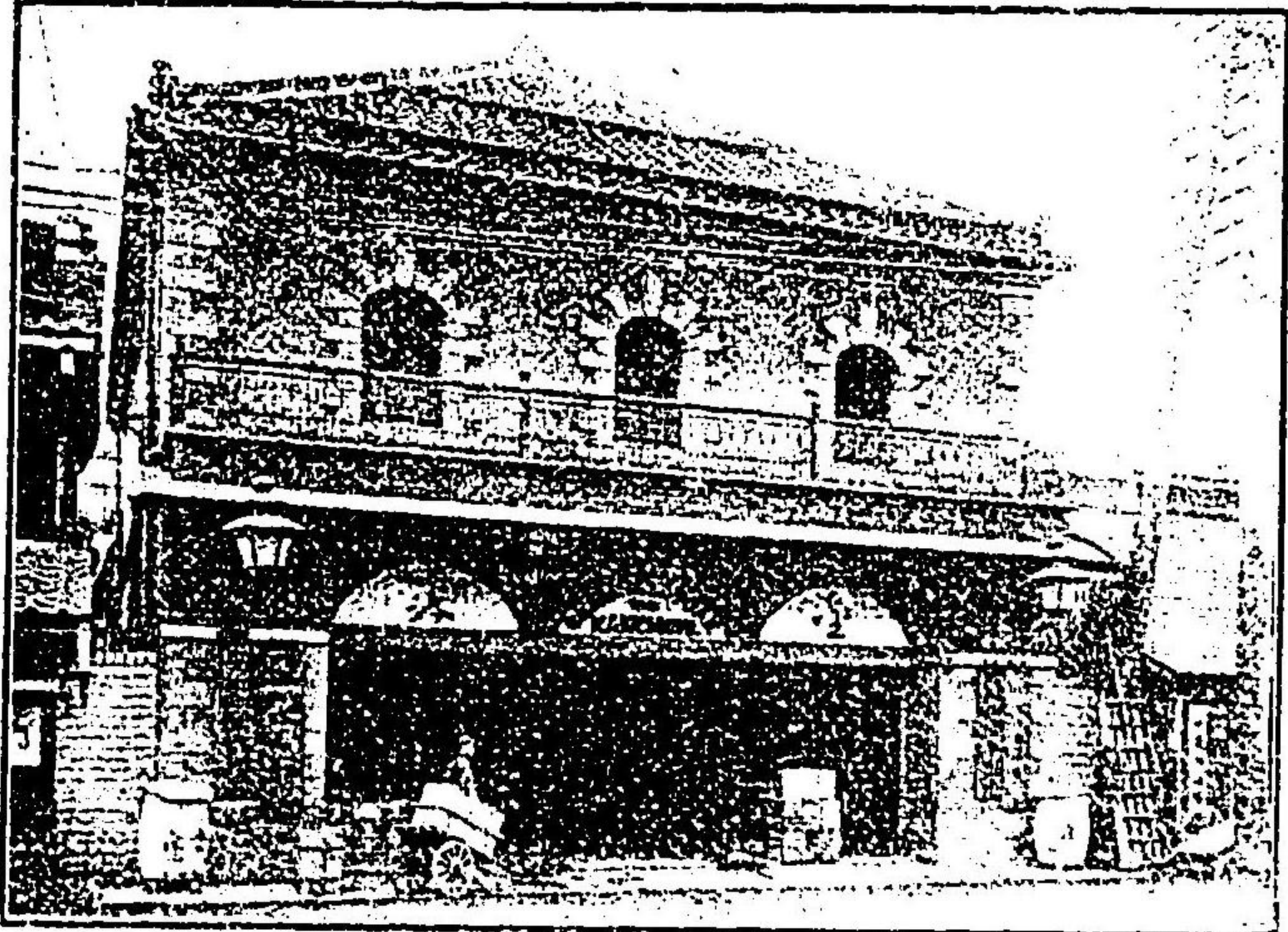
函館區谷地頭町七十二番地

函館麥酒醸造所

(電話 三四五)

函館麥酒醸造所は麥酒を醸造販賣する所なり、所主金澤正次君は夙に歐洲の醸造法を極め最も其技に精く、且斯業の熱心家を以て稱せらる、近年一層醸造に改良を加へたるを以て、函館ビールの名聲四方に喧傳し、販路益々廣まり、營業日に繁榮を加ふ、其芳醇精良の點に至りては、幾んど外國製を凌駕するに至る旺なりと云ふべし、誰れか國家の爲めに、此一大物産の興れるを慶せざらんや、ビヤホール亦盛にして夏秋の候、内外の華客常に堂に滿つ、是れ其味の美にして價の廉に、樹陰氣爽かにして休憩に適するか爲め歟、世間ビヤホール多しと雖ごも君家の高雅に若くものなし、炎暑の候最も可なり

店物洋森金



- 金森洋物店 末廣町 (電話一四七番)
 - 金森洋服店 全町 九番地
 - 金森時計店 末廣町 七番地
 - 書肆[森]魁文舎 全町 (電話一五二番)
 - 金森船具店 船場町 (電話三九番)
 - 金森船具分店 仲濱町 (電話一四九番)
 - 金森倉庫部 船場町 (電話一五〇番)
 - 金森回漕店 全町 (電話一五〇番)
 - [森]三星屋 末廣町 (電話二一番)
 - 書林[森]一二堂 全町 四十番地
- 金森洋物店は本道著名の大商店なり、店主を渡邊熊四郎君と云ふ、實に本道第一流の富豪家たり、其信用商界に厚く名望最も高し、初代の熊四郎君嘗て歐米に周遊し大に得る所

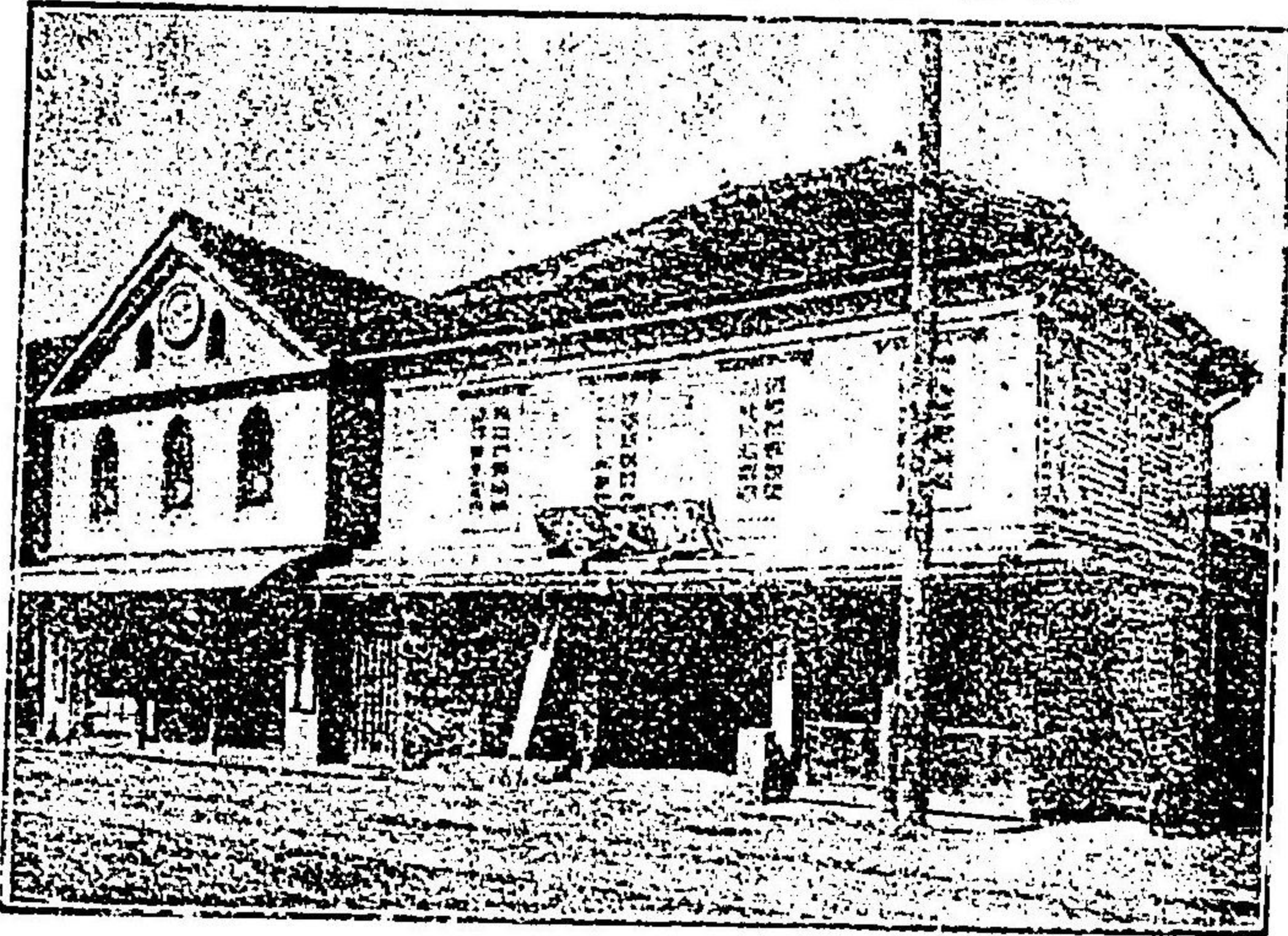
あり、爾來各國の大商店若くは製造元と直取引を爲すもの多きを以て營業益々振ふ、今は閑居して孝平君と稱し、元町の別宅に居る、子孫繁榮なり、孝平君英名既に内外に著はる、國家の偉材たるは、余の喋々を要せざる所なり、其函館今日の繁榮を致せる歴史上に於ては、其功績の顯著なること誠に元勳と稱すべし、今や復た函館區へ獨力十萬圓を寄附して以て完全の公立病院を新築せんとす、當局の歡容する所とあり、設計既に成り事業着手に至る、以て君の尋常人にあらざることを知るべし、現今の熊四郎君亦能く其志を繼ぎ營業益々盛昌なり

○ 金森船具店及び倉庫部、同漕部は規模最も宏大にして、日本郵船株式會社函館支店と全じく函館港中央の沿岸にあり、極て船舶に便



庫倉及店具船森金

店計時全舎文魁肆書森金



なるを以て營業益々隆盛なり
○金森船具店に隣れるものは阿部回漕店、入江回漕店、塚田船舶給水所とす、給水栓は最も船舶に便なる沿岸にあり、其水は飲料として全國に比なき當區水道の水にして、最も清冽淡美の佳稱あり、出入船舶の水を之に採るもの頗る多し

○魁文舎は本道書肆中の老舗にして、其創始最も早し書林、一二堂之に次ぐ共に皆盛んなり、全道各學校の教科書、學校用器は該二店の得意とする所なり、其他斬新の書籍、雜誌類は、東京の博文館を始とし、三府の各大書店と特約を結ひあるを以て、新奇の出版あれば必ず先づ此書肆に顯はる、書架常に幾萬卷、店頭華客織るか如く、電信、電話の應答日夕絶ゆるとなし、盛んなりと云ふべし

○三星屋は洋敷物、砂糖、石油、麥粉の賣買を以て著はる、渡邊源太郎君謹格にして敏活商界に精通し、又英語を克くす、嘗て店主に從て歐米に歴遊し、彼國の事情に通じ内外の取引盛なり

店服洋森金



○金森洋服店は函館に於ける洋服裁縫の元祖にして、店員には洋行せるものあり、英、佛、米、獨、伊、等各國流行の仕立新形悉く精巧を極む、又洋服地は各國直輸入の珍品多く、且極めて低廉なり、故を以て顧客最も多く、其名夙に著はる（三星屋寫真次編に出す）

龍紋氷室山田商店(所在地)

●本店

京都寺町二條南入

●支店

東京濱町新大橋際

京都寺町通六角南入

大阪四ッ橋南詰東

神戸海岸通辨天町

滋賀縣大津榭屋町

函館真砂町

●分店

東京神田佐久間町川岸

東京神田錦町三丁目

同本所横綱町二丁目

大坂難波新地四番町

大坂中ノ島六丁目

大坂天満榭屋町

神戸市兵庫須佐野通

●氷室

大坂東區農人橋西詰

東京深川東元町

●器械製氷工場

京都疎水慶流橋南

山田啓助君

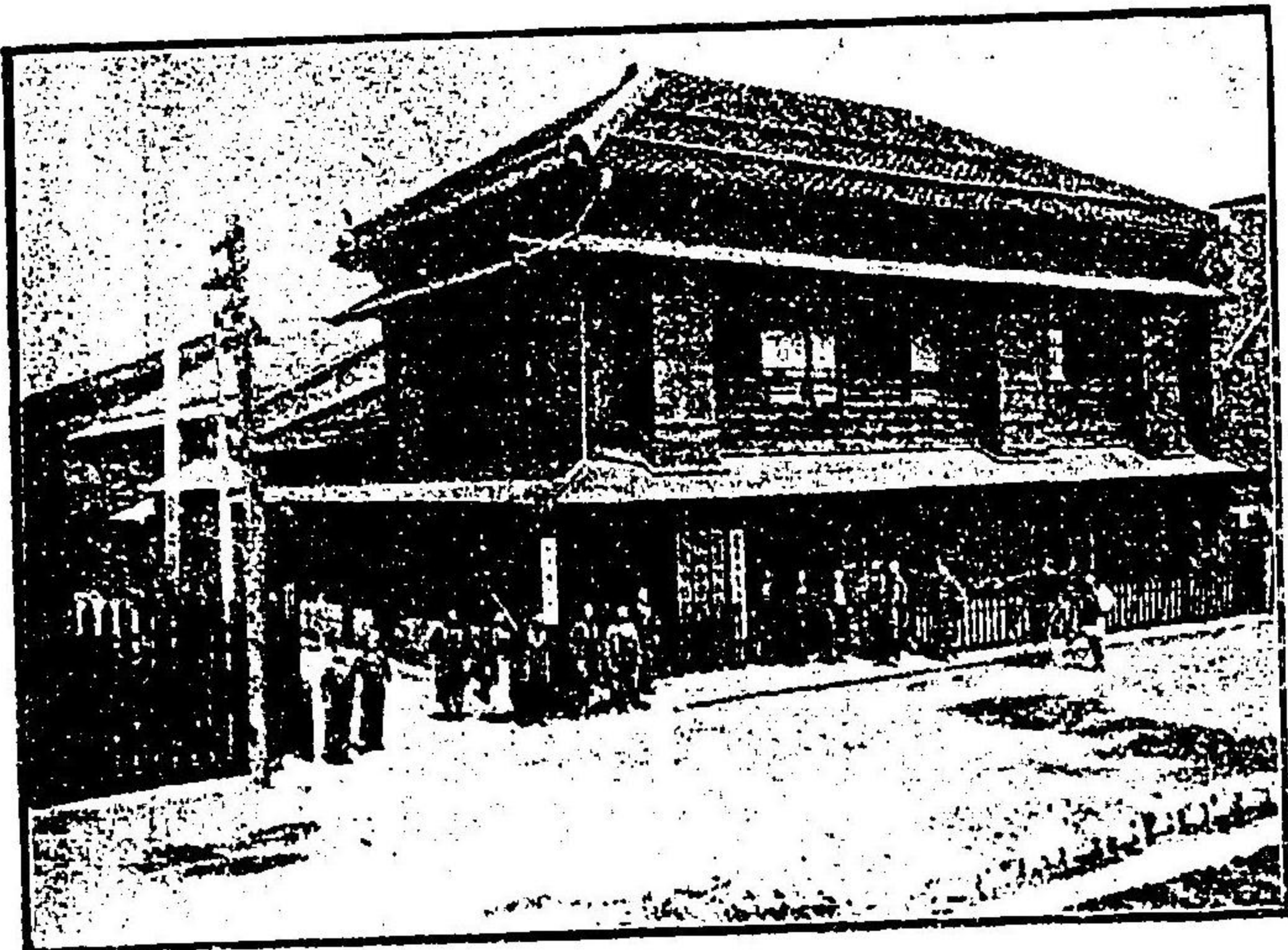


龍紋凍氷部

龍紋倉庫部

龍紋木材部

龍紋氷室函館支店





龍紋氷室函館支店 凍氷部 倉庫部 木材部

龍紋函館五稜郭伐氷



函館眞砂町八番地

龍紋氷室函館支店

電話二五七番

山田啓助君は沈毅にして俊邁、富豪の盛名夙に世に著はる、復た多辨を要せず龍紋の氷は嘗て米國「ポストン」の輸入氷と競争して大勝利を得たる帝國の最も名譽ある函館氷にして、伐りて五稜郭の氷池より出す、世間尋常の氷と大に其撰を異にせり、其氷は函館水道と其水源を同ふし、其水質純良、全國比類なく、其氷光透明清徹、晶々として白玉の如し、厚さ亦尺五に及ぶものあり、實に全國第一と稱す、君嘗て露、清、韓に歴遊す、而して今其販路内外に廣く、臺灣其他清國、韓國、南洋諸島に輸出せられ、年々の産出實に巨額に及ぶ

○龍紋凍氷部は全國惟一の大規模にして支店出張店の數は全國數十ヶ所あり

○倉庫部は堅牢宏大の大倉庫、棟を列ねて函館沿岸の中央にあり、倉庫の周圍には入船渠あり、別に陸運を要せずして直に倉庫に出入するを得、貨物の揚卸極めて便なり

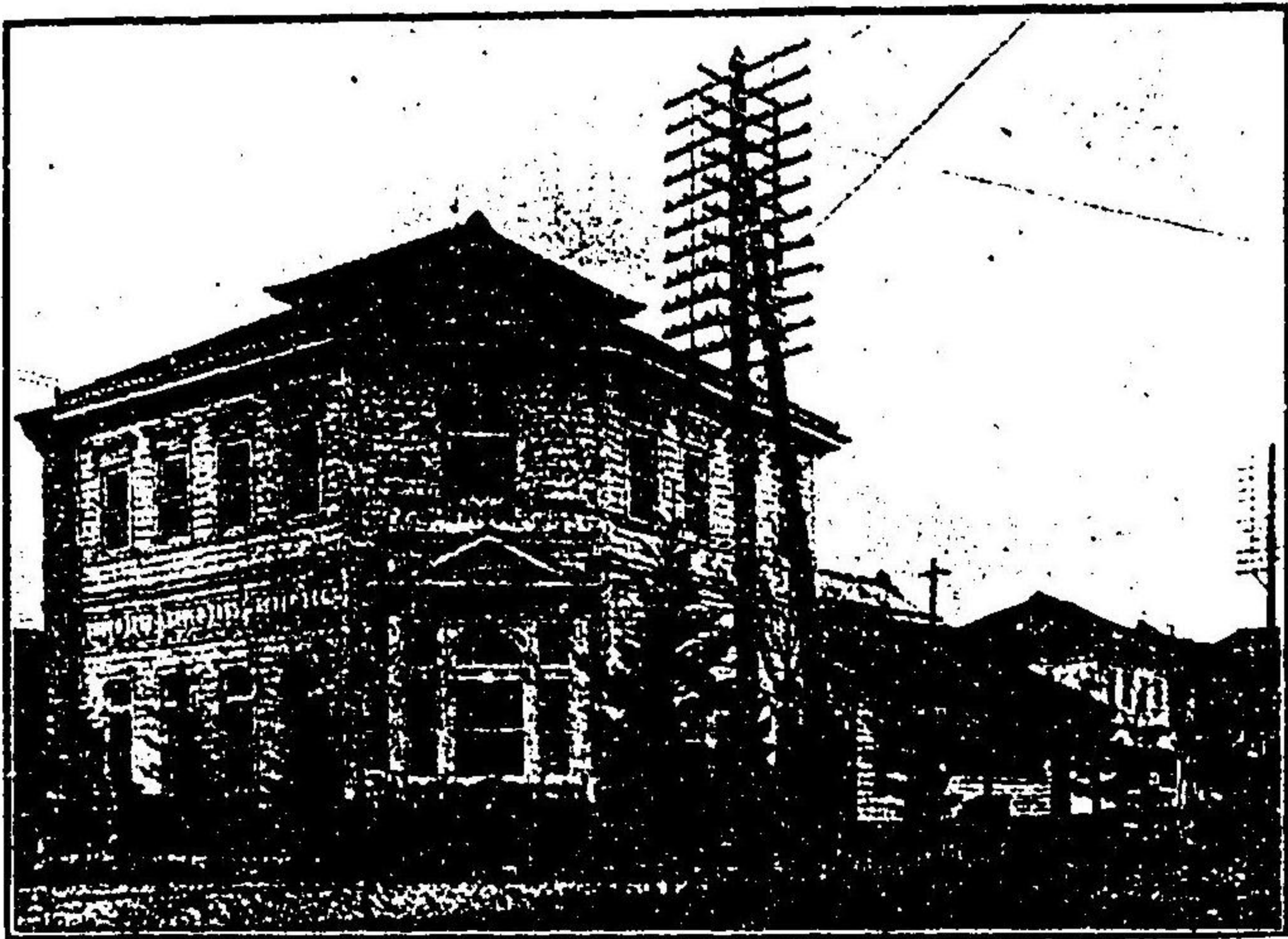
○木材部は其材の豊富なる常に數萬石を蓄ふ、其營業の廣大推して知るべきなり、當港木材業者多しと雖ども同部を以て第一と稱す、年々清國、韓國、露領諸港へ輸出せる額も亦夥し

支配人を伊藤彦三君と云ふ溫良にして能く商情に通じ、最も徳望あり、店員皆勤勉にして懇切なるを以て其取引益々多きを加ふ

伊澤竹術君



第三銀行函館支店



函館東濱町十九番地(電話三番)



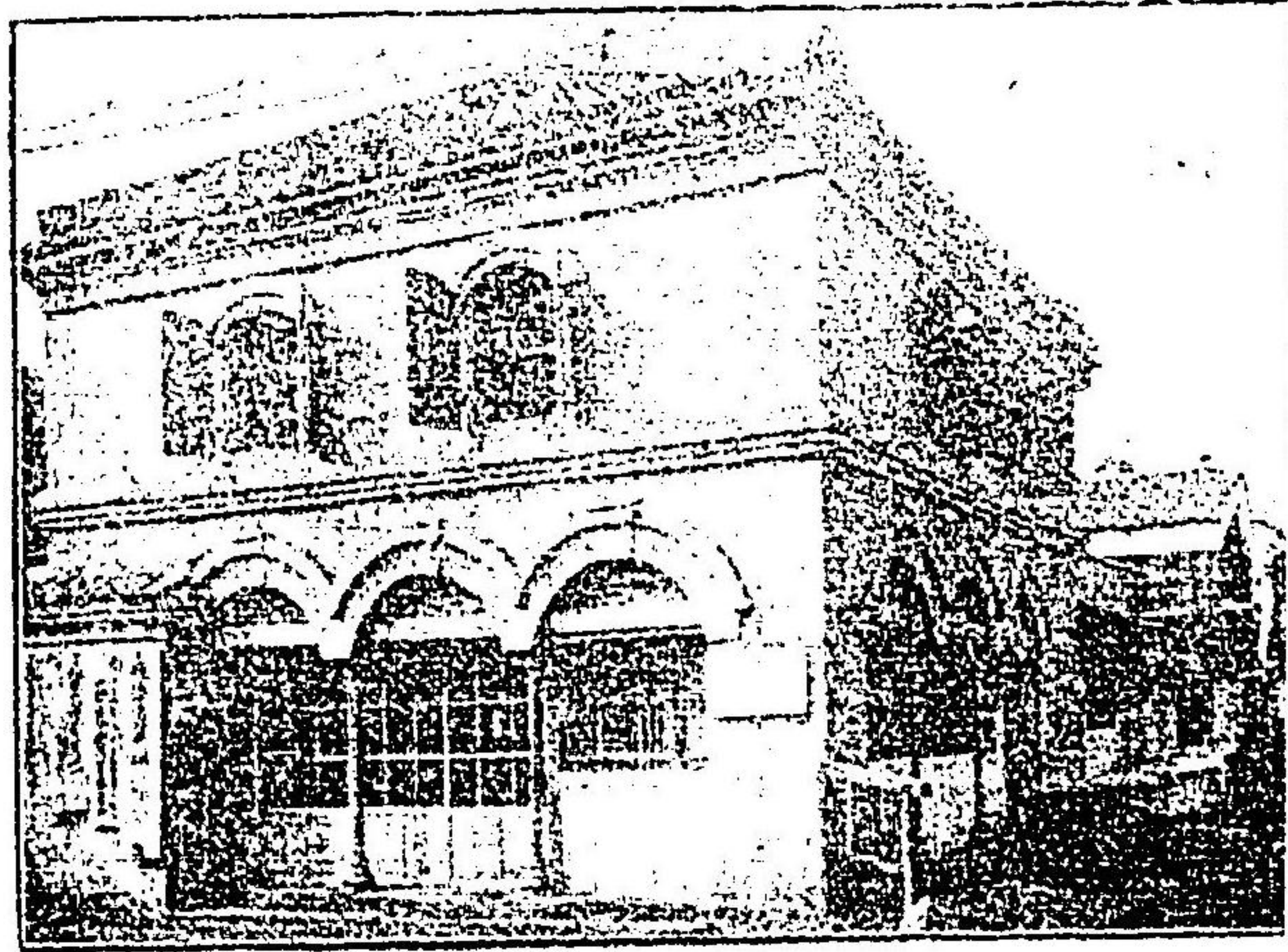
第三銀行函館支店内部

第三銀行函館支店は函館港樞要の衝に當たり、常に當港の商業界取引に便なるのみならず、亦來往の旅客に便なり、支店長を伊澤竹衛君と云ふ、銀行の事務に熟練し、又商界の事情に通じ、最も聲望あり、君の店務を執る整然觀るべきものあり、店員亦皆懇切にして且敏括の取扱を爲すに依り實業界に於て皆其便を喜ぶ、其信用最も厚く取引日に盛んに、業務常に繁忙を極む、又函館區役所の公金其他取扱を爲せり、本店は東京にありて、資本金二百四十萬圓とす、全國取引の銀行は數百個所に亘る、本行は銀行業に就て最も英名を轟かせる安田善二郎君之を監督し、其頭取は安田善四郎君なり、亦知名の人なり、

北海道共同株式會社
Hokkaido Union Joint Stock Co.
社長 遠藤 吉平 君



函館本館



⊗ 北海道共同株式會社

本店 函館區仲濱町十七番地

(電話三五番倉庫(電話三番)
電略(ケウドウ)又はケウ)

支店 商業部

小樽南濱町四丁目二番地
(電話三四二番)

運漕部

小樽南濱町四丁目二番地
(電話一二〇番)

●本支店營業種目

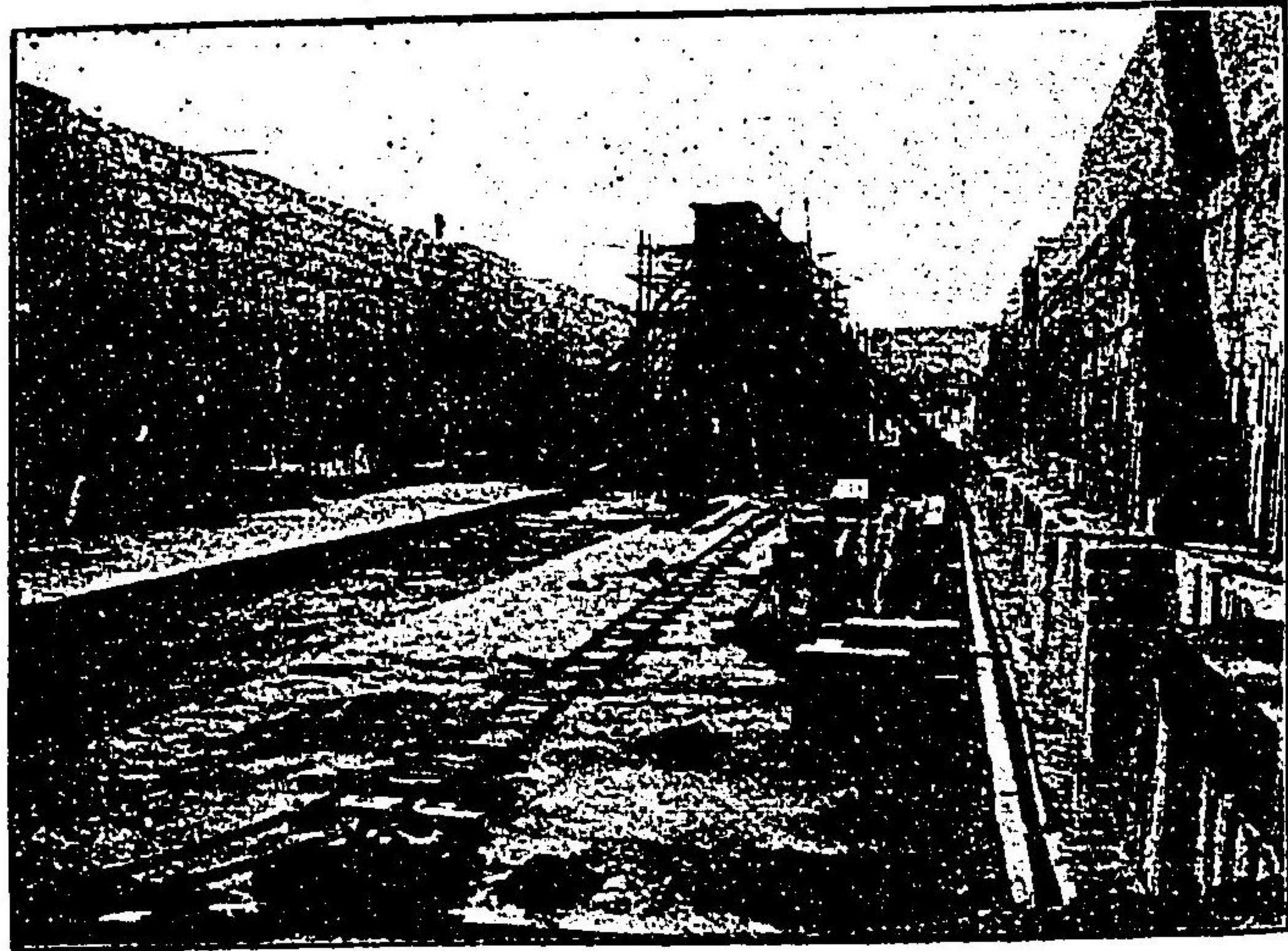
- 米穀海產物委託賣買
北海道炭礦鐵道株式會社探堀
- 石炭函館一手販賣
北海道セメント株式會社製造
- ホルトラント、セメント大販賣
札幌麥酒株式會社釀造
- ラガ麥酒及黑麥酒大販賣
函館代理店
- 札幌谷釀造所釀造
- 葡萄酒、ブランドー大販賣
函館代理店
- 大同生命保險株式會社
函館代理店
- 倉庫業及海運業

小 樽 支 店

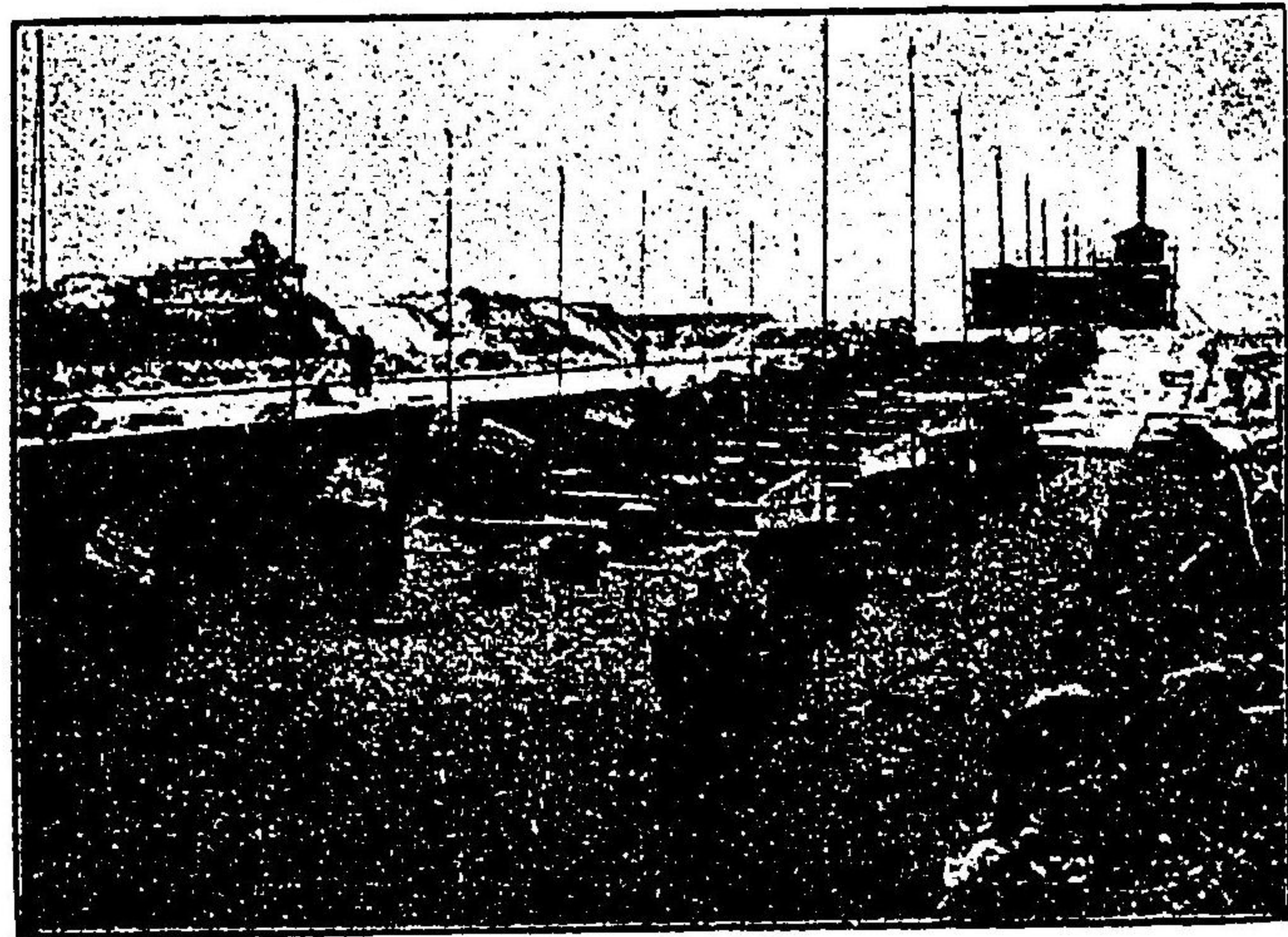


北海道共同株式會社は富家豪商を以て組織せられ、信用内外に厚し、就中艦船に最も必要なる石炭は、炭礦會社の良品にして當店の一手販賣を爲す所、年々の販賣額最も夥しく、其名既に歐米航海業者間に著はる、其他各業の隆盛推して知るべきなり、社長遠藤吉平君嘗て清、韓に歴遊して彼の地の實況に精しく、又内外商工業の經歷に富み、社業の擴張に熱心し卓識豪邁商界の巨擘を以て推さる、嘗て米穀、海產物等の俵裝、荷造、改良を唱道して熱心に之を實行を謀り、之を帝國議會に建議して、大に當局を動かし、其盛名全國に轟く、其改良を促したるの功績は、帝國の統計上に於て最も多大なるを見る、實に國家の大益を興したるものと云ふべし、又嘗て函館商工會々頭、函館商業會議所會頭に擧げられ、商業の振興を謀り、其他公共の事に關し國家に益する所鮮少にあらず君は屈指の富家にして別に廣大なる有望の果樹園、耕地、宅地を有せり、其多年社長の任に當り、又他の會社の重役を兼ねるもの多し、以て其聲望の歸する所を知るべし

(圖ノ造製扉門水)渠船



(渠船揚曳)臺船修

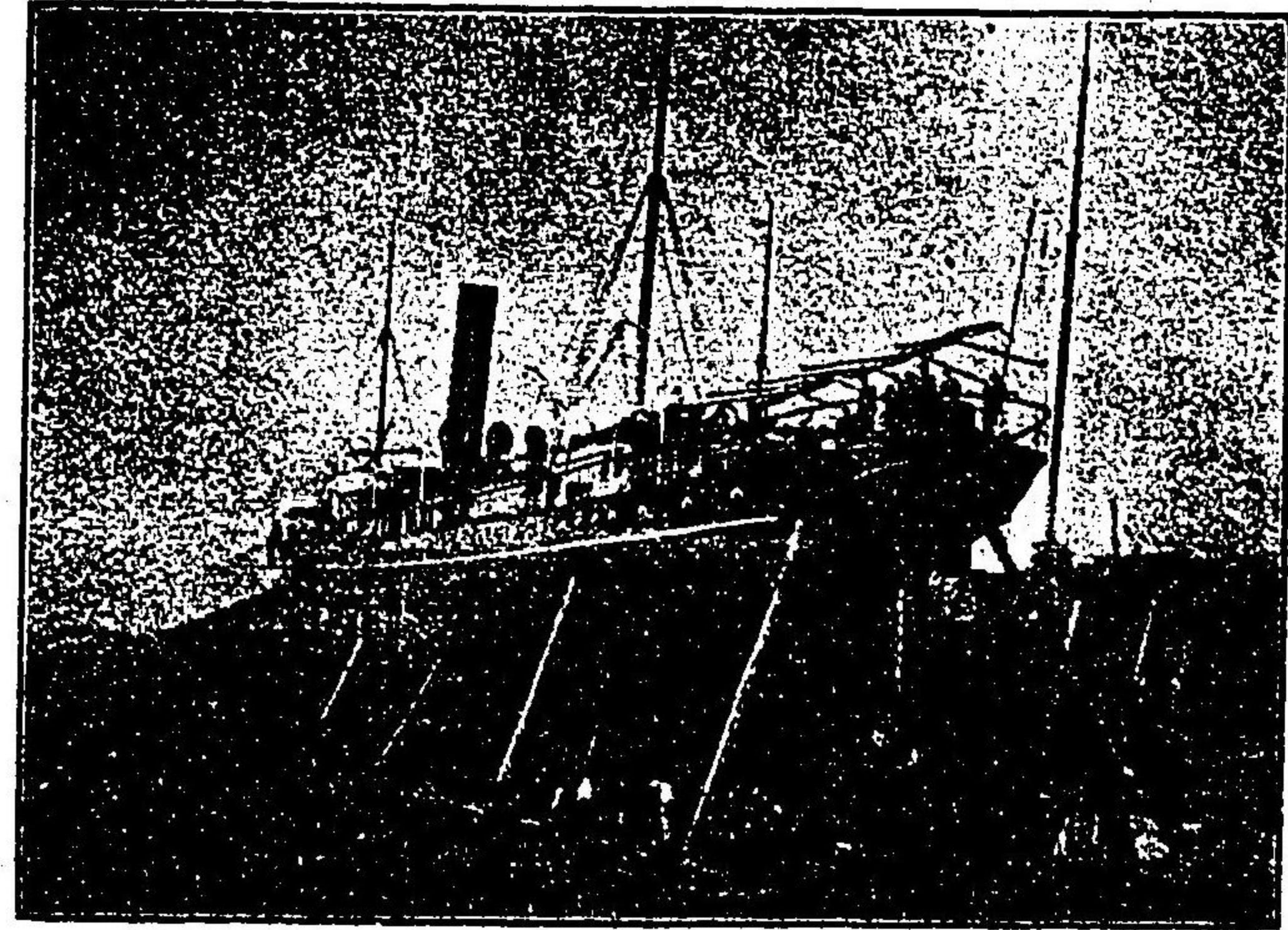


函館船渠株式會社
Hakodate Dock Co.

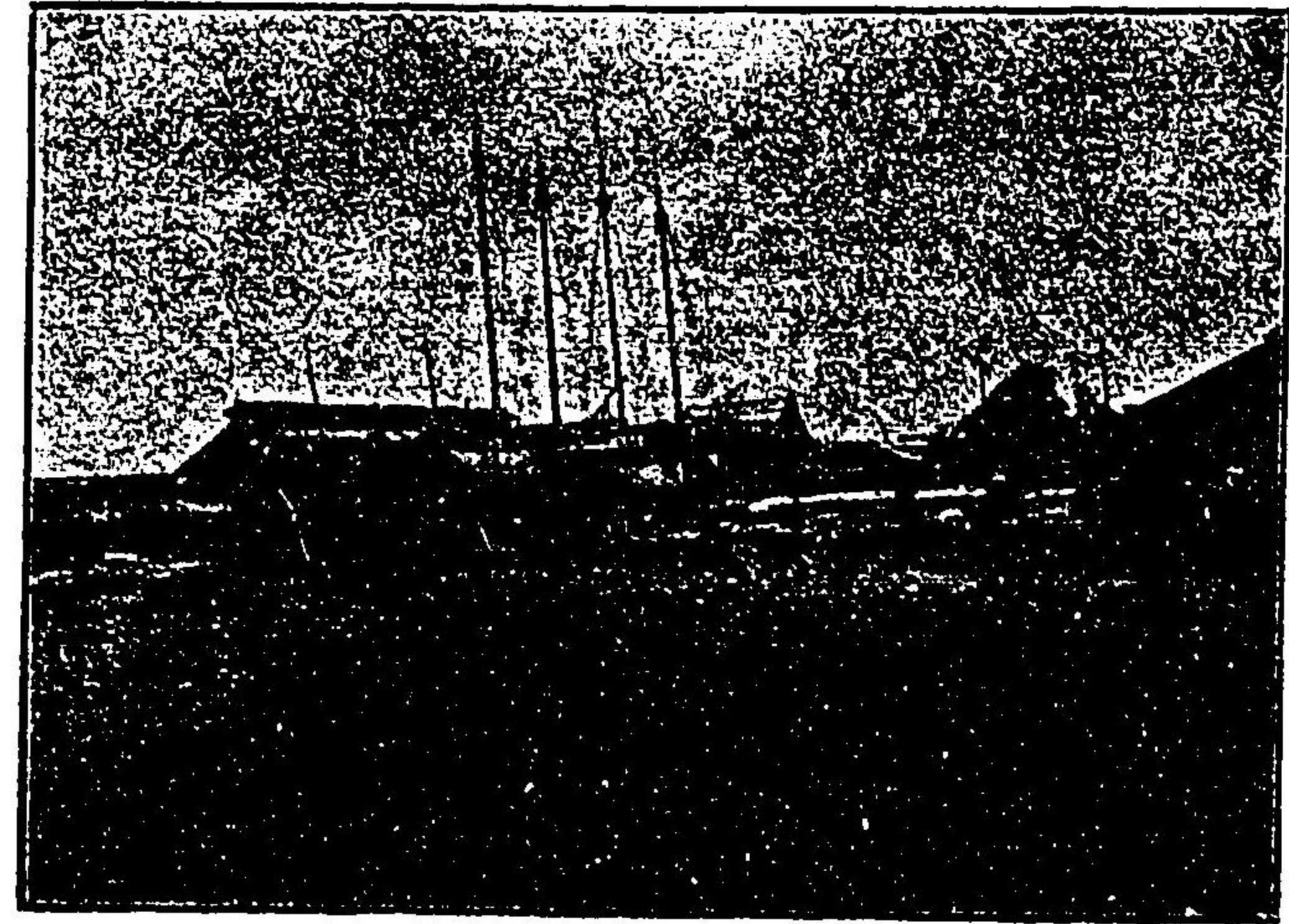
支配人 大村勵君



(圖ノ續修丸勝十)臺船修



場工屬付



函館船渠株式会社

本社

函館區辨天町八十八番地 (電話 三二四番)

船架部

全 辨天町八十八番地 (電話 六五三番)

付屬工場

全 真砂町七番地 (電話 三一三番)

起原及現在

函館船渠株式會社の創立は、明治二十九年に在り、其船渠は堅牢廣大にして一萬噸内外の
艦船を容るゝに適し、又曳揚修船臺を設け一千五百噸未満の艦船修理を爲すに便にす、船
渠内へ入渠し得べき艦船の標準を既記すれば左の如し

軍艦 八雲艦 吾妻艦 淺間艦 出雲艦
商船 土佐丸 日本丸 佐渡丸 亞米利加丸 若狭丸 信濃丸

該會社の船渠は帝國に在りては最も廣大なるものにして、其装置は最も新式に係り、堅牢無比、工事至便と稱す、此に尺度の概畧を擧ぐれば左の如し(日本尺)

渠身全長 五百十九尺

渠口幅

上部八十二尺餘

深さ 渠底三十八尺餘

渠底頭部三十六尺餘

入渠シ得

最大満潮二十七尺

入渠シ得 へき船ノ長 四百五十三尺

へき船ノ吃水

最小満潮二十五尺

入渠シ得 へき船ノ長 四百五十三尺

入渠シ得 へき船ノ最大幅

最大干潮二十四尺

渠底の勾配は二百分の一とす
艦般の入渠に際しては、其大小に依り差ありと雖も、大約一時間半にして渠内の水量を排出することを得べし

曳揚修船臺も亦帝國に在りては、極めて堅牢至便なる最新式に屬し、船體に動搖を興ふることなく極めて安全の装置なり、尺度の概畧を擧ぐれば左の如し

軌道の長、

七百三十尺 (陸上二百〇六尺)

軌道の幅、

四十二尺 (海中五百二十三尺)

軌道の深さ

(極端)

満潮二十九尺
干潮二十六尺

船車臺の長

二百〇五尺

船車臺の幅

二十二尺

修船臺に於て上架修船せるもの多數ありと雖も、一二の例を擧ぐれば左の如し

東海丸

敦賀丸

尾張丸

松前丸

十勝丸

陸奥丸

オプヤシチク(露國帆船)

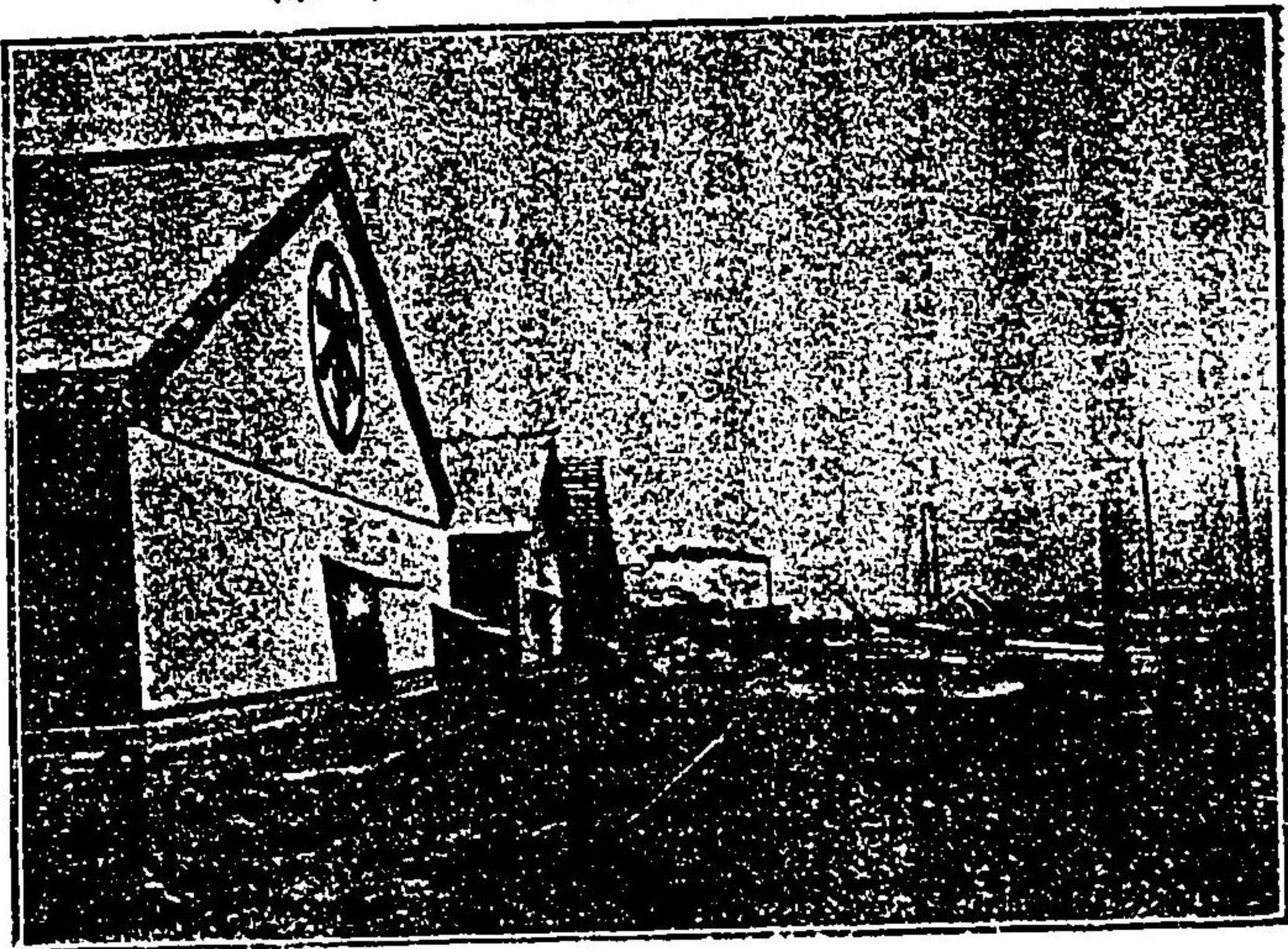
第五舷川丸

我が國四面海を環らして、逐年商工業の發達し、通商貿易の開くるに従て、内外の艦船航行頗る頻繁を加ふるに至る、而して北海或は時に烟霧、流氷、風濤の險あり一朝船舶修理の必要を生ずるも遠く横濱、神戸、若くは、長崎に至らざるべからず、其不便實に名状すべからざりき、然るに今や幸に北方に於て此宏大完全なる船渠を得たり、南方の長崎、中央の神戸、横濱等の船渠と相待て造船修理に至便を興へ、以て愈々益々其航海を盛ならしめんとす、其の海運上に裨益を興ふること實に鮮少にあらざるべし、而して我國海防上に於ても亦緊急の設備たることを知る、是れ誠に海國人の意を強ふするものにして、國家樞要の偉業と云ふべし

又函館港に就て之を云へば、港内曩きに浚渫修築を加へて出入船舶に便を與へ、今此の船渠會社に依りて、迅速完全に船舶を新造修理するの便を受く、而して帝國の大幹線たる北緯線は、近く函館間に全通せんとす、又西比利亞鐵道は既に對岸の浦港に全通せりと云ふ、函館港將來の繁榮は實に驚くべきものあらんとす、而して會社前途の隆昌も亦想ふべきなり

該會社を組織せるものは、皆帝國知名の紳商富豪にして、其基礎極めて堅固なり、専務取締役園田實徳君は、嘗て久しく北海道に顯著の實歴を有し、本道到る所其盛名を稱せざるものなし、支配人大村勵君は夙に内外の商勢に精通し、學識材幹共に備はり名聲亦高し、會社其人を得たりと云ふべし、更に其他の當事者を擧ぐれば、取締役阿部興人君、澁澤榮一君、大倉喜八郎君、監査役淺田正文君、田中市太郎君、工事設計監督技師工學士達村容吉君、技師長品川久太郎君にして皆知名の人なり、抑々該會社の起るは明治二十九年に在りと雖も、其此に至れる遠因に遡る時は、實に明治十年頃より炯眼者によりて夙に斯業の必要を唱道せられたるものにして、爾來幾多の經營を重ねて今日の盛況に至れるものなり、記して參考に資す

柳田辨天倉庫一部



八三 柳田辨天倉庫

函館辨天町一番地

本 柳田出張店

(電話 五四五番)

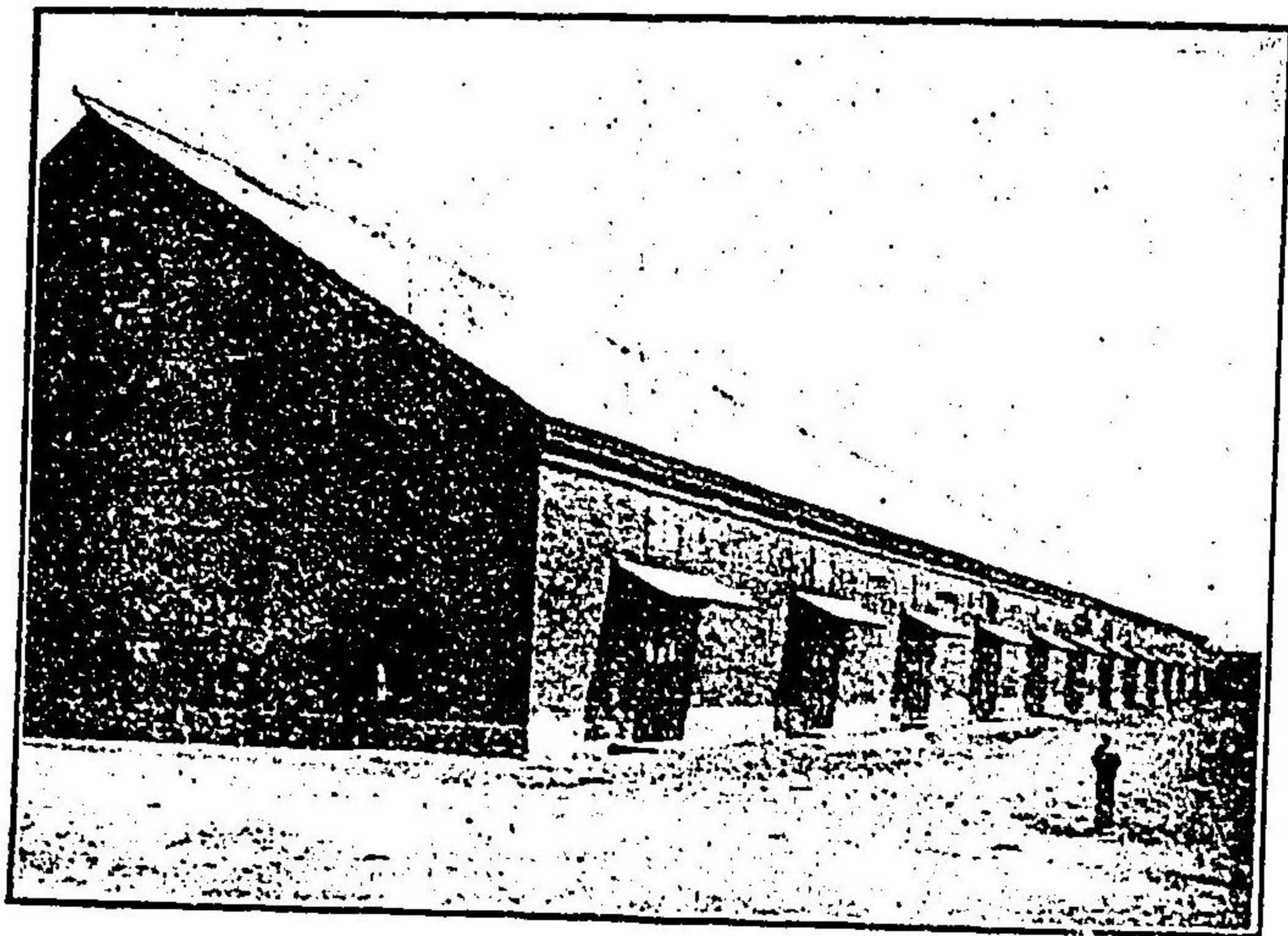
函館新濱町六番地

柳田辨天倉庫部

(電話 四五六番)

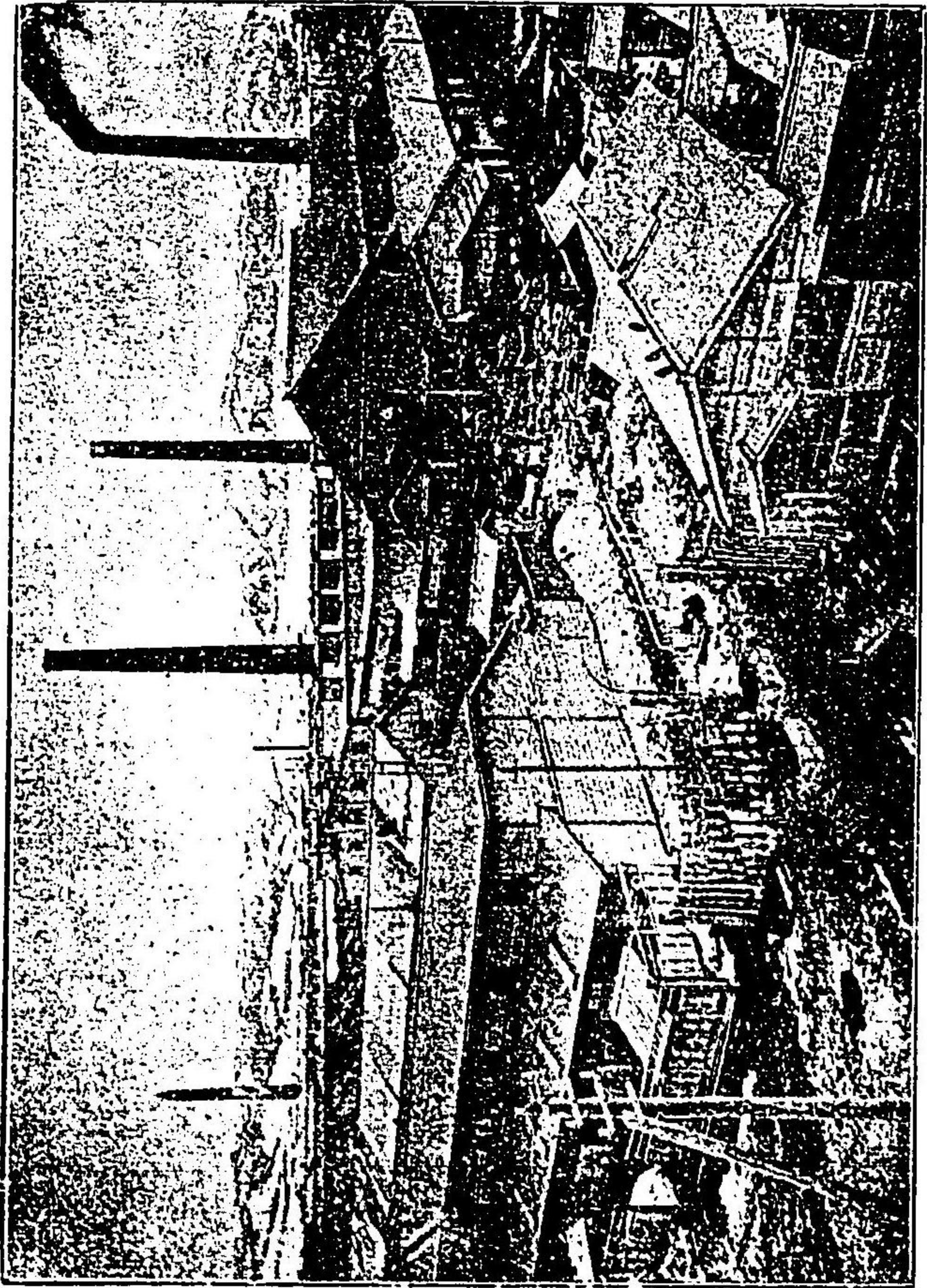
柳田藤吉君は本道第一流の水産業家に
 て、雄心豪壯、其英名風に精神に開ゆ、本
 道屈指の一大事業家なり、廣大の漁場を有
 し年々の漁獲多額なり、又牧場、鑛山等を
 有せり、先年函館辨天町地先の埋立地數萬
 坪を拂受け、爾來經營を務め、市街を造り盛
 んに家屋を建造し、又魚鳥市場を設く、即
 ち函館船渠會社の敷地と相接して、港灣中
 最も船舶に便なるの位置にあり、君の經營
 を創めしより戸口日々に増加し、荒寥の地
 別に一大新繁榮を開くに至らんとす、盛な
 りと云ふへし、君は爾來函館青柳町の別莊
 に居り、早味より日没に至るまで、出張所

全 上



に臨みて親しく諸般の事務を督勵す、鏗鏘たる此翁其志望高大、其實踐精勵、誠に本道の
 一大偉人と云ふべし、倉庫部は新濱町にあり、堅牢宏壯の大倉庫、海岸に沿ふて掘立す、
 此邊沿岸海深くして港中最も安全の方位に當るを以て、冬期と雖も此の風波を受くるこ
 となし、倉庫には軌道を設くるを以て、貨物の出入極めて便なり、殊に廣大の敷地は全部
 倉庫主の私有地に係るを以て、如何に多大の貨物を堆積し、又貨物の出入、荷送りの爲め
 に、晝夜を分たす多數人夫を便役するの場合と雖も、毫も他の檢束を受くることなし、而
 して今又倉庫の地先に於て極めて堅牢なる一大棧橋を建設し、五千噸内外の商船に至るま
 て、之に繋留することを得せしめ、以て當港出入貨物の便を謀らんとす、其設計既に成る
 と云ふ、前途の有望にして將來の隆盛なる誠に想ふべし、況んや倉庫事務主任上原清君の
 斯業經歷に富み、熱心之に従事するあるをや、柳田藤吉君の國家公益に盡瘁せらるゝの多
 きは既に衆の知れる所、今又松樹苗木數十萬本を寄附し以て之を大沼、小沼の勝地に植へ
 んとす湖中點々の島嶼、周圍高低の山丘、更に一層の雅趣を添ゆるを觀んこと應に遠きに
 めらるべし

北海道セメント株式会社



渡島國上磯郡上磯村

北海道セメント株式会社ハ、本道特有の物産製造所として算へらるゝものゝ一に居る、本社は函館港の對岸上磯村にあり、専務取締役は阿部興人君にして、盛名夙に世に著はる、幹事岡崎龜雄君は斯業の經歷に富める人にして、熱心に事を執る、出張所は函館及ひ東京にあり、營業はセメント、石炭、煉瓦石、の製造販賣に在り、我國事業の發達し、建築土工の益々勃興するに従て、此種の製造品を要すること益々多きを加ふ、特に上磯セメントは創業以來幾多の改良を加へ、現今使用する所の機械は最も完全なる最新式のものにして其製造極めて精巧の好果を收め、弊價頗に昂かる、其取引内外に廣く、營業愈々盛大なり



函館地蔵町五十九番地

菅谷商店

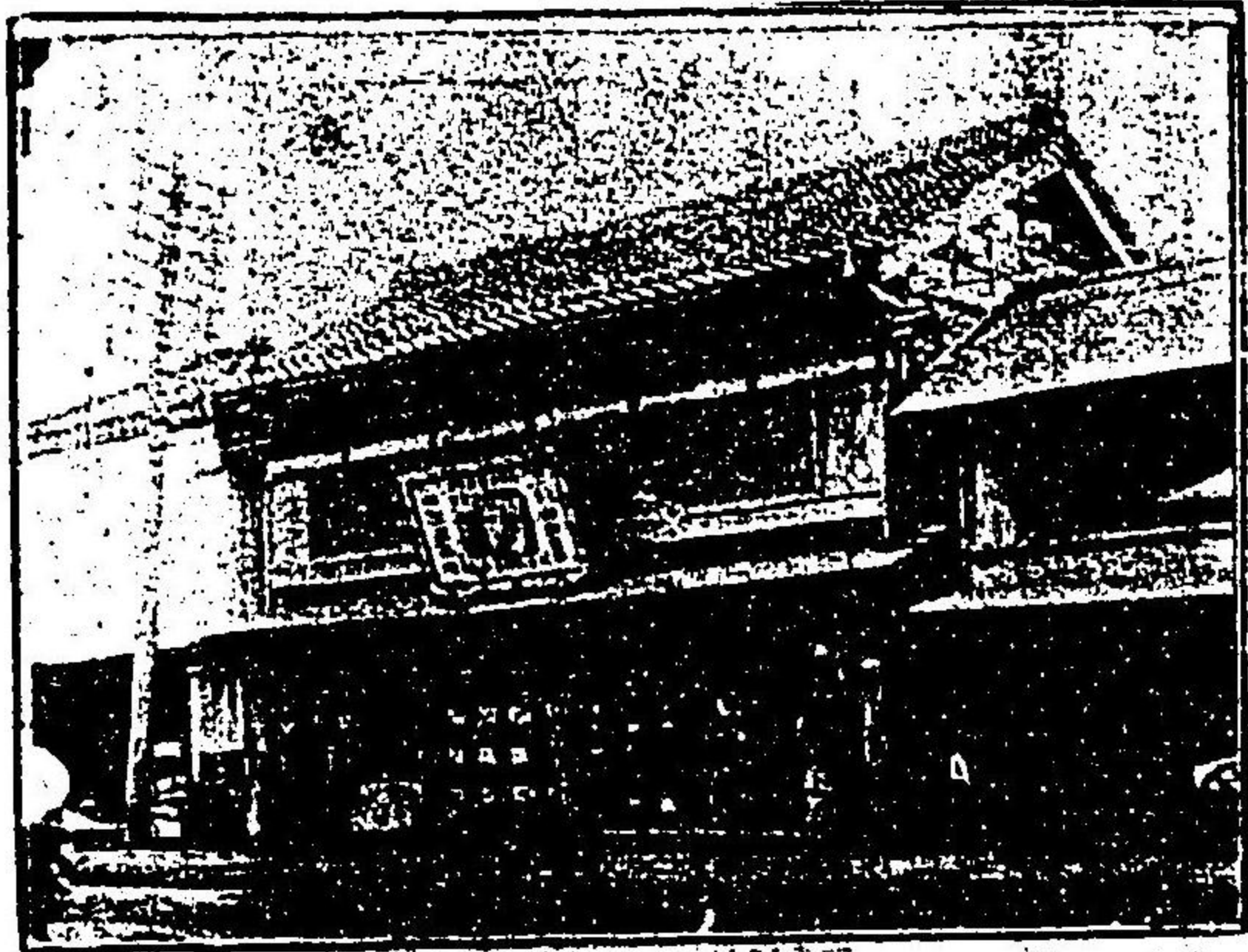
(電話二二六番)

函館音羽町六十四番地

菅谷醸造場

(電話四六五番)

菅谷商店



八九 菅谷商店

菅谷商店は酒類の醸造販賣を以て業とす其醸造する所の酪酒、菅の井、北遊、巴港一は夙に全道各地に販賣せられ、丸善商店の盛名既に世に著はる、各種の和洋酒、瓶詰、諸罐詰の卸賣最も多く、營業日に繁盛なり、又近年貿易部を設け、露領沿海朝鮮地方へ向て本邦物産の直輸出を爲じ、其貿易

額極めて巨額なり、店主を菅谷善司君と云ふ精敏にして堅實、而して人に接する和氣春風の如し、皆其識量の濶大を稱す、店員亦勤勉精脚、故を以て聲望日に加はる、人此商店を

菅谷善司君



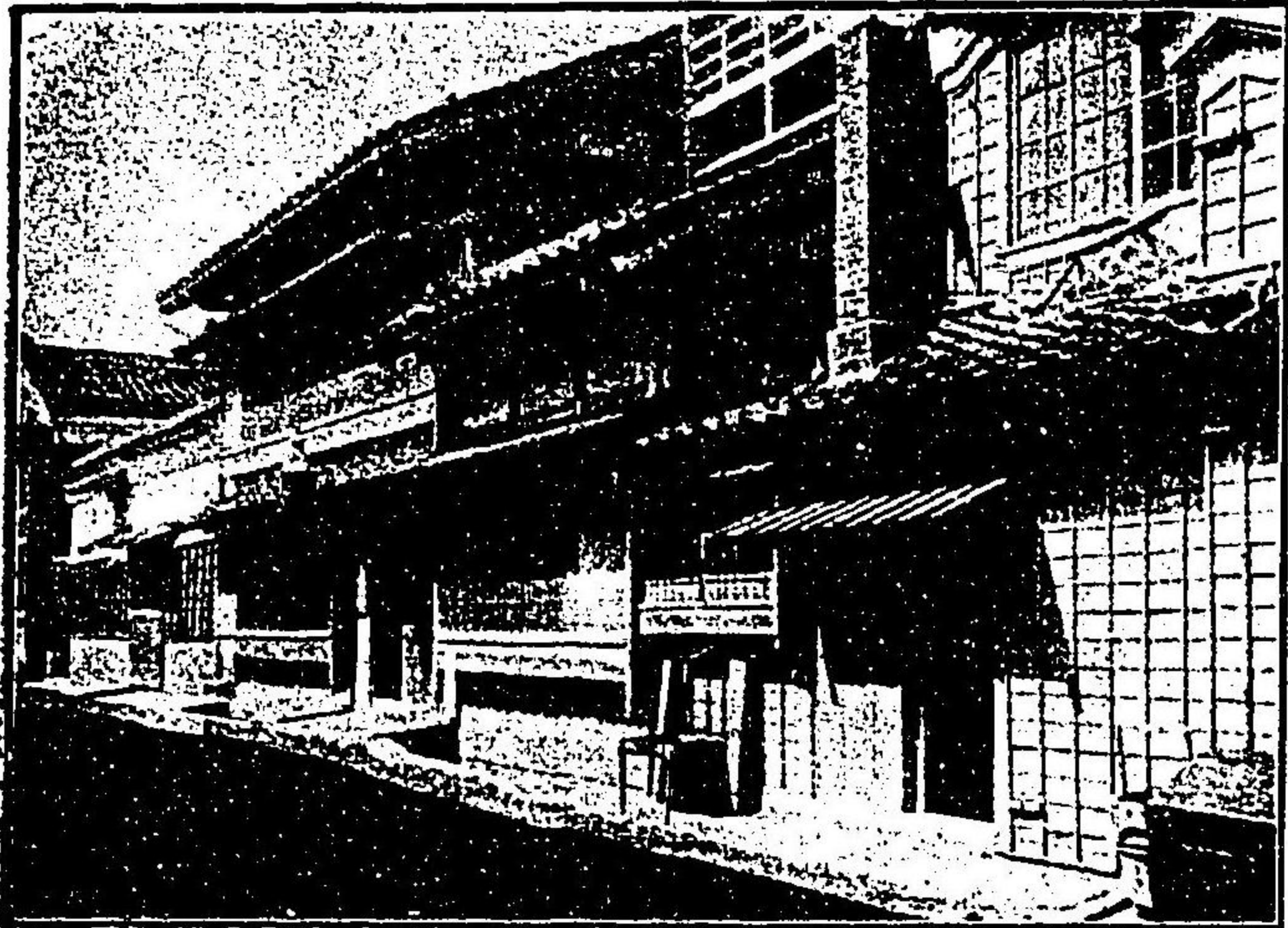
稱して、朝日の昇る勢ありと云ふ、盛なりと云ふべし、君は醸造の事に精しく、又能く商界の事情に通せり其販賣品は皆精良を旨とするを以て、信用極めて厚し、是れ函館の紳商を數ふる者必ず先づ指を丸善に屈する所以なる歟、又其公益に關し盡瘁する所多く現に函館區會議員、

函館商業會議所議員等の公職に擧げらる、又日宗生命、火災保險會社取締役に擧げられ函館出張所長を兼ね出張所主任を伊藤茂三郎君と云ふ誠實にして勤勉取扱の懇篤なるを以て被保險者日に増加し社運益々隆盛なり

能登豊吉君



能登豊吉君邸



能登商店



久

函館西濱町十一番地

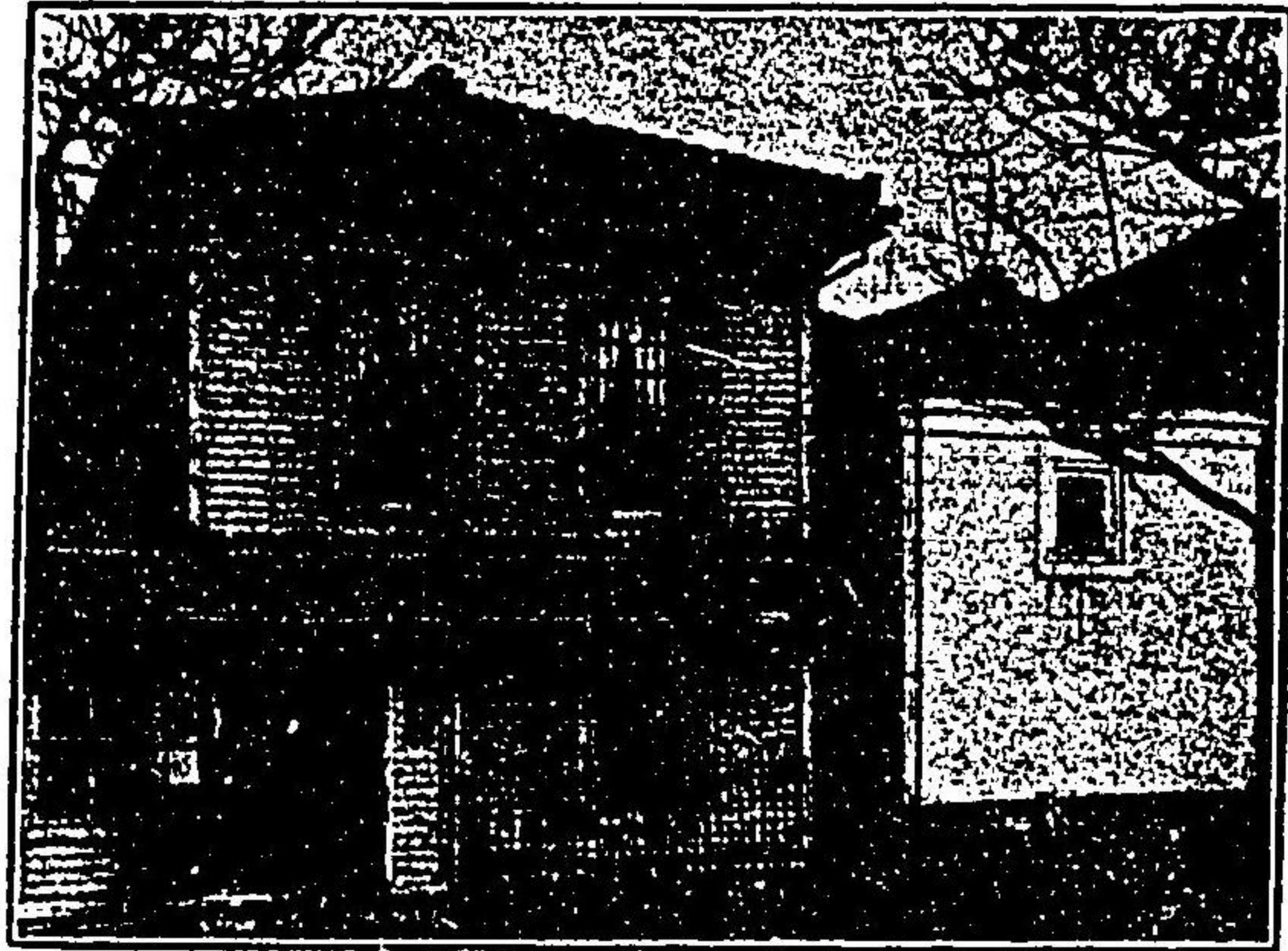
能登商店

(電話三三二番)

能登商店は其盛名夙に著はる其營業は水産業、海運業、運送業、海陸物産商、肥料商、米穀委託販賣其他雜貨荒物商等に在り、其水産業は露領の沿海ニコライスク、カムサツカ等に於て宏大の漁業を營み、年々の漁獲巨額に及び、海運業は數十艘の船舶を有して、沿海より遠く露領サカレン島、東察加沿海に至る、海陸物産の取引廣く、本道より各府縣に跨がる、店主を能登豊吉君と云ふ、邸は函館辨天町九番地にあり君志氣豪強、活達にして、商機に敏なり、夙に商業界の巨擘を以て稱せらる、營業強固にして信用極めて厚く、商勢

日に振ふ

(七六一話電) 店支館函行銀差江



江差銀行支店は其名既に全道に著はる、本店は江差にあり、出張所を熊石、瀬棚に置く、函館支店の江差、福山、熊石、壽都、瀬棚等の方面に於けるや海産物の關係上、取引最も繁盛を極む、頭取は永瀧松太郎君にして著名の人なり現に江差町長を兼ね、函館支店支配人を御友重徳君と云ふ、商界の事情に通じ、取引確實、華客に對する懇篤なるを以て、實業家皆之に信頼し、名望最も高く、營業益々隆昌なり

君門衛左半部服



函館船場町二十五番地



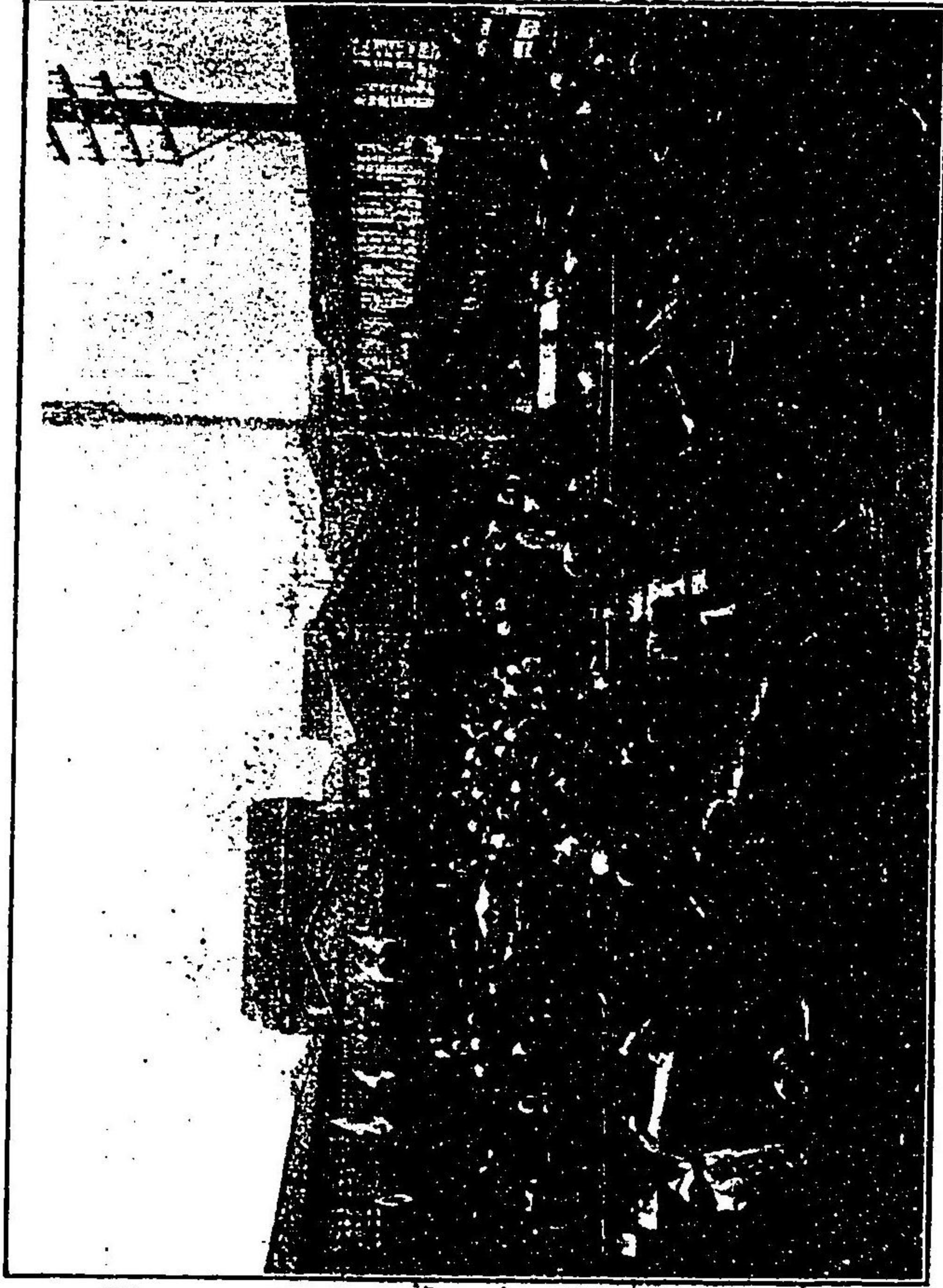
(電話四四六番)

商船部東濱町十五番地

(電話三三八番)

服部半左門君は屈指の豪商にして水産商、物産商、委託販賣を營み商業盛大、更に數十艘の船舶を有して商船部を置き回漕を營み營業確實にして信用極めて厚く其聲望最も高し現に函館魚商株式會社の社長たり、其他公共の事に任して盡瘁する所多し、君蒙邁にして事に屈せず、能く所志を遂行す、人之に服す、

函館魚商株式會社



函館必留町八番地
(電話六一〇番)

函館魚商株式會社は著名の魚商を以て組織し、廣く魚貝類の委託販賣を營む、人稱して之を魚市場と云ふ、魚貝類の沿海より集まるもの夥しく、毎朝大市を開く、魚貝は全道東西兩海岸、及陸奥沿海より來る、函館港より毎年本州へ輸出する生魚七十萬石と稱す、此魚商の手を経るもの多し、盛なりと謂ふへし、現今の社長は服部半左衛門君、取締役工藤嘉七君、佐藤重五郎君、立花藤四郎君、苅谷鐵之助君の四氏にして、検査役は毛利甚兵衛君、勝部長四郎君の二氏なり

海陸物産

函

汐留町十五番地

肥料



井上商店

委託賣買

館

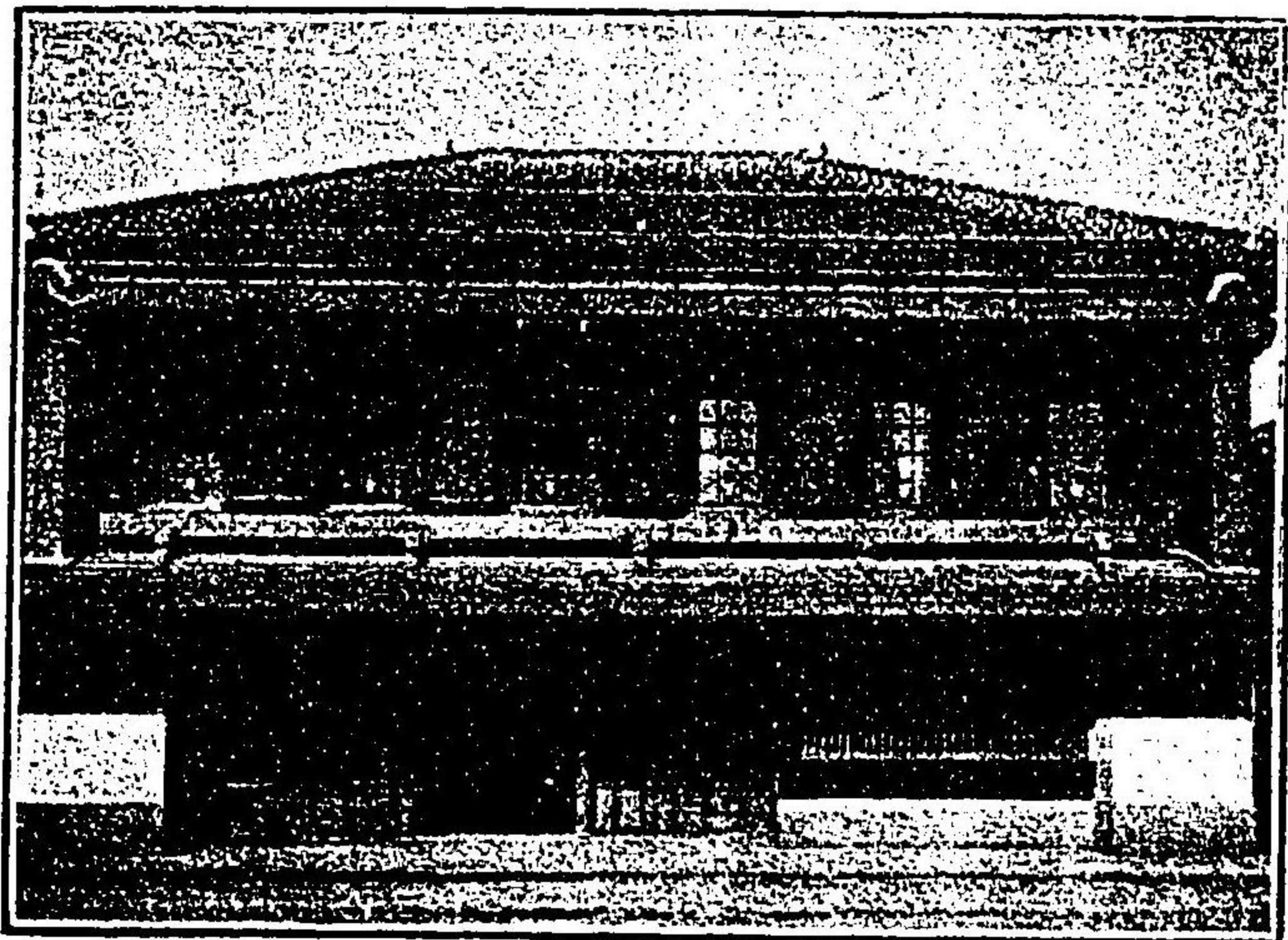
(電話六〇八)

井上商店



井上商店は海陸物産、肥料委託販賣商を以て其名著はる、又水産業を營む、年々の收獲夥し、營業確實、取引最も廣くして本道各地より各府縣に渉る、其信用極めて厚し、就中生魚に在りては鮪、鮭等の取扱額最も夥しく實に當業の巨擘たり、店主を井上元一郎君と云ふ、豪壯にして義あり、盛名遠く聞ゆ、復た喋々を要せず營業日に隆盛なり

高森商店



全上客室



吾

高森商店

函館船場町二十一番地

(電話二二七番)

高森商店は本道屈指の大商店にして、營業確實、其盛名夙に著はる、富豪推して知るべし、海産物、肥料、鹽、酒類其他の委託販賣を業とす、店主を高森忠藏君と云ふ、剛毅率直にして敢爲の勇に富む、各地に大漁場を有し、年々の收獲多額なり、兼て廣大の耕地宅地を有せり、實に本道物産商中の巨擘たり、當店の建築は其材壯偉にして結構極めて堅牢なり、亦以て主人氣質の堅實を推すべし、圖中の美髯公は高森忠藏君其人にして、卓子の右に坐するものは高森清藏君なり、又其火鉢を挟みて坐する者は、若松の豪商某にして是れを商談中の圖とす、

函館東濱町四番地

藤野函館支店

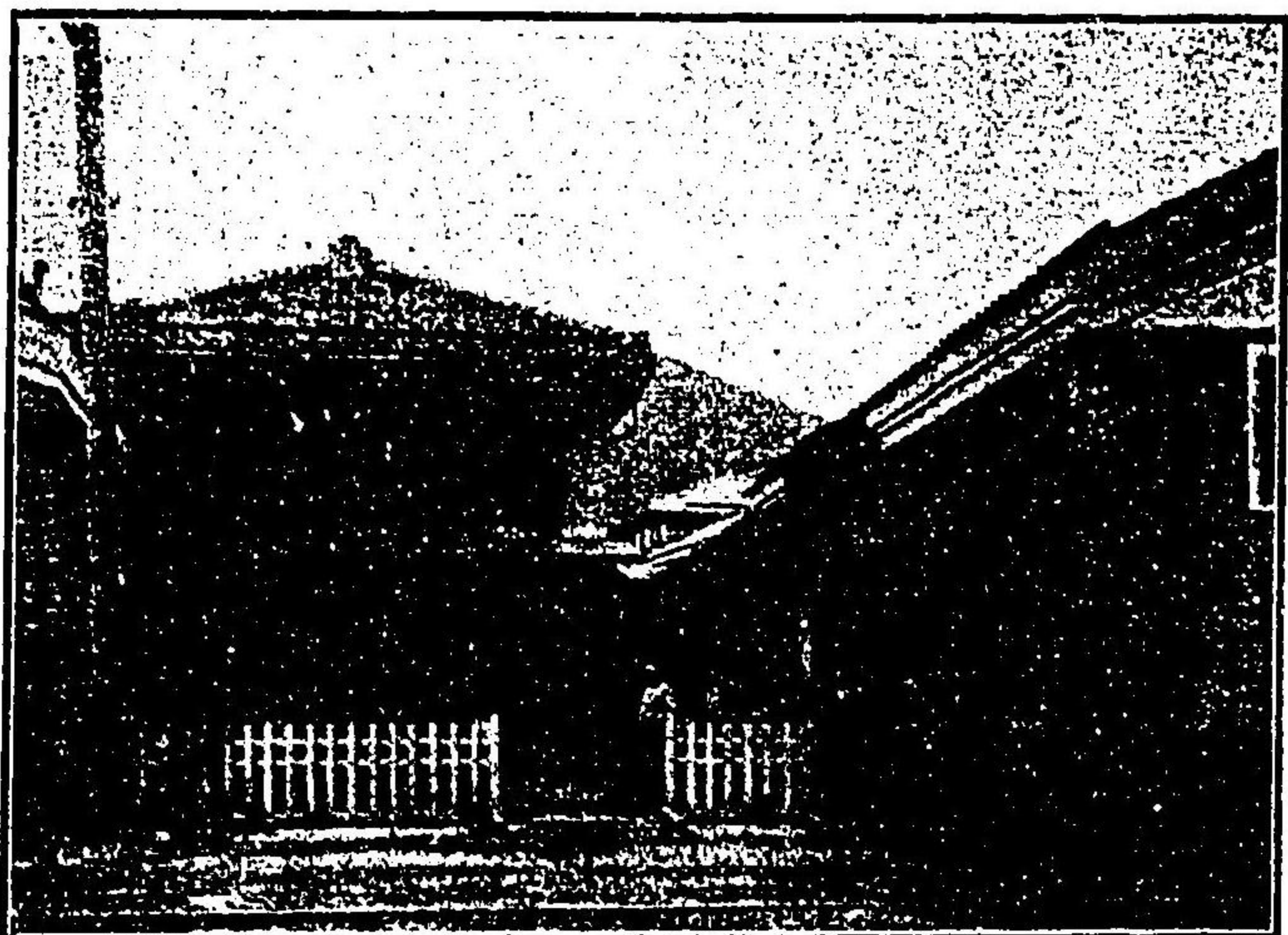
(電話二三三六番)

函館仲濱町八番地

藤野倉庫部

(電話二三三五番)

支配人 龍田治三郎君

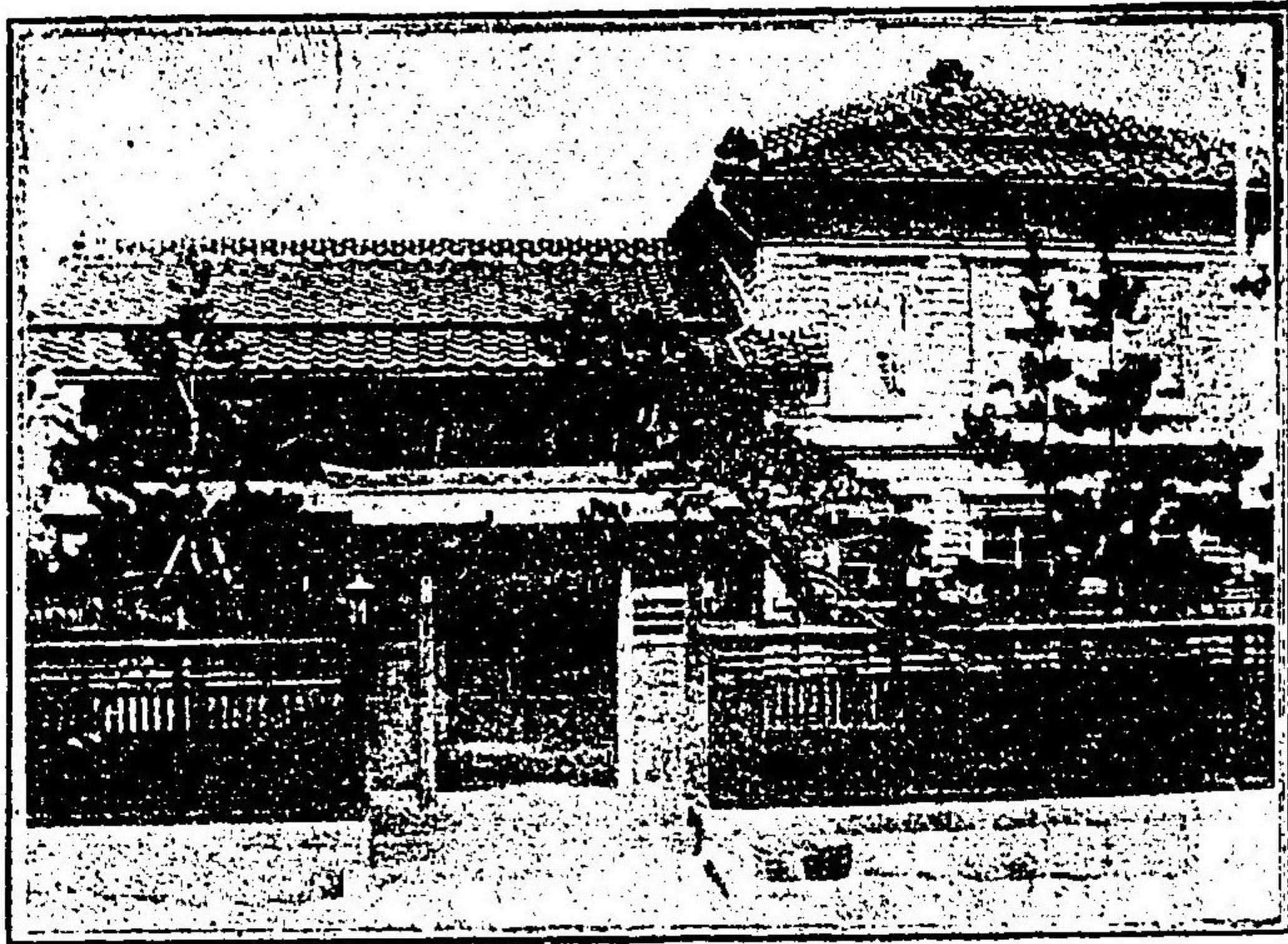


藤野函館支店

掲ぐる所の寫眞は藤野函館支店の一部を撮影したるものなり、函館支店の營業は、水産業、倉庫業、汽船運輸業、委託販賣業、罐詰賣捌業等とす、支配人を龍田治三郎君と云ふ、君忠良着實にして世故に通じ商情に精しく事に處する誠實機敏にして信用最も厚し、君の斯業に従事するや幾んど二十年間其精勵一日の如し、以て其功勞の少からざるを知るべし

本店は大坂市中ノ島二丁目に在り店主を藤野四郎兵衛君と云ふ、舊來の富豪家にして其英名夙に全道に轟く、本店の營業は呉服部、漁業部に分ち支店は根室、北見、釧路等に在り、漁場は北見國紋別、網走、常路、斜利數郡に跨り、又根室國根室、標別、目梨、千島國國後各郡に在り、實に本道第一流の水産業者なり、年々の重なる漁獲は鯨、鮠、鮭、鱒、昆布等にして其額巨萬に及ぶ、又根室國別海、標津に宏大の罐詰製造所を有し鮭、鱒罐詰を製出する夥しく、夙に海陸軍の需用に供せらる、實に帝國罐詰製造所の巨擘たり、又廣大の牧場は石狩國美幌、近文、北見國於正府、鉛沸にあり牛馬を牧畜すると盛んなり

内山吉太郎



一〇五 内山商店

内山吉太郎は本道屈指の水産業家にし
て、夙に露領さがれん島に漁業を営み、
爾來年々多額の巨利を収む、現に薩哈噠
嶋漁業組合頭取たり、沈勇にして剛毅、
志望遠大、雄才人に過絶す、實業に精し
く兼て政界に通じ、又坤輿の大勢に通ず、
其の風彩最も人の愛敬する所なり、本年
擧げられて衆議員議員となる、是れ衆望
の歸する所に依る又各所に山林、耕宅地
を有し、常に意を殖産興業の事に用ひ、
公共に益する所多し

函館選出代議士

内山吉太郎

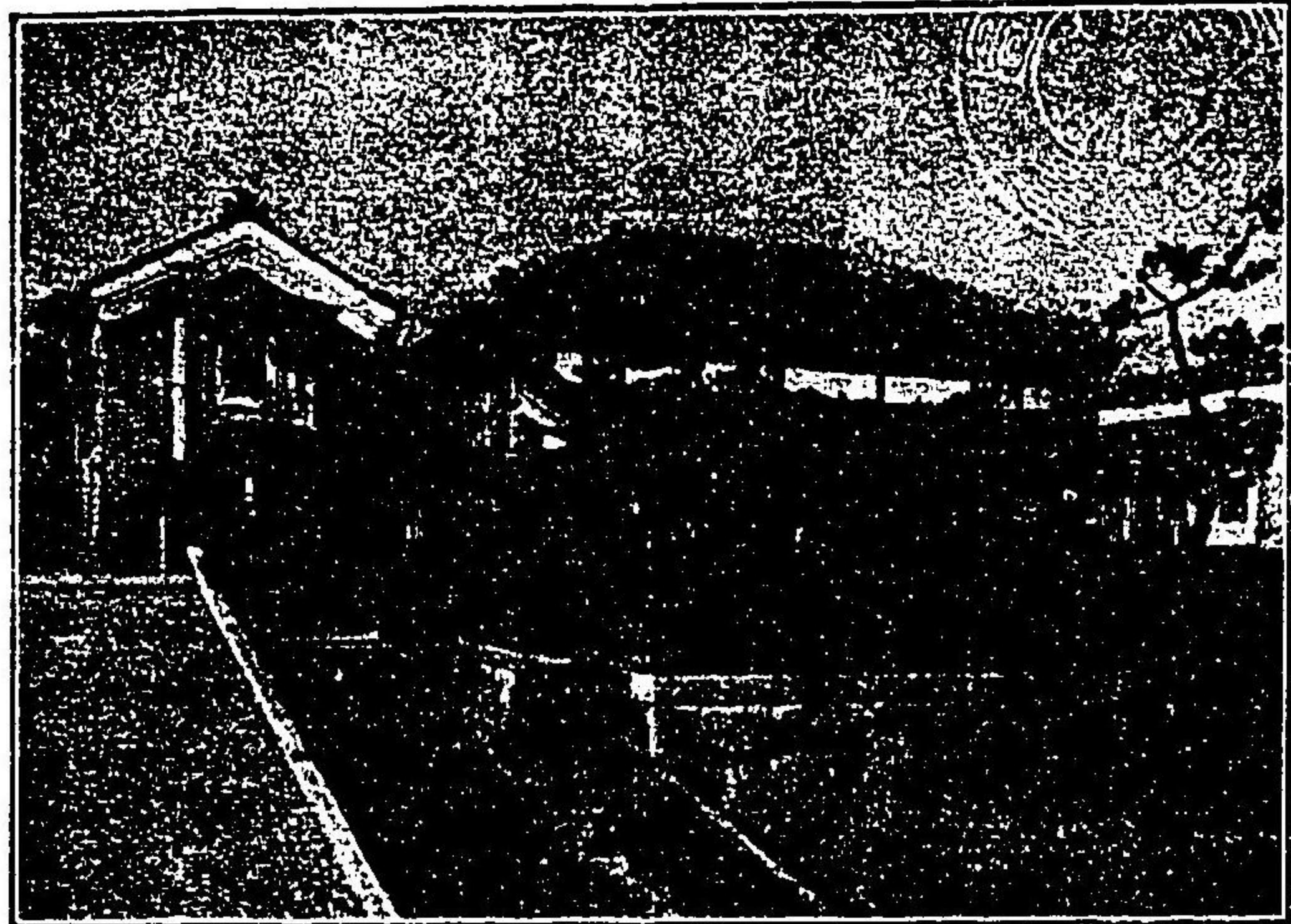
一〇四 内山吉太郎



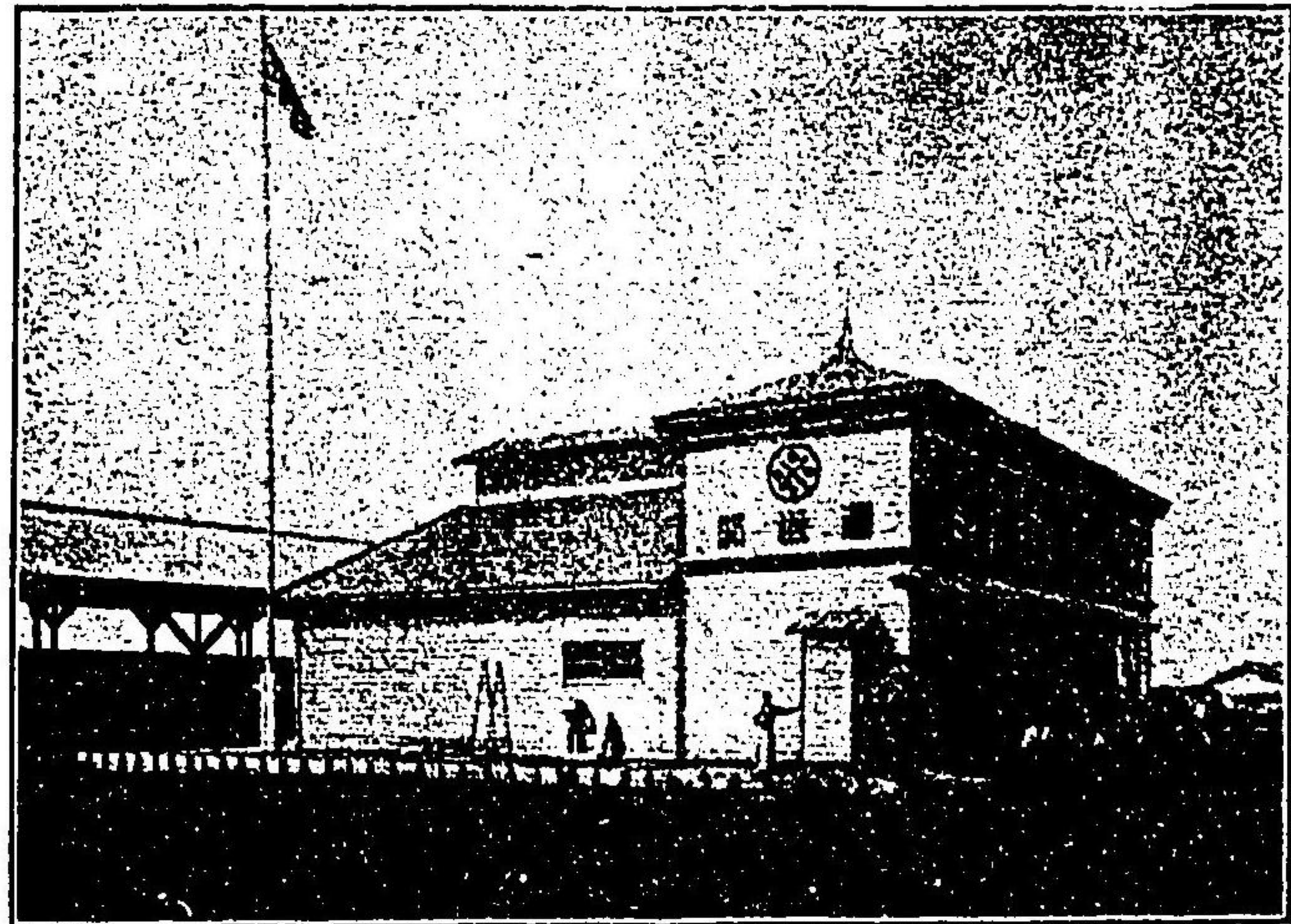
函館天神町十五番地

(電話六番)

米 林 伊 三 郎 君



米 林 支 店



一〇六 米林商店

米 林 伊 三 郎 君



米林伊三郎君は剛毅果敢にして事に處する快活、船舶を有し夙にさがれん島に於て大に漁業を営む、年々の收穫巨額に及ぶ、水産業者中錚々の盛名あり、各所に有望の耕宅地を有せり、又海岸町鐵道停車場附近に於て支店を設け、貨物運送の業を営む、將來の隆盛想ふべきなり

函館會所町四十一番地



米 林 商 店

(電話一四四番)

同海岸町停車場

運送部米林支店

一〇七 米林商店

函館區大町二十番地

北海産業合資會社

電話百三十一番
電信畧号(サンケウ又ハサン)

北海産業合資會社は各地著名の富豪家を以て組織せられ、商業部、漁業部、回漕部の三分に分てり、商業部は米穀、雜穀、海産物、肥料、食鹽等の委託販賣を爲し、漁業部は遠く露領れこつく海、かむさつか海、にこらいすく海の各地に於て盛んに鮭、鱒の漁業を營み年々の收獲巨額に及ぶ、其他各地に漁業を營む、是れ實に會社特得の事業に屬す、又近頃漁船筑紫丸を購入して海運の事業を擴張し、三部相駢馳して愈々益々隆盛を極む、其營業確實にして信用最も厚く、取引日に盛なり、函館港諸會社多々ありと雖ども、海陸物産の營業を以て巔然頭角を顯すものは同會社に若くものなし、實に内外物産商界の泰斗と云ふも敢て諛言にあらざるべし、聞くが如くんば、該會社員は屈指の資産家にして事業の擴張に従て漸次に増資するものなりと云ふ、以て營業前途の隆盛を卜すべし、社長永瀧松太郎君は江差の豪族にして、江差銀行の頭取、江差町長を兼ね其盛名世に著はる、専務取締役内野高吉君亦資産に富み、廣大の耕地を有し、實業の經歷最も多く夙に敏腕家を以て稱せらる、而して君實に會社一切の業務を擔當し、熱心に事を執る、會社營業の日に隆盛に赴くもの誠に謂ある哉

函館商業會議所會頭
岡本忠藏君



函館區末廣町二番地

岡本商店

(電話四二一番)

岡本商店は海陸物産、肥料、委託賣買を以て其名夙に著はる、其取引廣く本道各地より各府縣に渉る、實に本道物産商界に於ける屈指の商店なり、營業確實にして信用極めて厚し、又各所に廣大の好漁場を有し年々收穫多し、店主を岡本忠藏と云ふ、英敏にして慧悟能く商界の利害を詳かにす、而して其志望亦小にあらず、常に思を函館港商工業の發達に致し、盡瘁する所少からず選ばれて函館商業會議所會頭に擧げらる、更に輿論の露、清、韓國の商工業視察を必要とするや、君視察員に選ばれ、既に清國視察中にあり、其齎らす所必ず多からん、店員亦俊才多く、業務精勤最も懇切なるを以て商勢日に盛んなり

太 刀 川 商 店



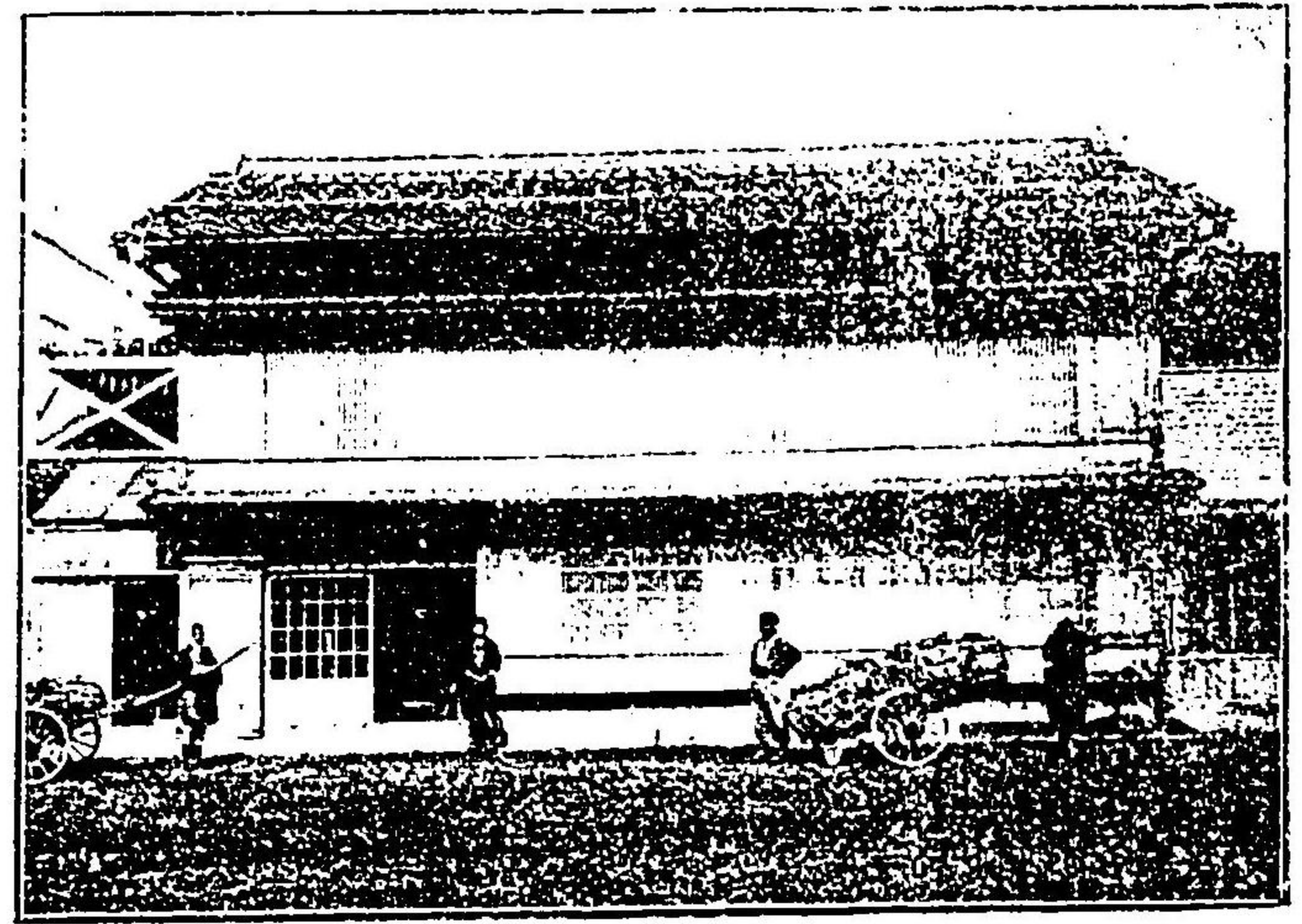
一二三 太刀川商店

函館西濱町二十八番地
太刀川商店

(電話三四〇番)

太刀川商店は米穀商を以て夙に其盛名を内外に知らる又物産商を兼ね、本道屈指の豪商にして函館港の大商店たり、其取引府縣各地より全道各地、魯領に及ぶ、實に本道米穀商の巨擘たり、各府縣より函館港へ輸入する米穀總額年々六十萬石とす而して本店の之に關するもの最も多きに居ると云ふ以て其盛況を知るへし店主を太刀川善吉君と云ふ、剛直にして質實屹として不拔の概あり、而して商勢に詳かなると掌を指すか如し、今日の隆昌を致せる所以なる歟信用最厚くして營業日々振ふ、公共に盡粹する所亦多し、

前田商店



前田商店

カ

函館幸町二番地

前田商店

(電話二一一)

前田商店は物産、肥料、米穀、委託販賣を業とし、又多数の船舶を有して、回漕業を営む、本道屈指の巨商にして、其取引最も廣く、信用極めて厚し、店主を前田嘉左衛門君と云ふ、直實にして懇切の人なり、店員亦其業に勤勉なるを以て四方の華客競ふて取引を爲す

煉土網耐石瓶屋
瓦煉火石
石管足瓦灰類瓦

製造所

龜田平工場

電話(三二二番)

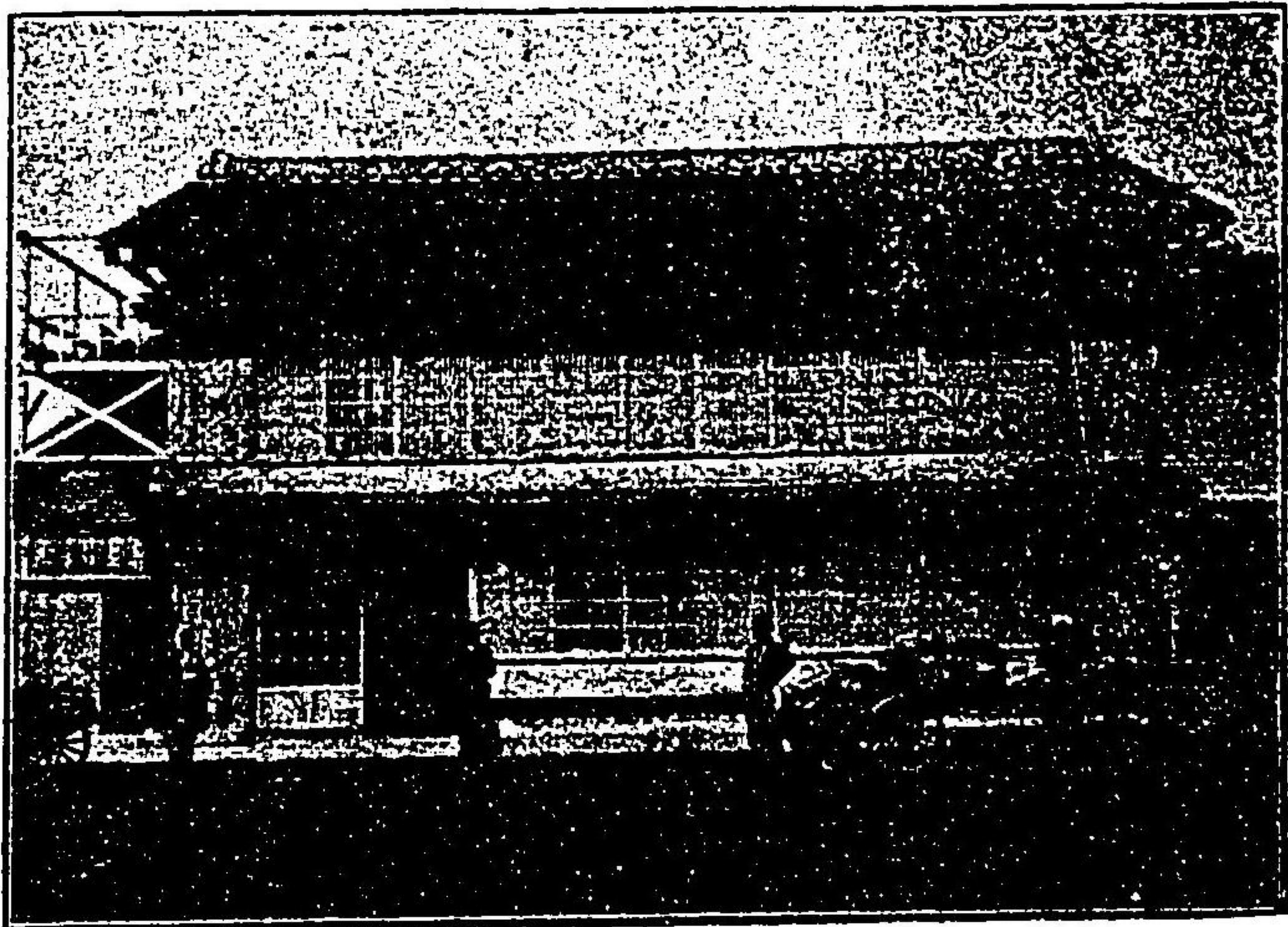
製造販賣所

函館區真砂町二番地

平商店

電話(三二二番)

前 田 商 店



一二三 前田商店

カ

函館幸町二番地
前 田 商 店

(電話二一一)

前田商店は物産、肥料、米穀、
委託販賣を業とし、又多数の船
舶を有して、回漕業を営む、本
道屈指の巨商にして、其取引最
も廣く、信用極めて厚し、店主
を前田嘉左衛門君と云ふ、直實
にして懇切の人なり、店員亦其
業に勤勉なるを以て四方の華客
競ふて取引を爲す

二十銀行
函館支店支配人
砂澤正俊君



函館東濱町一番地

株式會社 二十銀行函館支店

(電話二六六番)

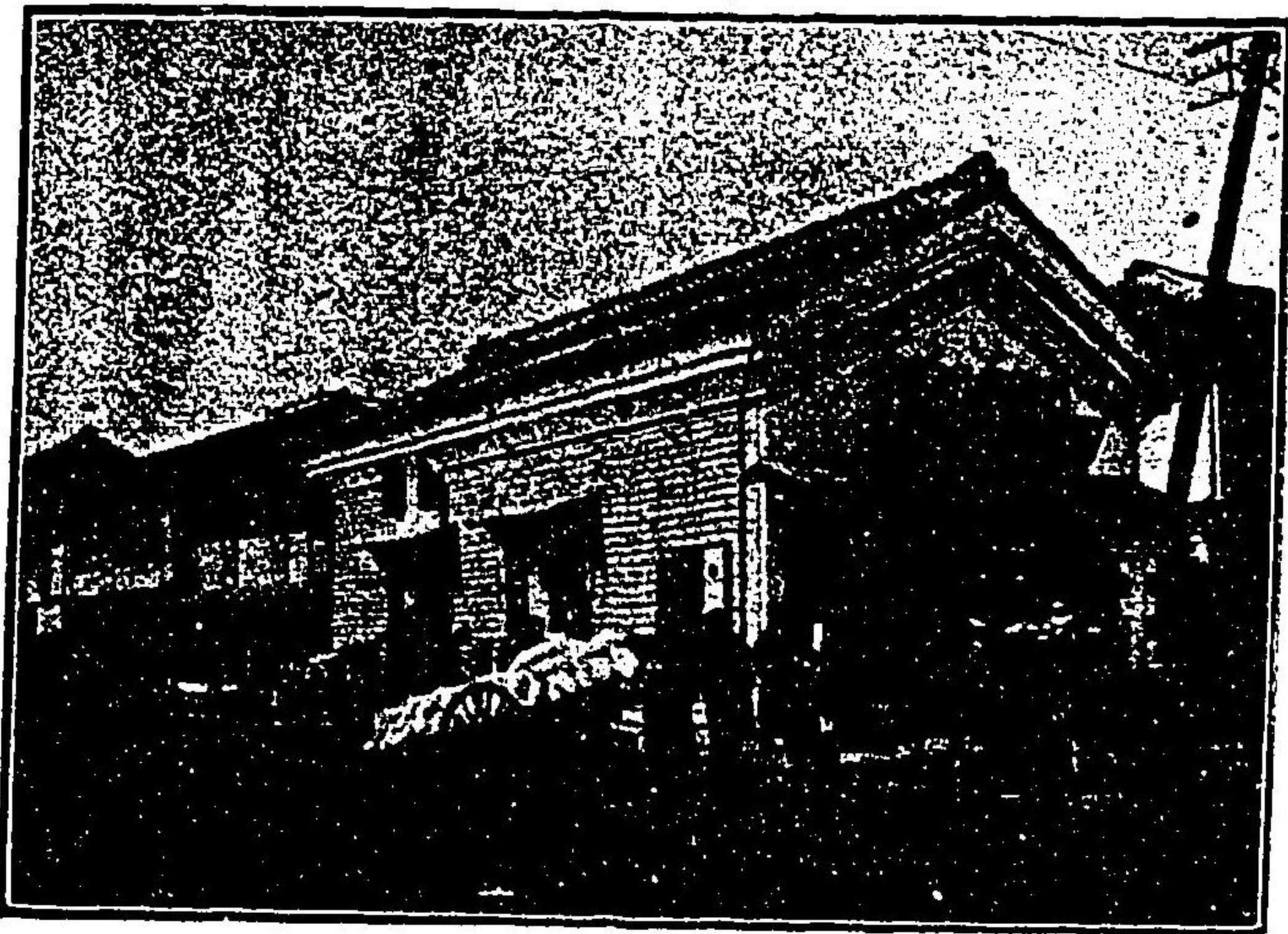
株式會社二十銀行函館支店は夙に其盛名を全道に知らる、本店は東京にあり、最も北海道に重きを置くを以て特に支店を函館小樽、根室に設く、函館の支配人砂澤正俊君は、支店創始時代より業務に従事せられ、寛厚誠實にして商界の事情に通じ、銀行業を執ること確實、精敏、實業界に便を與ふるもの少なからず、信用極めて厚く、又力を公共の事業に盡し益する所少なしとせず、故を以て名望愈々高く營業益々隆盛なり

函館西濱町二十三番地

△ 濱崎商店

(電話二三四)

濱崎商店は雜貨荒物卸商及物産商、肥料商、委託販賣業を兼ね、實に本道屈指の紳商なり、取引の範圍最も廣大にして本道は勿論、秋田、青森等に及び營業確實にして信用極めて厚し、撮影する所の盛況を見て以て其隆盛を推すべし、店主を濱崎治助君と云ふ、精敏にして眞率公共に盡す所多し、店員亦懇切なり



濱崎商店

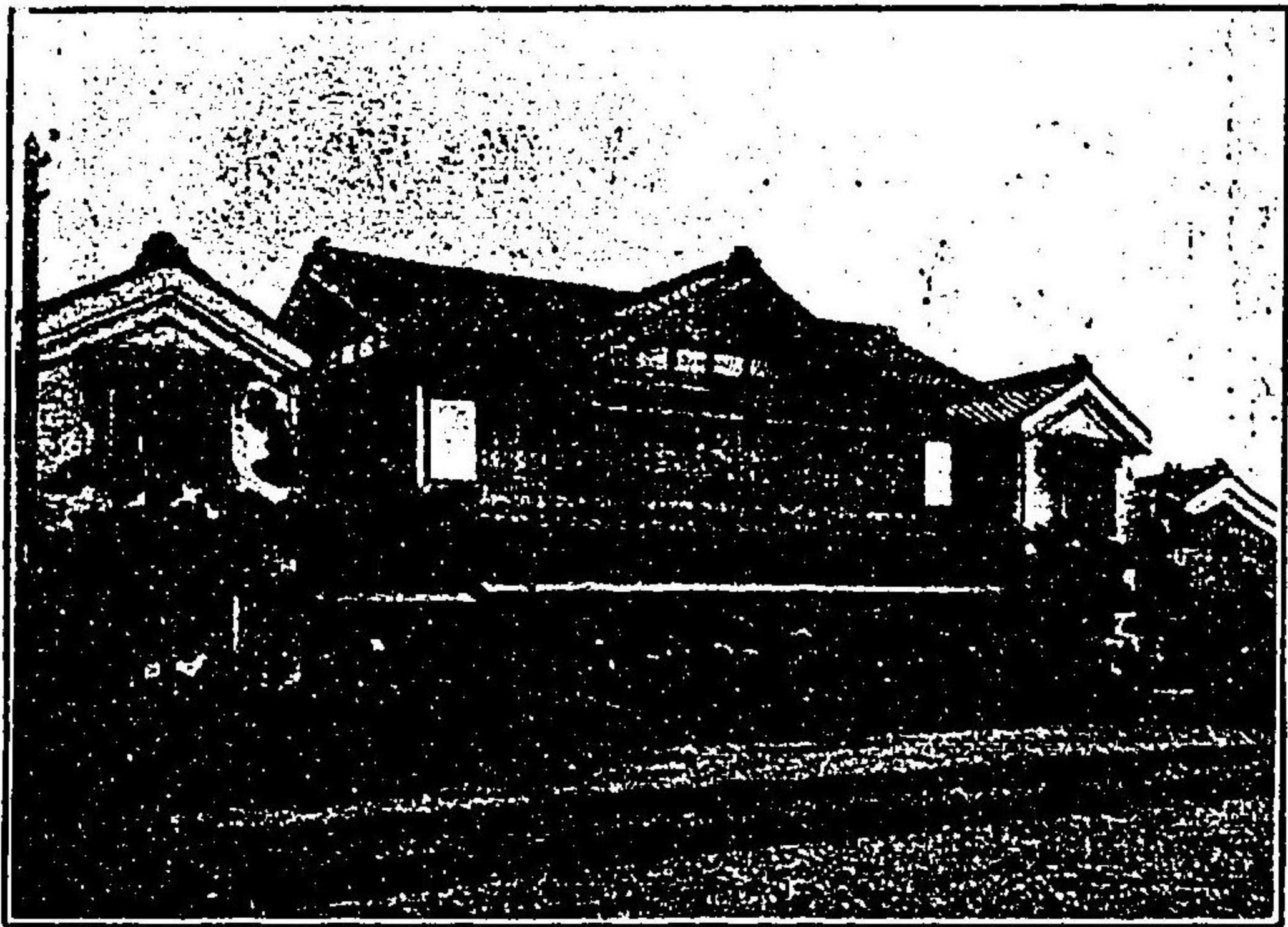
函館西濱町十五番地

◇ 小川商店

(電話六四六)

小川商店は米穀、海陸物産商、肥料、委託販賣を以て知らる、本道屈指の巨商にして其取引本道各地より各府縣に亘たる、信用最も厚く營業日に隆盛なり、西濱町は實に函館港米穀輸入に關する巨商の多き所、商況最も活潑の地なり、而して本店實に其巨擘に居る、店主を小川彌四郎君と云ふ、機活にして誠實、店員亦勤勉なり

小川商店



米 穀 雜 穀 海 產 物
委 托 販 賣

函館港辨天町三十九番地

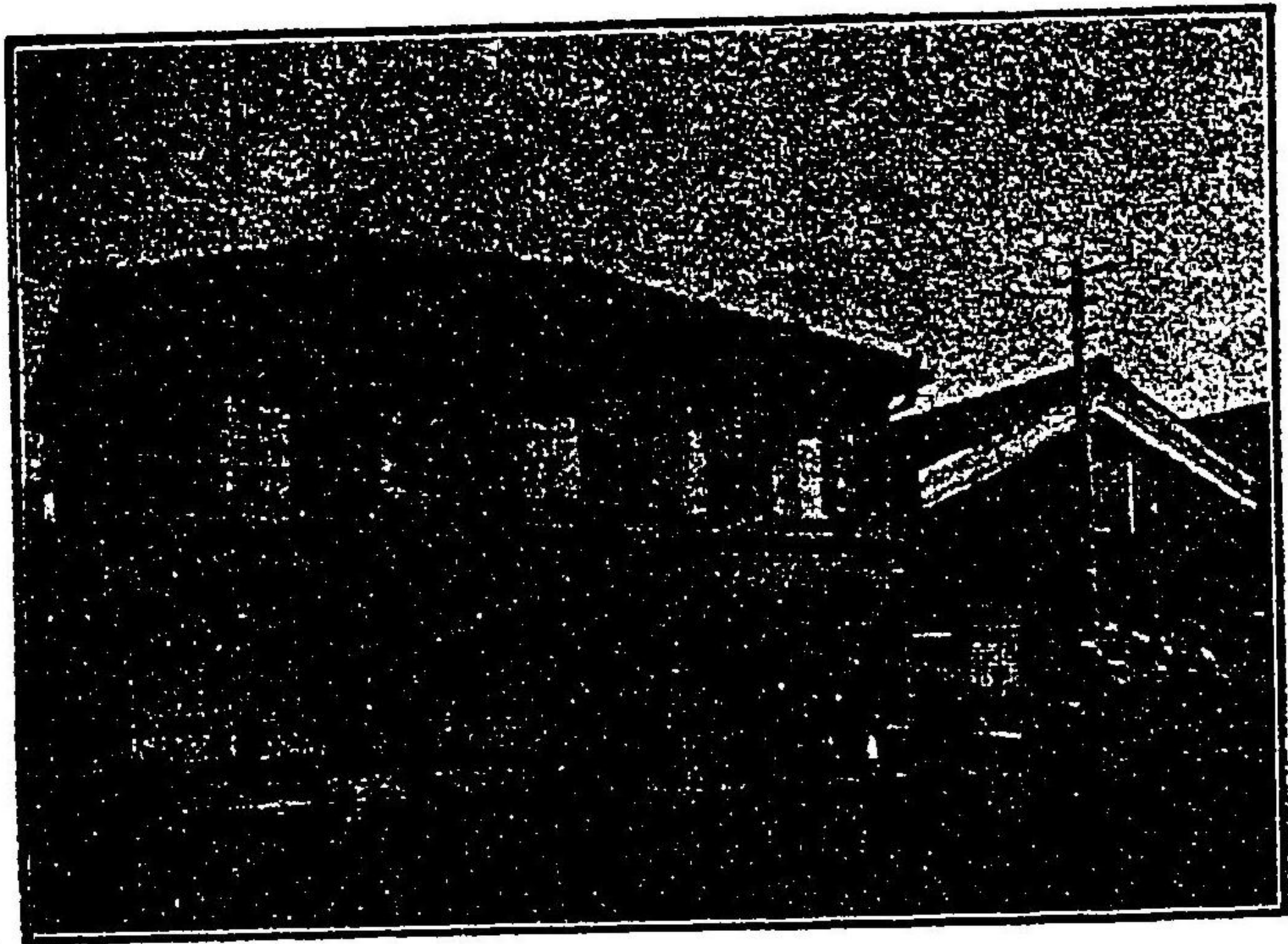


瀬川支店

電話番號(二番)

電信略號(セカワ)又ハ(セ)

瀬川支店



瀬川支店は米穀、海産物、肥料等委
托販賣を以て其業とする屈指の巨商
にして、營業確實、信用最も、商界
に厚し、本店は岩手縣盛岡市に在り、
店主を瀬川安五郎君と云ふ、知名の
豪商なり、支店主を小笠原金次郎君
と云ふ、能く商情に通じ、誠實にし
て聰敏勇往常に機先を制するを以て
營業益々擴張に至り、本道各地取引
極めて盛なり

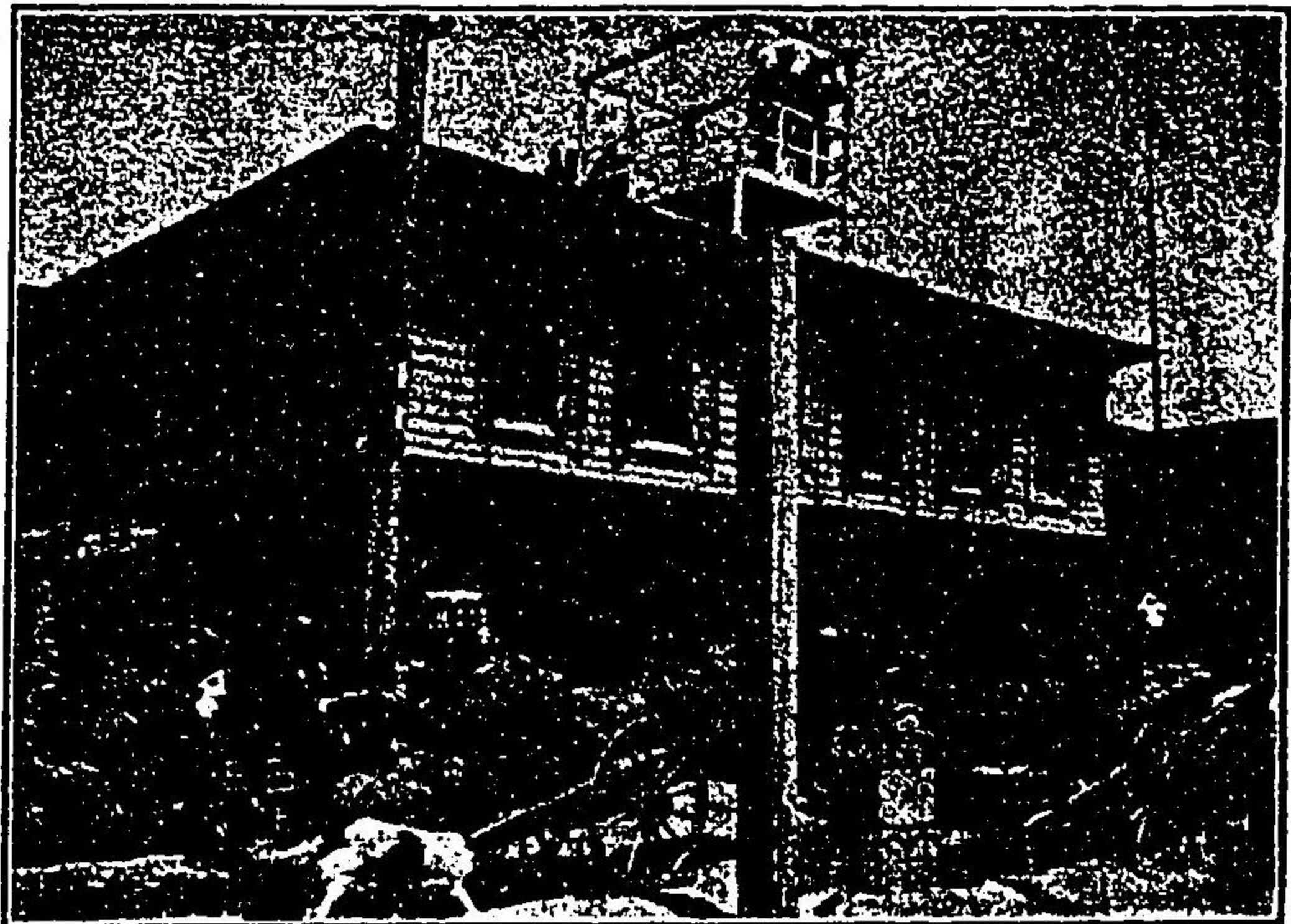
110 石垣商店

函館幸町七番地

合 石垣商店

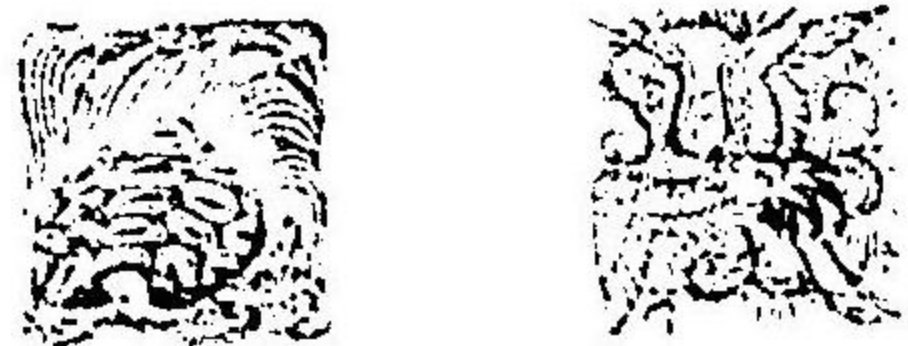
(電話三三七)

石垣商店は米穀、海陸物産商、酒類、醬油、
 雜貨荒物の委託賣買を業とし、又回船問屋
 を營み函館港屈指の巨商たり、其名夙に本
 道に著はる、又船舶を有して沿海の回漕を
 爲し貨主の便を謀り、營業確實にして信用
 極めて厚し、殊に海産物に在りては各産地
 の直取引最も多く貨物の出入日々絶ゆると
 なし以て盛況を知るへし、店主を石垣秀助
 君と云ふ、敦厚にして慈あり能く商勢に通
 す、實に當港の紳商たり、



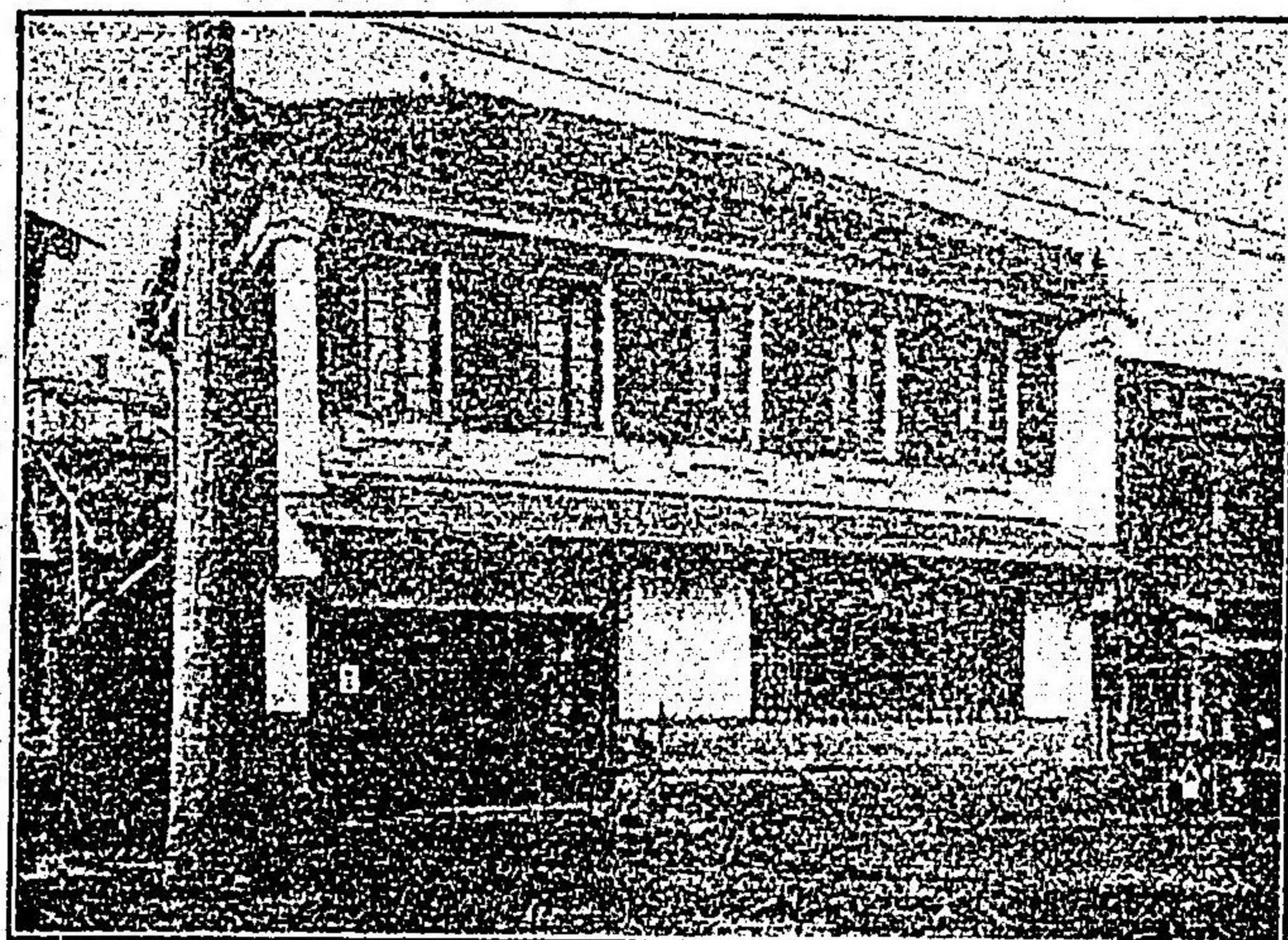
石垣商店

山 田 竹 次 郎 君



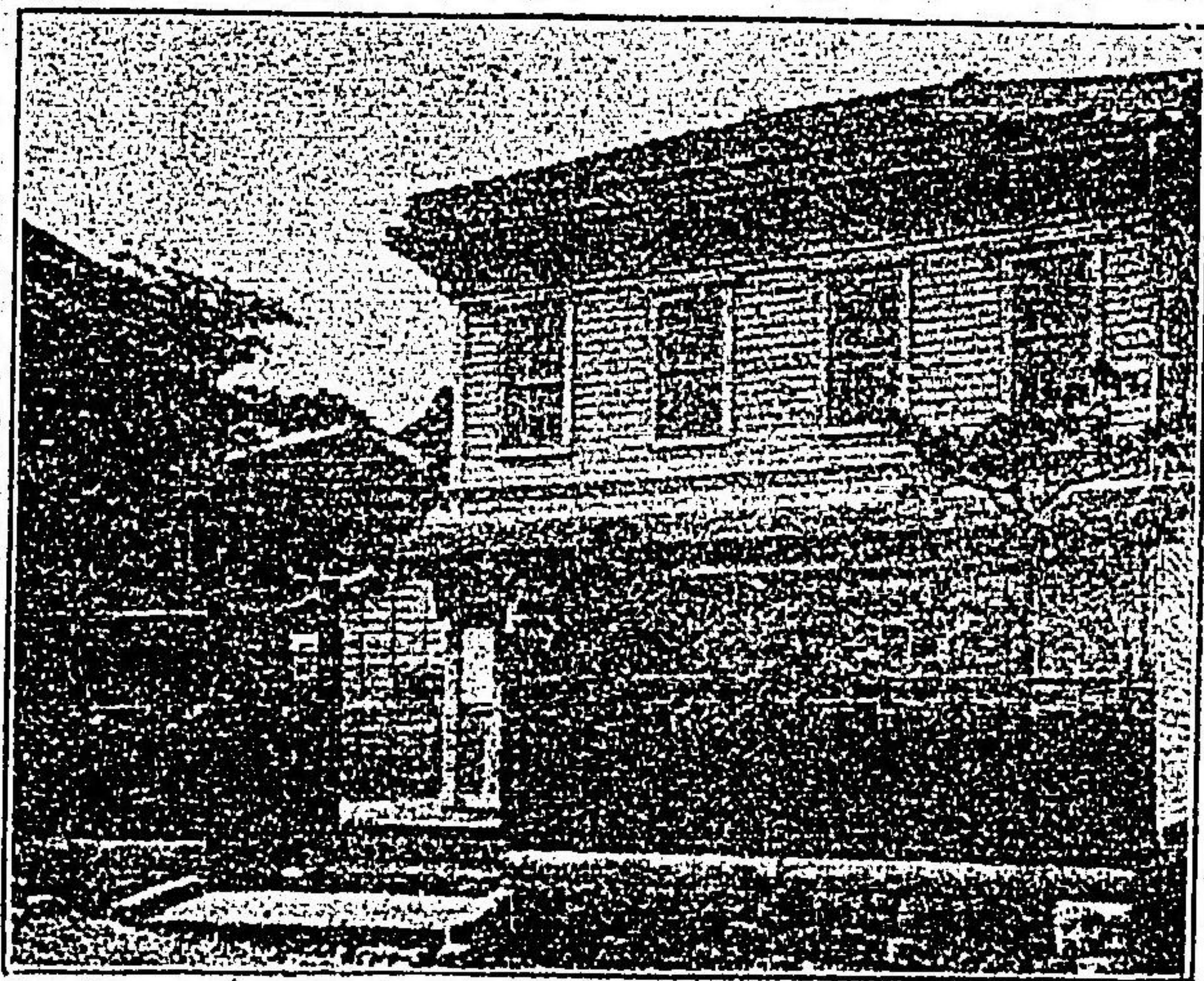
111 山田竹次郎君

山 田 商 店



山田商店

全 上 別 荘



兩館會所町四十七番地

山田商店 (電話五三四)

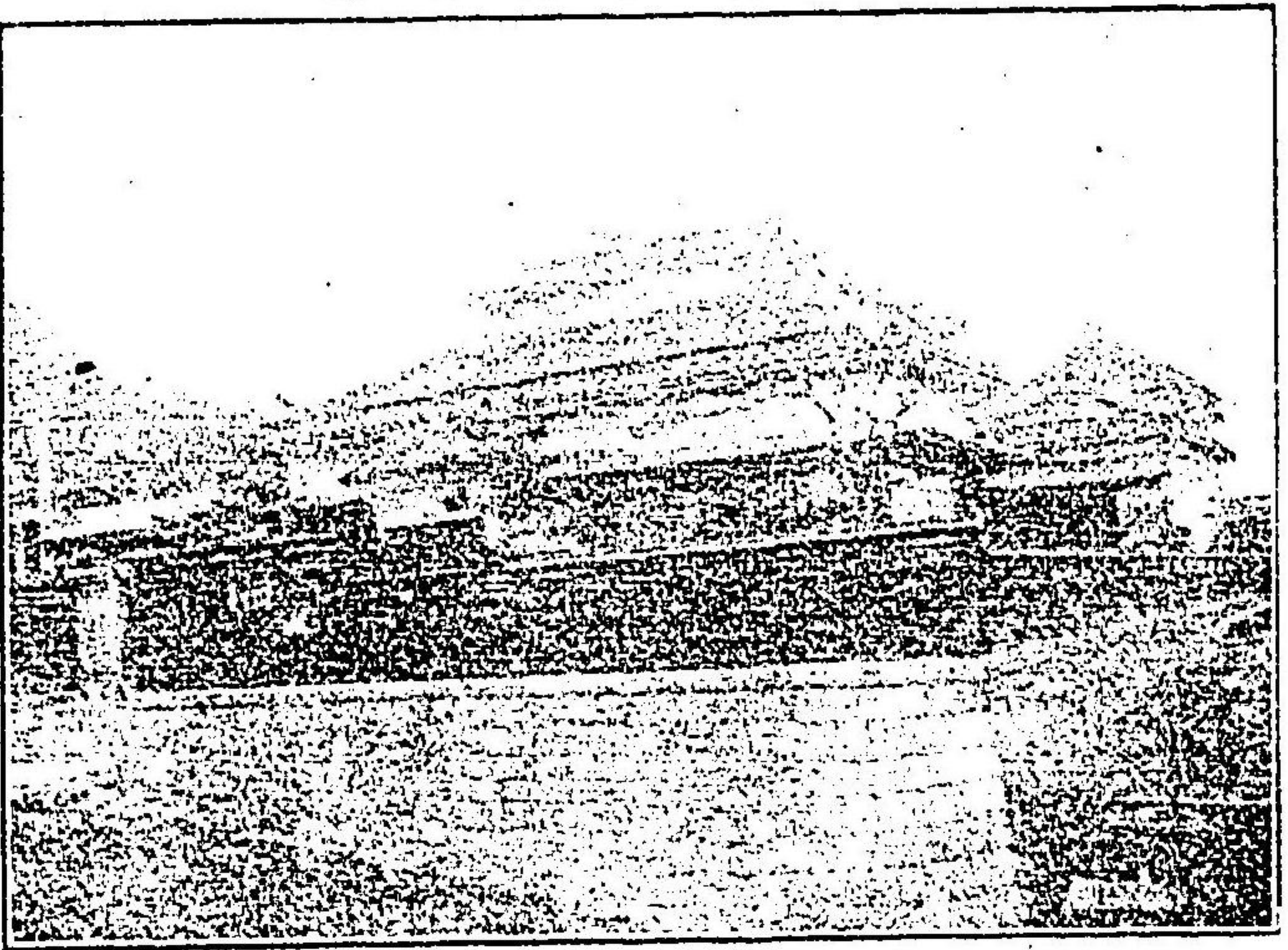
山田商店

山田商店は其盛名風に著はる、本道屈指の富豪家なり、物産商を營む、山田庄三郎君店務を督せり、市街及各地に廣大の耕宅地を有し、又多數の貸家を有せり、公共に盡す所多し、現に函館區會議員、函館商業會議所議員たり、又會社の重役を兼ね、嚴父を山田竹次郎君と云ふ、勇壯にして快活、又慈悲に厚し、嘗て船舶數十艘を率ひて盛んに水産業、回漕業を營み、遠くは薩哈噠島、東察加沿海に至り、年々巨萬の利を收め、以て今日の富豪を致せり、實に露領沿海に於ける斯業の率先者たり、今、汐見町の別邸にあり、閑居して風月を樂む、君齡幾んと八旬、而して身體雄健、元氣旺盛、壯者と雖も及ぶ能はず、嗚呼君の如きは所謂老て益々壯なるもの歟、而して庄三郎君孝道に厚く、店員亦忠勤を勵む、家政益々隆昌なり

筑前善次郎君



筑前善次郎君



筑前善次郎君の邸は兩館曙町に在りて、
 第二十七番地より二十九番に跨がる、(電
 話七二九番)、本道屈指の富豪家にして其
 盛名夙に著はる、其頭頭に纏ふ所のもの
 は難波船人命救助の廉を以て露國皇帝陛
 下より賜ふ所の神聖スタニスラス勳章
 (年金一千圓なり、)

平出喜三郎庭園



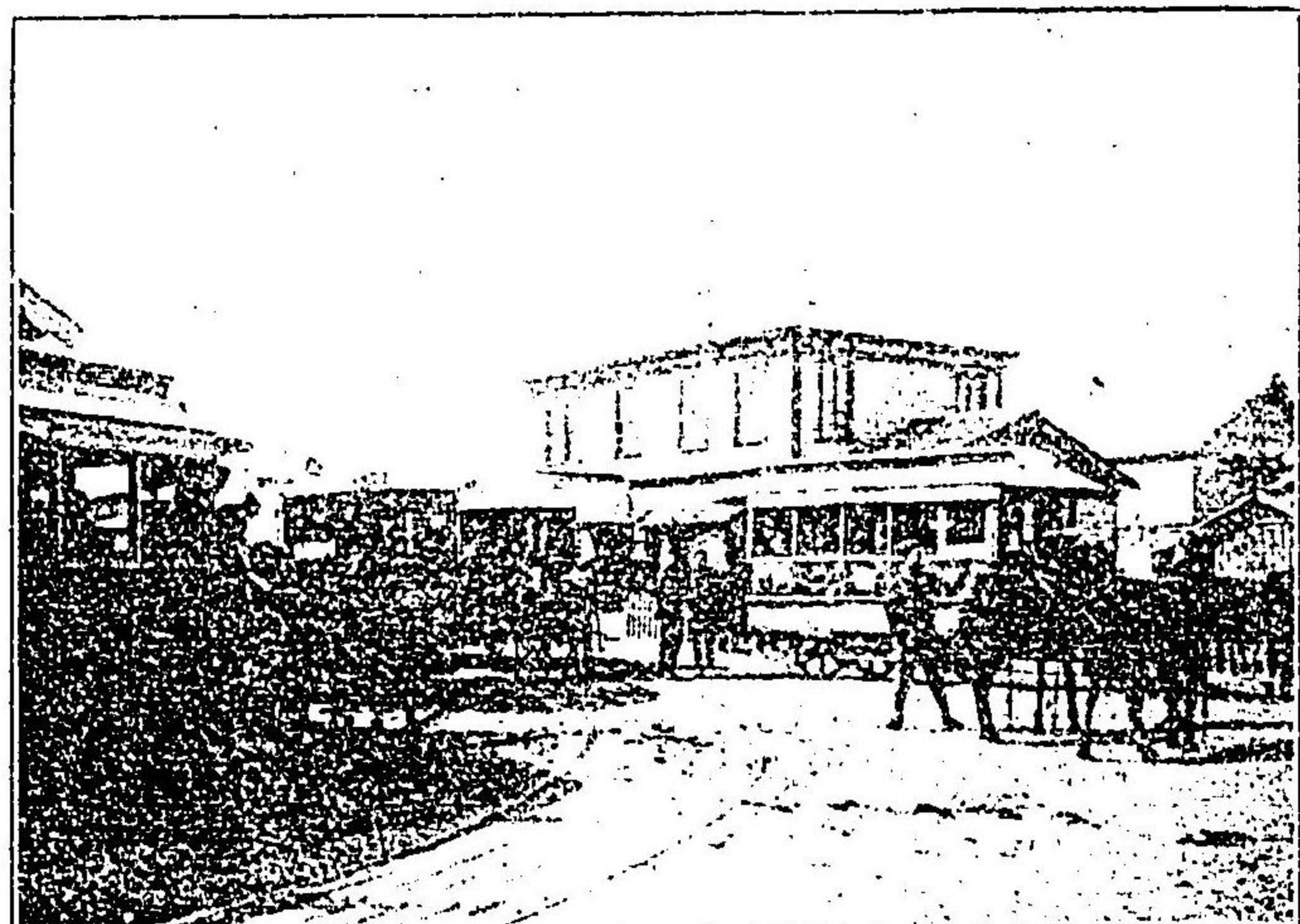
平出喜三郎君の邸は函館船見町百十一番地（電話一五四番）にあり、富豪の盛名夙に世に著はる、平出商店は仲濱町十八番地にあり、（電話三五六番）運輸業、物産業又各種の代理店を営む、千島國樺提に廣大の好漁場を有し、年々の收穫多額なり、又各地に好望の山林、耕地、果樹園等を有せり、君卓識雄豪、商界、政界に通じ、兼て宇内の大勢に通ず、併て營業税法改正の大問題起るや、君函館商業會議所會頭として大に盡力する所あり所得税法の北海道に施行せらるゝや解釋を異にする者あり往々弊を生

す君當局に交渉して事情を貫徹するを得たり、又併て北海道會議議長となり、函館區會議長代理に擧げらる、果決能く亂麻を斷するの概あり、宜なる哉前きに衆望によりて代議士に擧げらるゝことや、其他公共の事に盡瘁する所多し、君江海の雅量あり人之に服す、又風流を嗜み、書畫の鑑識あり、家に藏する所の古今名家の大小幅、屏風藏めて倉庫に滿つ、園中梅樹の下に憩へる者は平出喜三郎君其人にして、其左に在りて岩上に止まり、將に雄飛を試みんとするものは君の漁場樺提に獲たる所の大鰓なり



大鰓

函館馬車鐵道株式會社



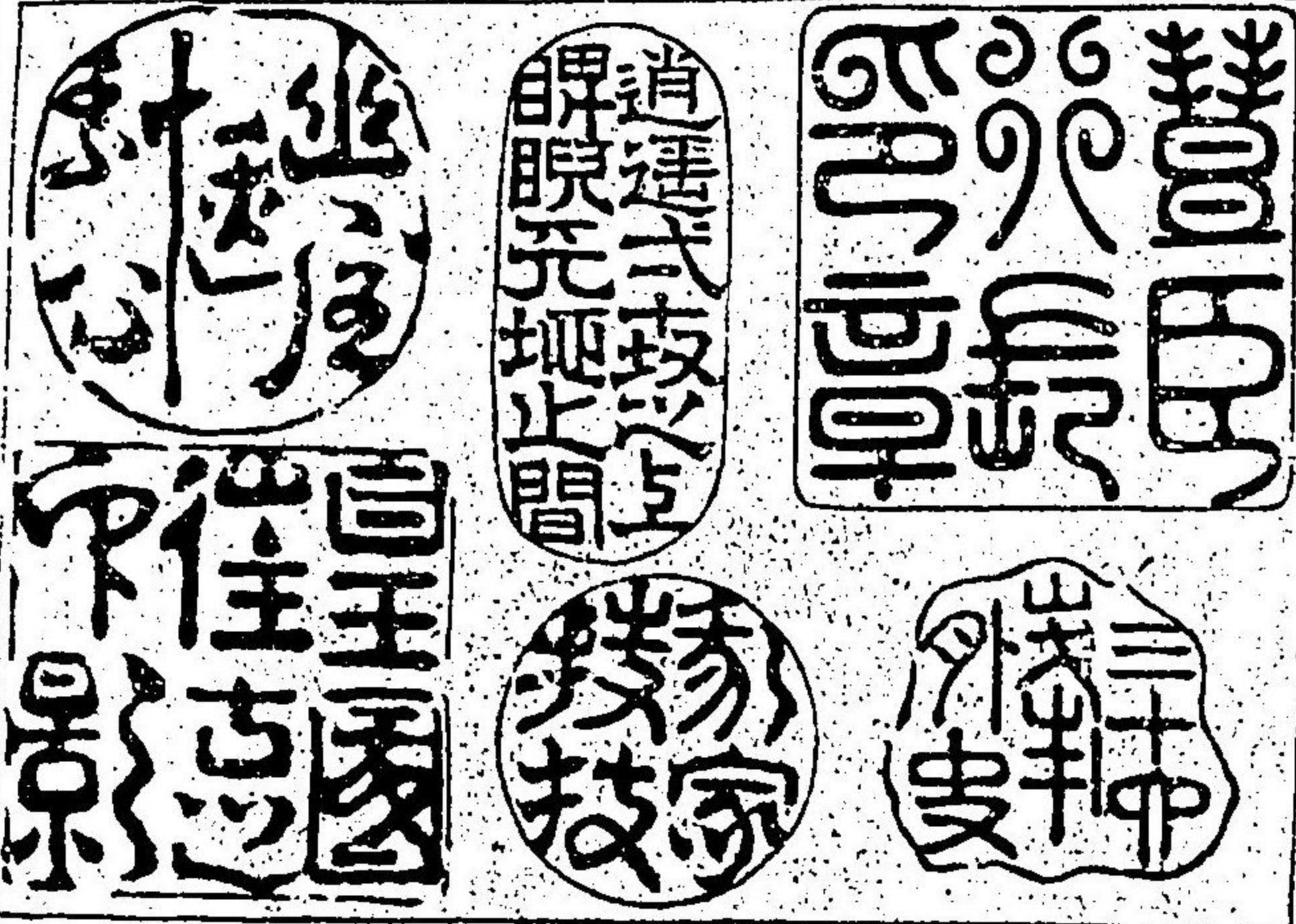
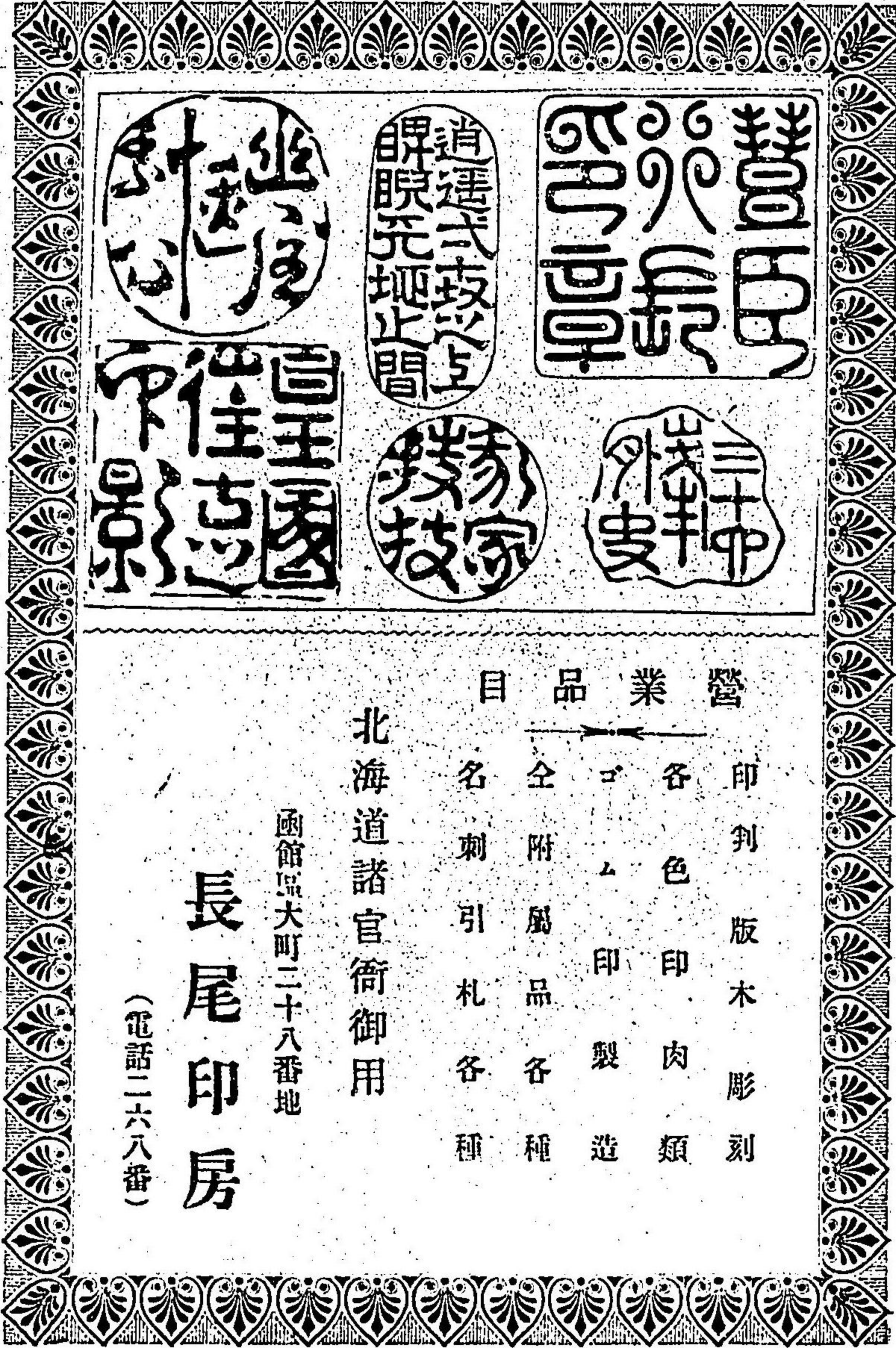
一二八 函館馬車鐵道株式會社

函館東川町二八八番地

函館馬車鐵道株式會社

(電話二六三)

函館馬車鐵道株式會社は東川町二百八十八番地(電話二六三)にあり函館の繁華を助くるの一大利器にして、函館市街より延て龜田村、及び著名なる湯の川村の温泉場に至る、總延長約十四哩其客車數十臺、其馬匹數百頭、寒暑風雨を論せず、街衢を縦横す、客車は皆美麗にして鐵路安全、運轉最も輕快、一區の乗車僅かに一錢に過ぎず、實に至便と云ふへし、今更に北鐵の海岸町停車場に連絡せんとす社長を松山吉三郎君と云ふ、屈指の富商にして盛名夙に著はる君沈勇にして卓識函館區會議員、函館商業會議所議員として公益の爲めに盡瘁する所多く聲望最も高し君社務に熱心にして監督宜しきを得會社の營業日々繁榮を加ふ



營業品目

印	各	全	各
判	色	附	色
版	印	屬	印
木	製	品	製
彫	造	各	造
刻	類	種	類
		種	
		種	

北海道諸官衙御用

函館區大町二十八番地

長尾印房

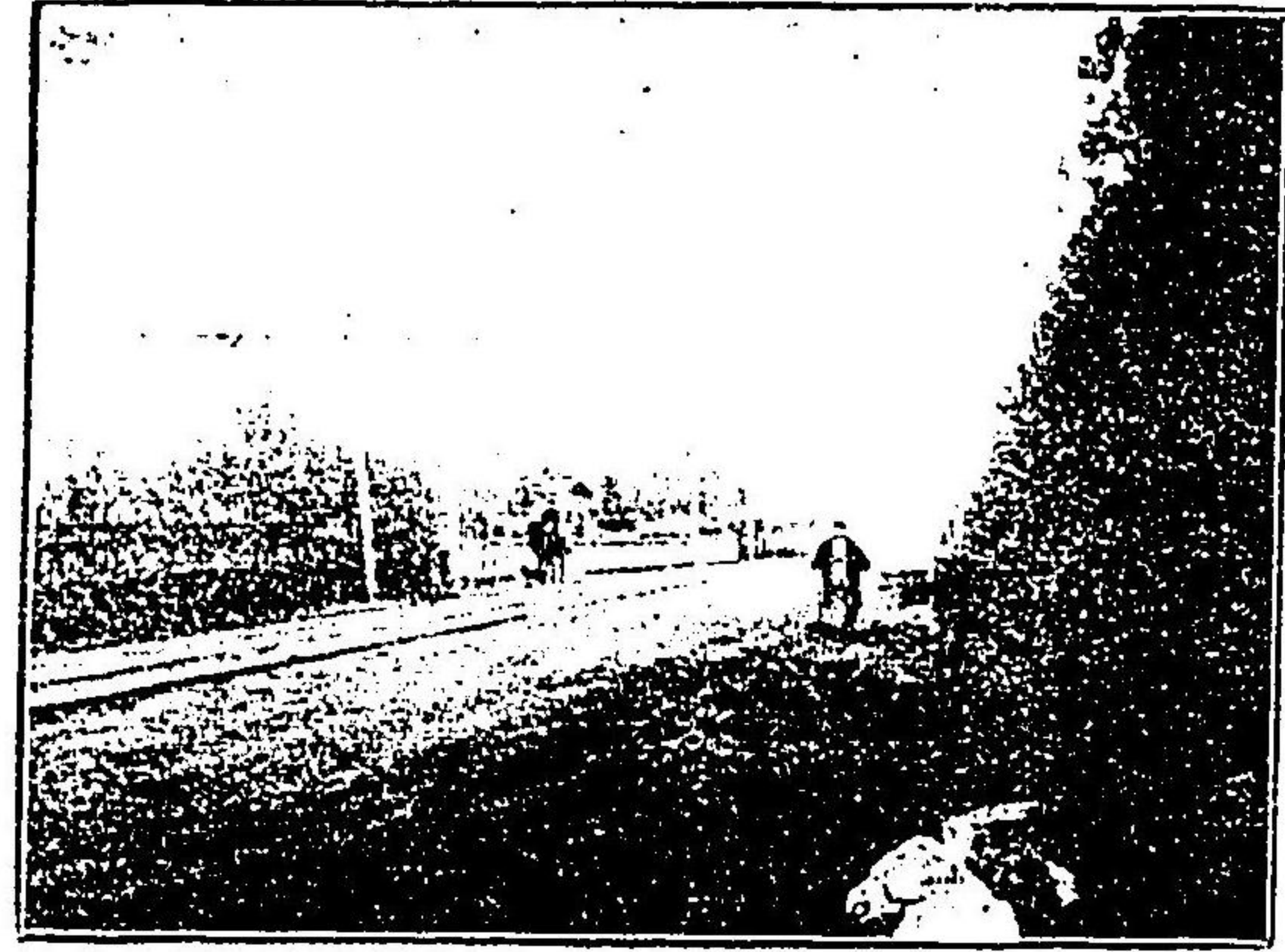
(電話二六八番)

一三九
福田由松君

福 田 山 松 君



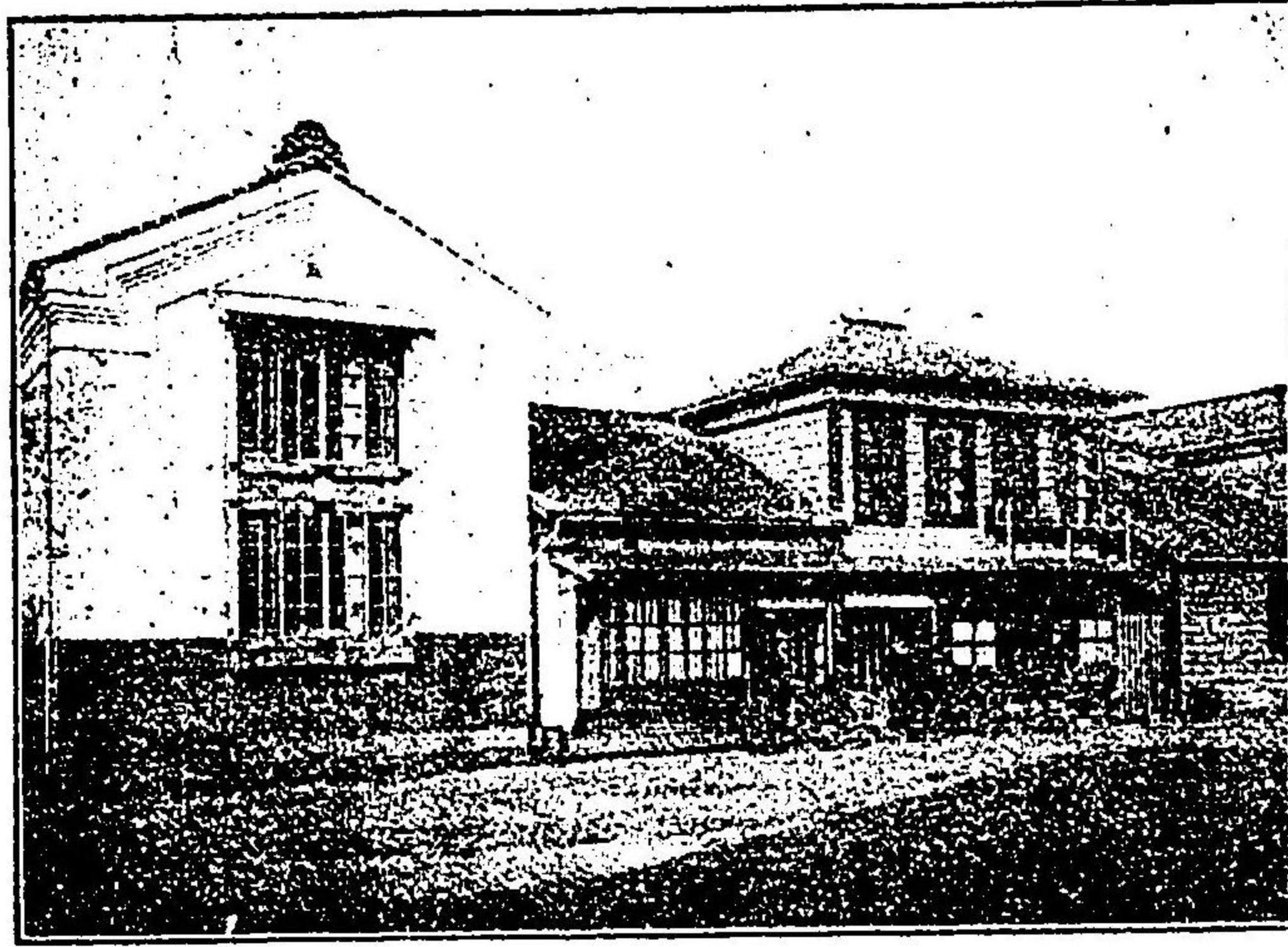
湯ノ川通福田邸前



全上邸内



同上西川町出張所



函館龜田村湯ノ川通

五 福田山松君

(電話四六八番)

函館西川町五十七番地

福田出張所

(電話五六四番)

福田山松君は巨萬の資産を有する本道第一流の土木請負業者なり、本邸は函館湯の川通りにあり、出張所を西川町に置く、本道に於ける土木建築の大事事は、多くは同君の關する所なり、現に函館土木請負業組合取締たり、君の請負に任するや、

其計算詳密、設計精確、勤勉勵精にして成功迅速毫も其計算と期日とを誤まらず故に信用極めて厚し、胸中成竹あるにあらずんば、誰れか能く此の如くならんや、稱して請負の巨擘となす誠に宜なり此に其最近の實歴一二を挙げれば函館裁判所の建築、函館改正道路の修築、北海道鐵道會社鐵道の敷設等なり、就中此鐵道中將に森村に達せんとする所の姫川鐵橋の如きは、高さ五十二尺其高ふして堅牢なること全道第一と稱す、而して今亦豪家渡邊孝平君の十萬圓寄附に係る公立函館病院建設の請負を爲せり以て其盛況を知るべし

土木建築請負業

函館西川町五十七番地

雨夜小太郎君

(電話五六四)

函館東川町二百二十三番地

高橋浦次郎君

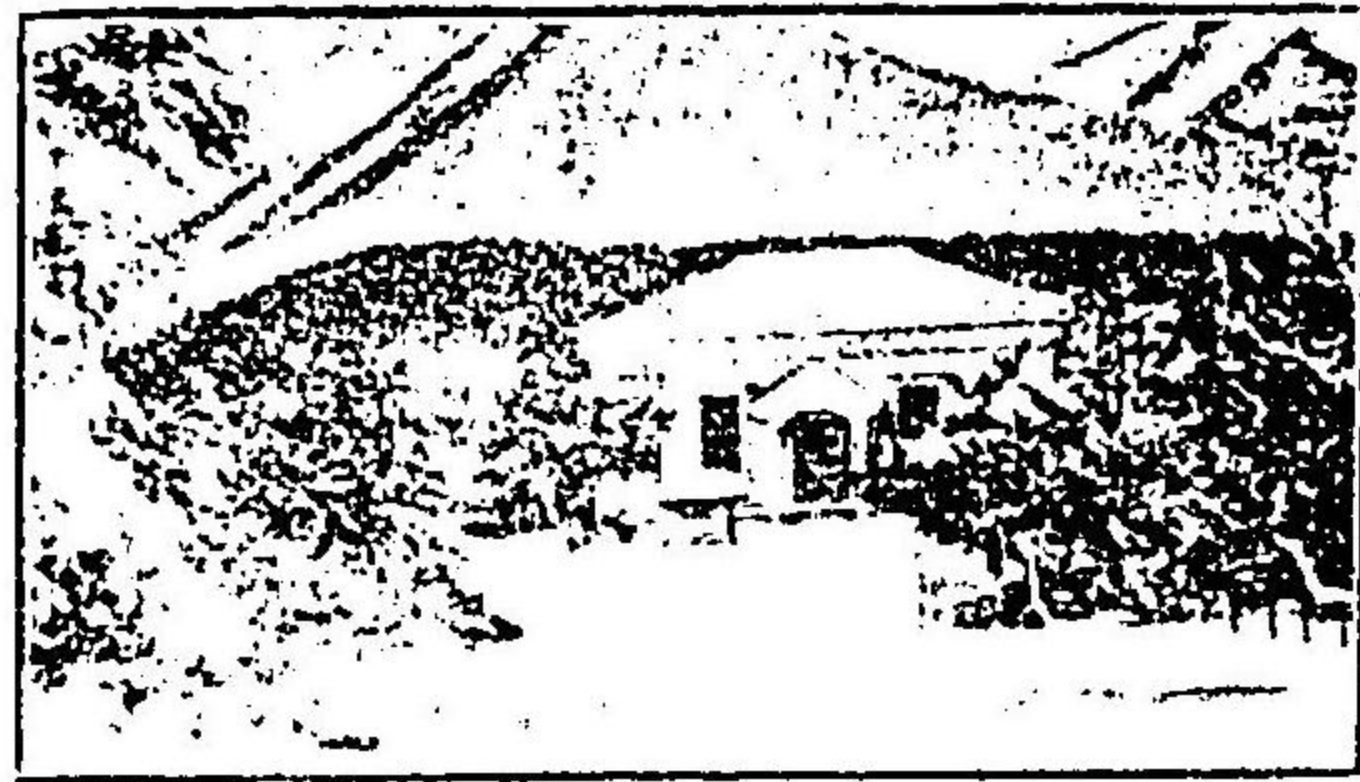
凍氷は函館の名産にして近郷より出すもの極めて夥し、就中函館東川町二百二十三番地高橋浦次郎君、西川町五十七番地雨夜小太郎君共同の事業なる、鍛冶村字中の澤より出すものを佳良とす、氷池略三萬坪、山間の一清池にして年々内務省の試験を受くるに其水質極めて清良なるを以て、隨て名氷を得るに至る、其氷は透明白玉の如く、厚さ一尺五寸に及ぶものあり、年々の伐氷夥しく、其盛名遠く聞ひ、販路極めて廣し

雨夜高橋兩氏、氷池ノ伐氷

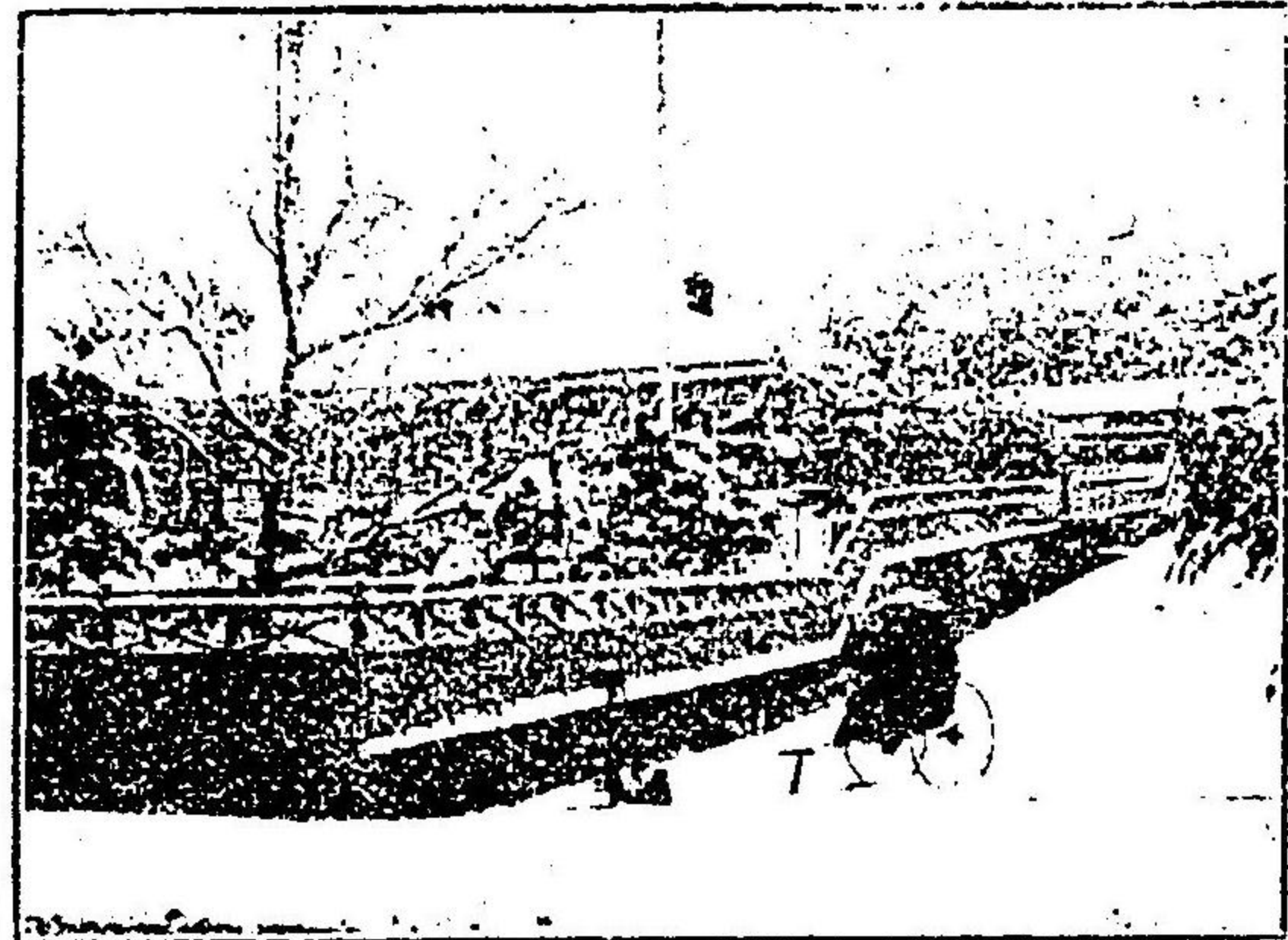


一三三 雨夜高橋兩氏、氷池

函館公園の雪景

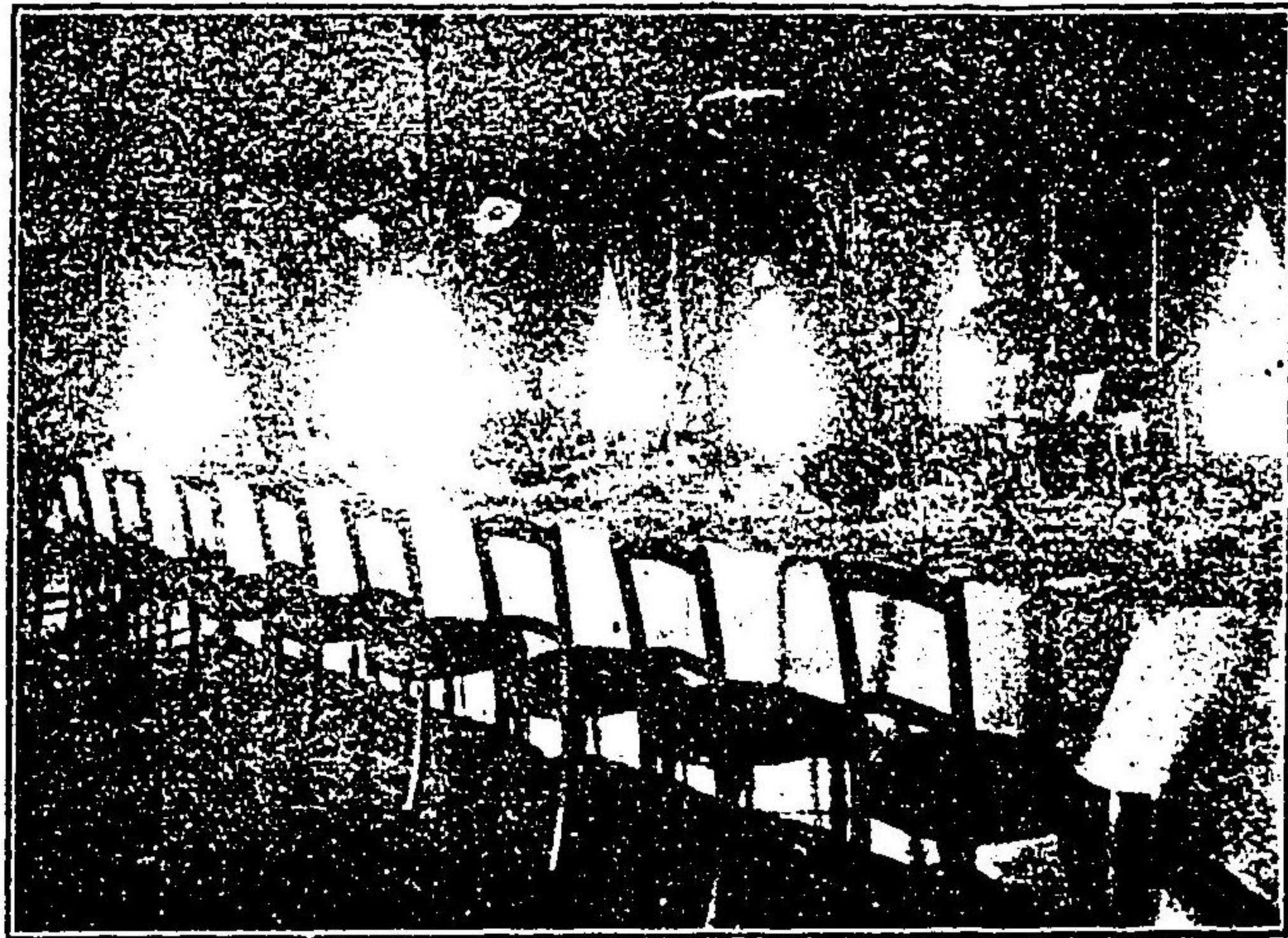


函館基坂の雪景



高館白玉の如く、庭樹瓊花を綴るものを英國領事館とす、取上は函館支廳の在る所なり、右方大道を隔て、函館區立病院、函館警察署あり、館と斜に相對して函館毎日新聞社あり

五島軒 (西洋料理)



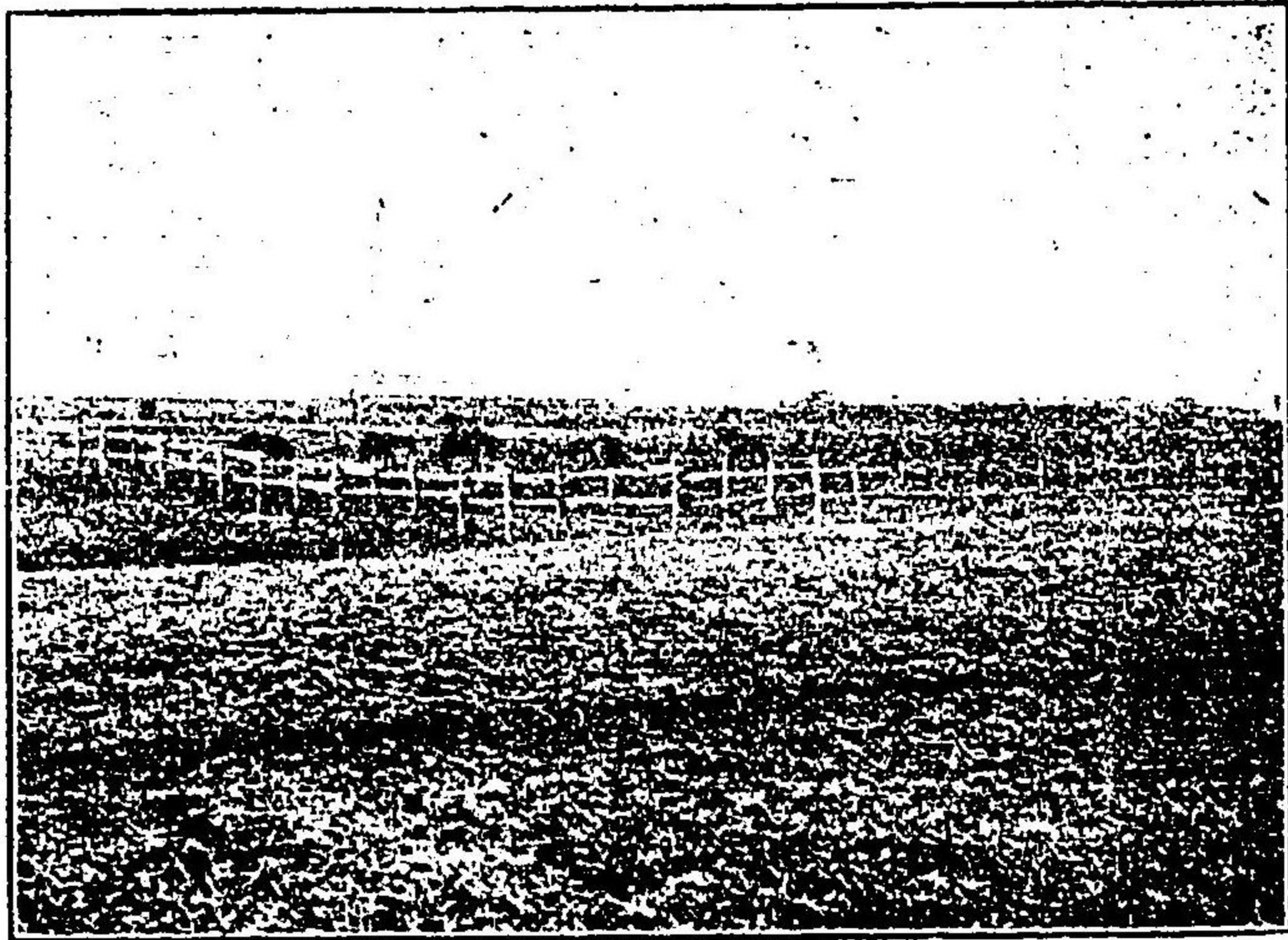
函館末廣町一番地

西洋料理 五島軒

(電話二二二)

五島軒は西洋料理を以て營業とし其の名風に著はる、内外國の華客四時絶ゆる時なし、樓三層、近年の新築にして室内壯麗、特に玉突場を設けて來客の遊戯に供す、西洋料理店多しと雖も、調理の精美なる當店の如きは多く見ざる所なり、宜なる哉其繁盛を極むることや、主人を若山惣太郎君と云ふ謹厚の人なり

常野牧場



常野牧場は下湯の川字草堀にあり、鐵道馬車の通ずる所、敷丁にして温泉場なる下湯の川村に至るべし、更に上湯の川村女の澤に於て廣大の牧場を有せり、其牧する所の牛馬數百頭、其地最も牧畜に適するを以て、年々の生産夥しく、駿逸良種を出すもの多し、而して草堀の地は、市塵を隔つる静閑の境にして、其地勢高燥、眺望廣闊、所謂青山碧海馬蹄の前にあるものは是れなり、綠樹亦心あり人間の炎熱を洗ふの涼を送り、螢火無數星の如く珠の如し最も避暑に可なり、近時佐藤三吾君院長として北海道感化院を此地に開設することを聞く相地宜を得たりと云ふべし、余は嘗て此邊有望の地た

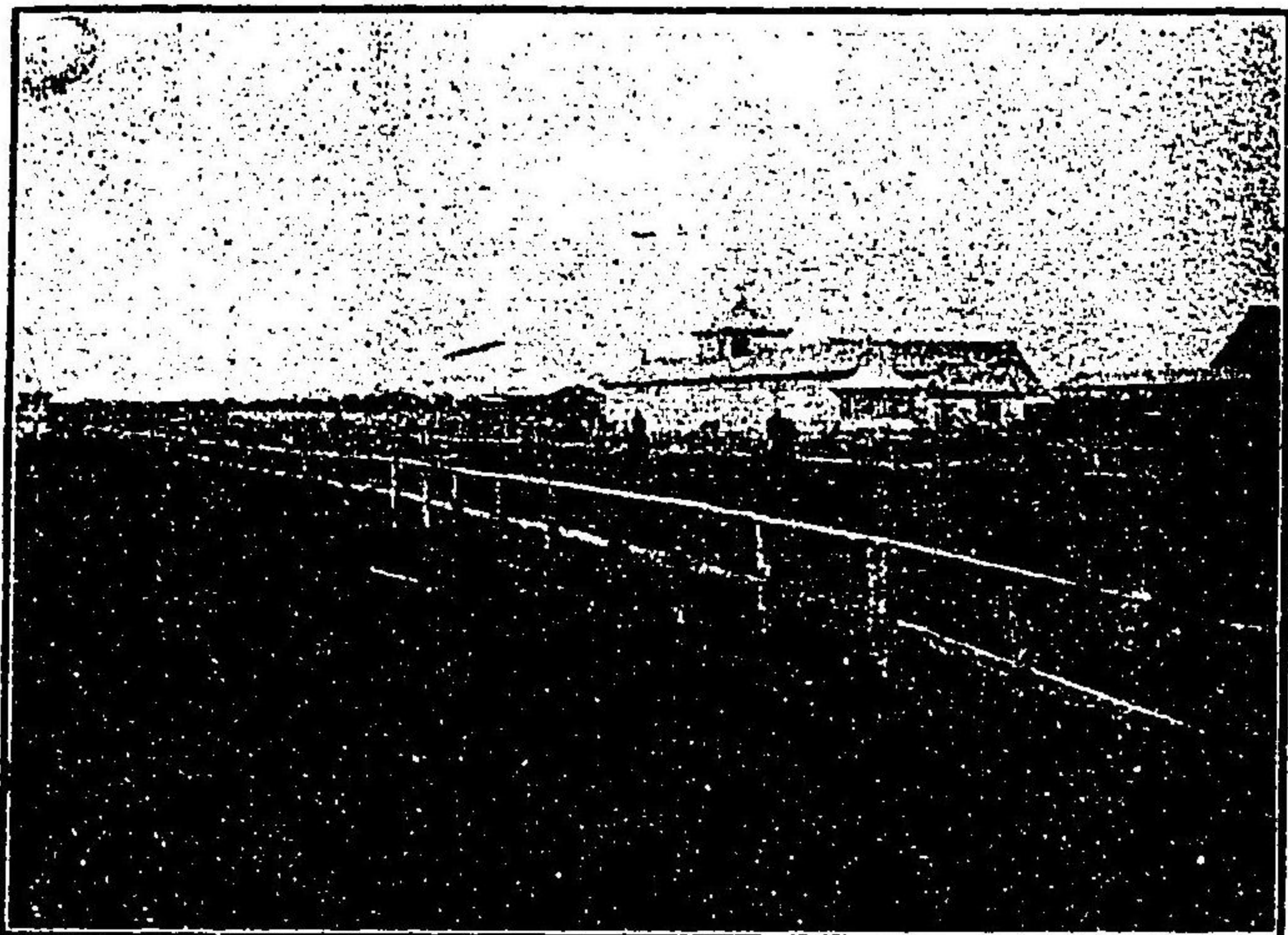
ることを思ふ、現に此街道に於て既に中學校の移轉すべき敷地を撰定せらるゝことを聞く、又嘗て病院を此附近に撰ぶの説ありき、又紳商豪家の別荘を此地方に選ぶもの多し、以て其静養に適するを知るべし、牧場主を常野嘉兵衛君と云ふ、常野紙店の部に於て之を略述せたるを以て此に贅せず、唯君の静養尋常に異なるものは風月を以て樂とせずして、國家の緊急務たる牧畜を以て樂と爲す、其業を樂み其心を塵外に置いて、却て此の國家有益なる成功を奏す、君の如きは亦以て静養界の一鑑と爲すに足るべし

●北海道は最も牧畜に適す

本道は其氣候、地勢共に最も牛馬の牧畜に適するの地多し、而して前途最も有望の事業に屬す、近時人口の増加し内外國人の出入頻繁を加ふるや、歐米開明の風は直接に本道に輸入せられ、文化進歩の速かると、各府縣の舊習に拘泥して遲々たるの類にあらず、其家屋の構造に、男女の服裝に、果樹に、花卉に、百穀、蔬菜に、歐米に似たる所最も多し、是れ二夫新開の地として前途に望ある所以なり、嚮きに故伯爵黒田清隆君の開拓長官たるや、全道吏員に命じ、大に肉食洋服勤儉の三大件を奨励せられ、札幌農學校の如きは洋食

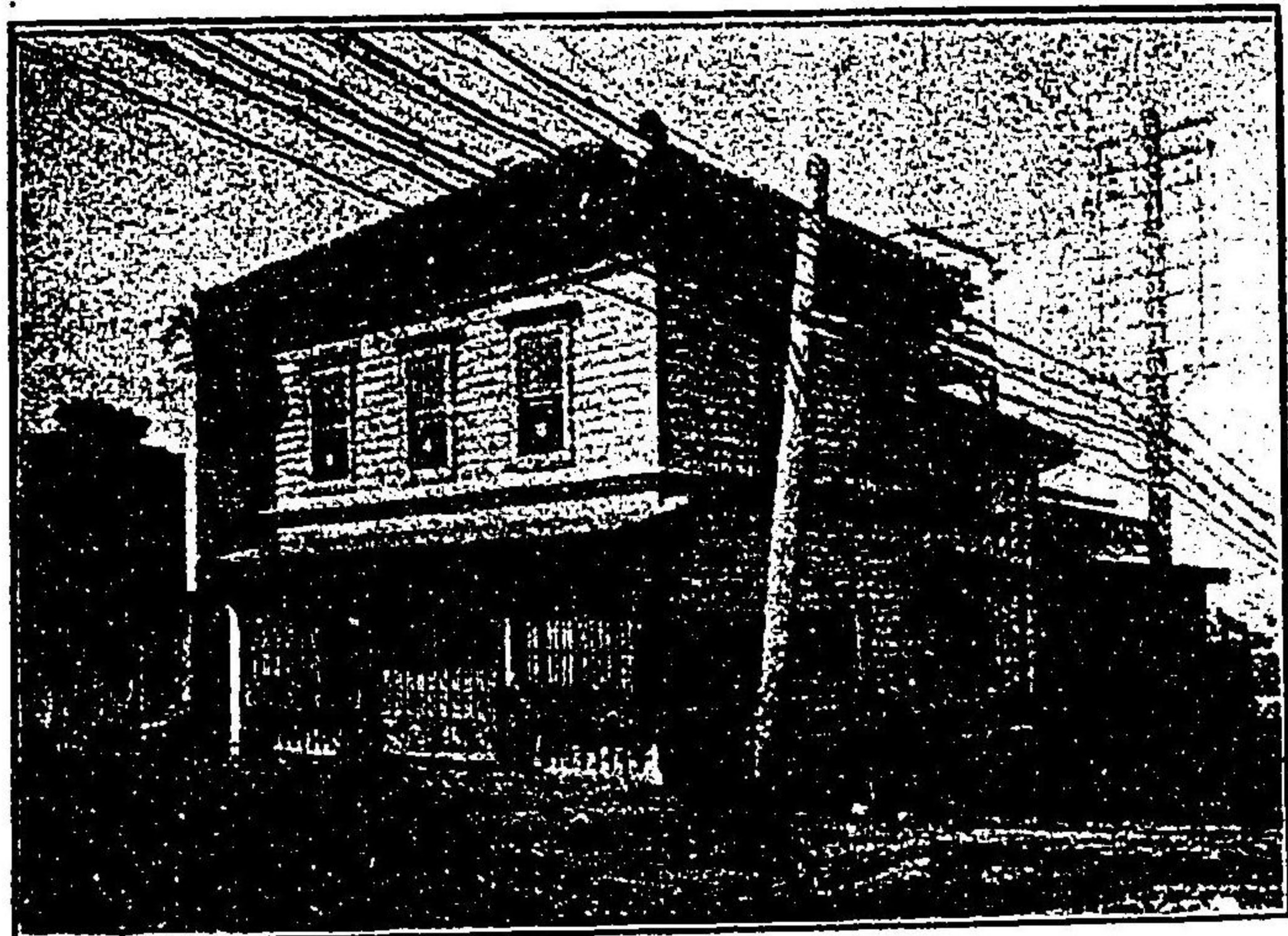
を以て生徒の常餐に定められしことあり、本道に適切なるの卓見實に驚くべし、今や萬般の風色年を追ふて開明に赴く、人生の健康に最も必要なる食料の事、豈獨之に後るべけんや、況んや社會は漸くに業務繁忙の度を進め身體、精神を勞すること最も多きを加ふるに於てれや、牛肉、洋酒罐詰類の本道へ輸入するもの、年々多きを加ふるは誠に謂あるなり、函館港に於ける牛肉需用供給の一事に就て之を例するも牛肉の上等は悉く之を神戸より仰き、稱して神戸肉と云ふ之に次て青森縣下、新潟縣下等より輸入するもの亦多し、而して沿海各地方、及出入の各國軍艦、商船に供給するもの、其巨額驚くべきものあり、夫れ生肉の良否は、其畜種の良否と、畜養法の良否とによりて分る、牛乳亦然りとす、而して本道最も良好の洋種に適す、若し失れ是等の點に注意して、盛んに牧畜を興し、之を本道の一大物産とするに至らば、公私の利益最も巨大なるものあらん、馬に至りても亦然り、現に宮内省に於て、御料に供せらるるものにして、本道より出づる駿逸多し、聞くが如くんば、明治二十七八年日清の戦役に當りてや、動もすれば馬匹の欠乏と、肉類罐詰の欠乏に困せし事ありと、嗚呼隆治に居て戦亂を忘るべからず、況んや北門の鎖鑰をや、上下の最も注目すべきは牧畜にあり

函 館 競 馬 會



函館競馬會は函館を距る一里餘湯ノ川通字柏野にありて鐵道馬車の通する所なり、數萬坪の大地積を有し基本金亦數萬圓に及ぶ、毎年春秋二回の大競馬を行ふ、駿逸なる出馬の夥きこと、毎に觀覽の人を驚かす、實に我帝國に於て一二を争ふの競馬場なり、理事長は平出喜三郎君にして理事は松山吉三郎君かり、而して其平生の事務を監督するものは、夙に馬術巧妙の名を得たる函館大經君なり、此圖は平日練馬の狀を撮影したるものにして、其真先に馬を進むるものは函館大經君其人なり

山田商店 (電話二四一)



山田商店

山田商店は函館會所町五番地にあり店主を山田慎君と云ふ東京在住す盛名既に擧かる備寸軸木製造、鑛業、農業等皆其規模極て大なり實に本道の一大事業家なり現に北見國各郡に於ては、蒸氣機械を以て盛んに製軸を爲し、釧路國其他に於ては廣大なる硫黄山、石炭山を有し、農業に於ては渡島國知内村、其他各地に大地積を有し、富家比ぶ者少し、而して其海外へ輸出する物産亦年々巨額に達せり、兩

館商店には支配人伊藤小太郎君あり、君は着實謀厚の人にして、能く其事を勉む故を以て事業益々隆進に至る、軸木の神戸に出すもの多きは既に人の知る所なり、夫れ本道に在りて將來外國貿易品となるべき重なるものは、石炭、硫黄、軸木、農産物、水産物等とす、而して山田君既に皆盛んに之を行ふ、君の如きは實に本道の富源を發開するの功大なるものと云ふべし

一四二 山田商店、島谷商店

島谷商店



函館末廣町十八番地

河島谷商店

(電話二四〇)

島谷商店は海陸物産商を以て著はる、又軸木商としては其盛名夙に内外に開ゆ、實に函館に於ける一大商店なり、該店より神戸其他に輸出する燐寸軸木、大坂其他へ輸出する片栗粉最も多し、又軸木製造場を數ヶ所に有し、又夏帽原料製造場を有せり、酒類は大坂、堺、灘、より輸入するもの多く就中堺の銘酒、春駒の同店を経て本道各地へ取引するもの極めて夥しく函館の酒商亦同店に仰ぐもの多し、故に俗呼んで春駒店と稱するに至る、盛んなりと云ふべし、店主を島谷安三郎君と云ふ、君英敏にして商情に通じ、其取引は誠實を主とするを以て顧客日に増加し、最も信用厚くして商業隆盛なり、軸木、澱粉の如き既に第四回の大博覽會に於て褒状を受く、其精品なると余の喋々を要せず

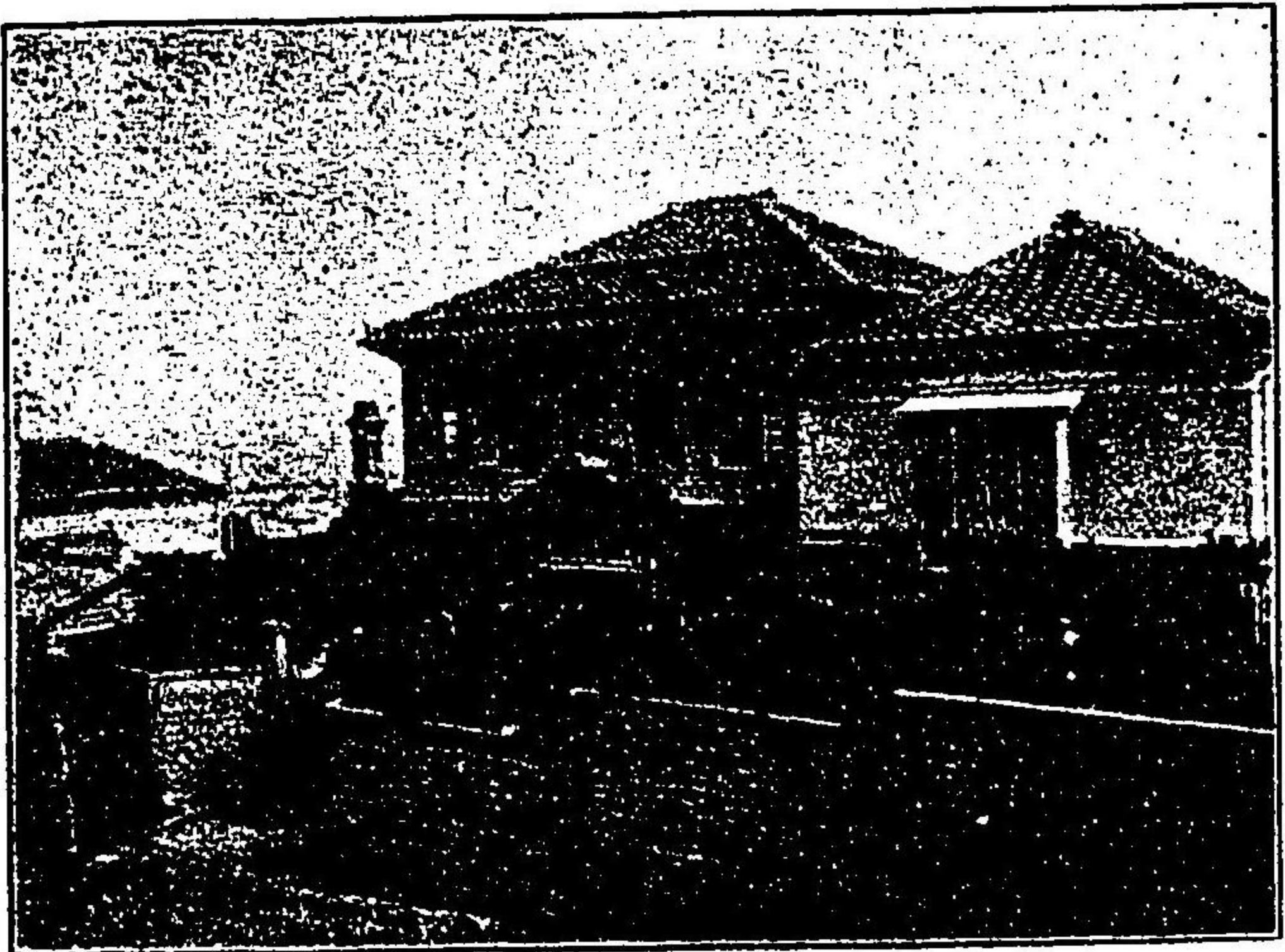
●燐寸軸木原料保護に關する意見

燐寸軸木は、帝國の重要物産にして、東洋輸出品に於ては前途最も有望のものなり、而して其原料たる白楊樹は本州府縣下に在りては、良品を得難く、近年殆んど欠乏するに至れり、而して其佳良の原料に富めるは、獨北海道あるのみ、然るに本道開墾の進むに従て最も此の佳良の白楊樹多き地と雖も、開墾の爲めに貸下となり、貸下を受けたるものは、必ずしも軸木製造業を兼ねるものにあらざるを以て、或は之を伐採して薪炭に供するものあり、或は之を長材として其儘之を神戸に輸送するものあり、貸下を受くるもの、開墾事業進歩上よりすれば止むを得ざるに出つることなりと雖も、其帝國の重要物産保護の上より論するときは、實に顧慮すべきことに屬す、即ち軸木製造業者に在りては、近傍の地是か爲めに其原料を失ひ、遂に製造地を轉せざるへからざるに至る、假りに其地を轉ずるとするも、今日の如き到る所密林に富めるの時代に在りては、或は猶可なりと雖も、之を以て將來の一大貿易品として益々斯業の隆盛を謀らんと欲せば、今に於て之を保護するの道なかるへからざるなり、之を保護の道種々ありと雖、其緊急なる件を摘すれば、曰く何れの地

に在りても、白楊樹其他軸木の好材料たるべき
樹木を亂伐せしめざること、曰該材料に富める
地所は軸木製造の目的にあらざれば貸下せざる
こと、曰該好材は木材のまゝ北海道以外へ輸出
せしめざること、曰現今及將來の製軸業に對し
ては、當局者に於て其地味を運輸の便を調査し
て最も該樹生長の宜しき個所を特に製軸業者に
貸下を爲し造林を奨励すること、曰全道の燻寸
軸木製造及販賣商の組合を設けて將來益々精良
品を製出せしむること、曰北海道軸木製造販賣
商組合と神戸の同業組合との間に於て相當の聯
達規約を結び一致協力して以て、外國輸出の隆
盛を謀るべきこと等にあり



杉 浦 嘉 七 君 邸



杉浦嘉七君の邸は函館汐見町十七番地（電
話三三九）にあり本道第一流の富豪にして
著名の舊家なり、函館市街中に宅地を有す
るもの頗る多し、富豪を數ふる者先づ指を
同君に屈す、本道肩を比するもの少なし、
又文雅の道に精く、超然として脱塵の風あ
り、而して慈仁の志厚く能く力を公共の事
に盡し、積徳重望盛名赫々たり

村 田 駒 吉 君 邸



一四六 村田駒吉君

村田駒吉君の邸は函館曙町一番地（電話四五三番）にあり、本道屈指の富豪にして、廣大の耕宅地を有し其盛名夙に世に著はる君は温良にして聰明、克く内外の商勢に通じ、今銀行業に従事す、人に接する最も懇切又公共に益する所少からず家道愈々隆昌あり、而して君春秋に富む衆皆望を屬す

株式會社百十三銀行
頭取 田中正右衛門君



函 館

本 店



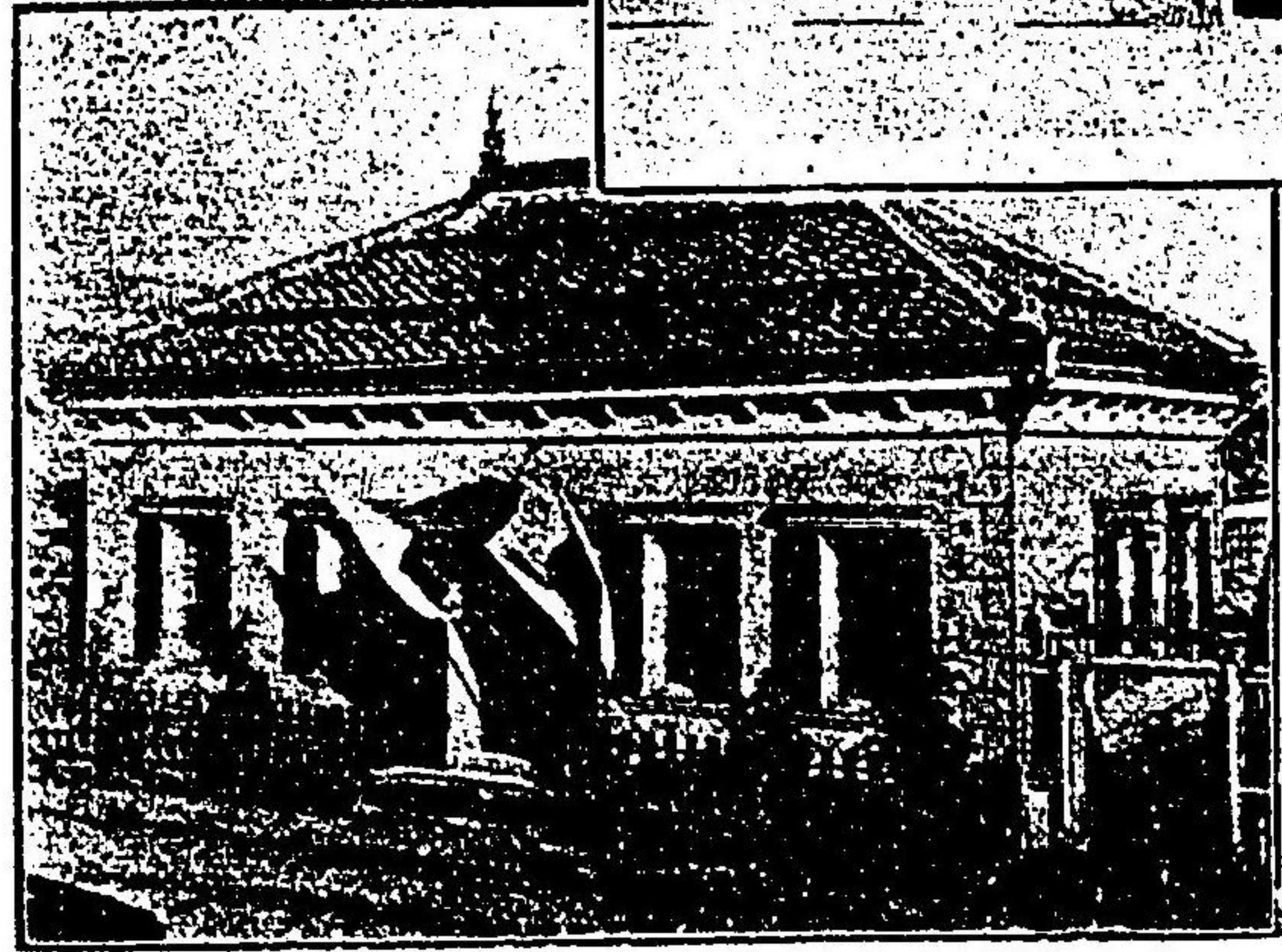
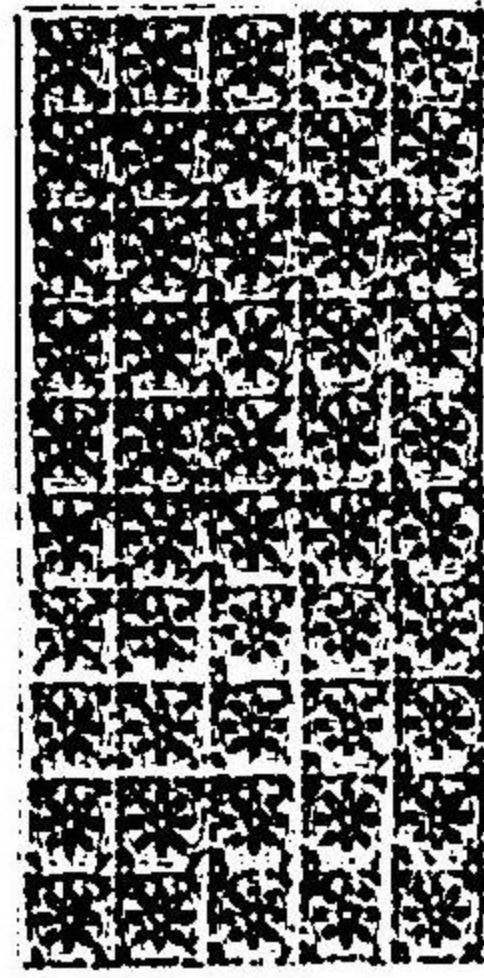
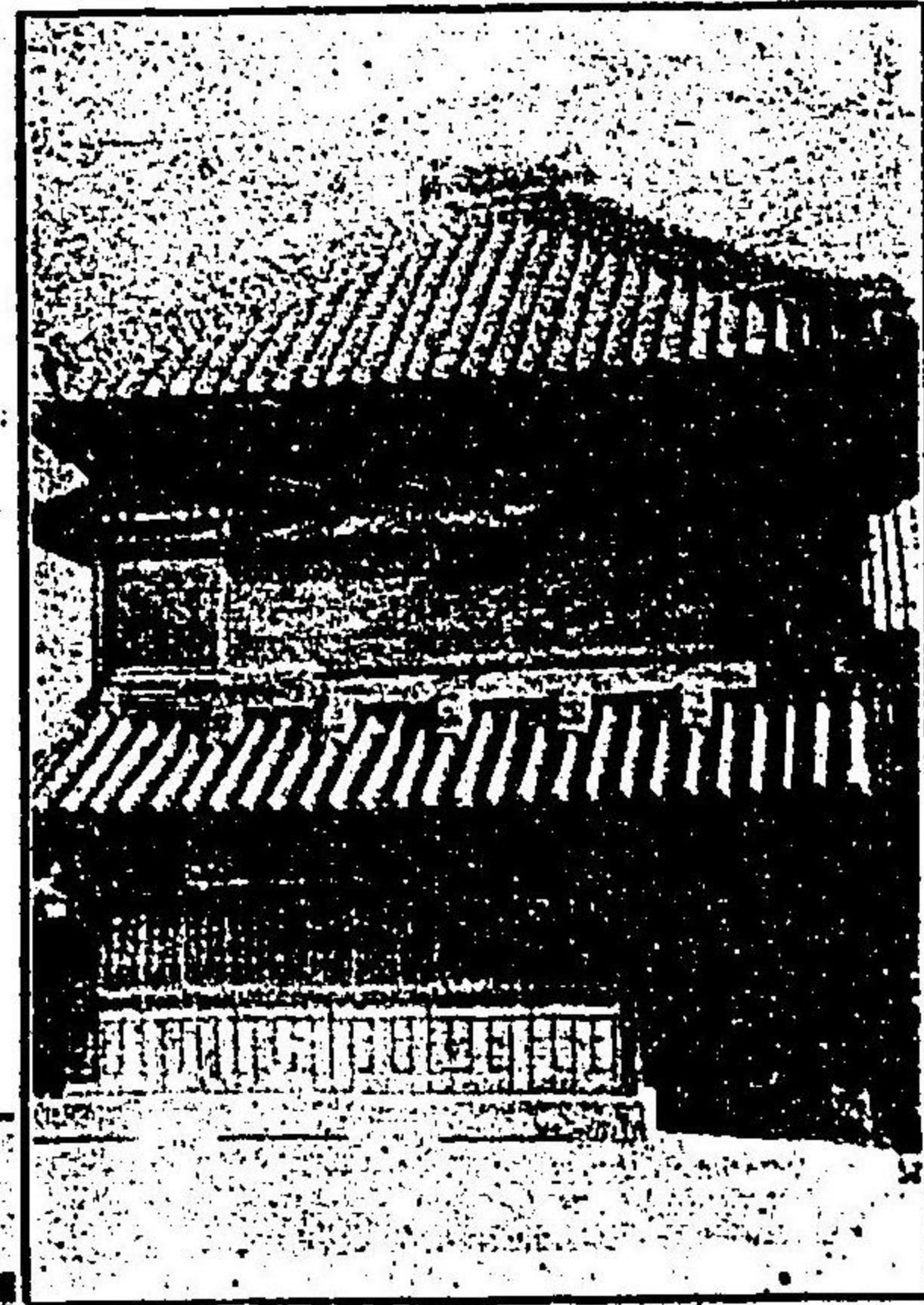
一四七 百十三銀行

株式會社百十三銀行

函館末廣町四十番地 (電話一三三番)

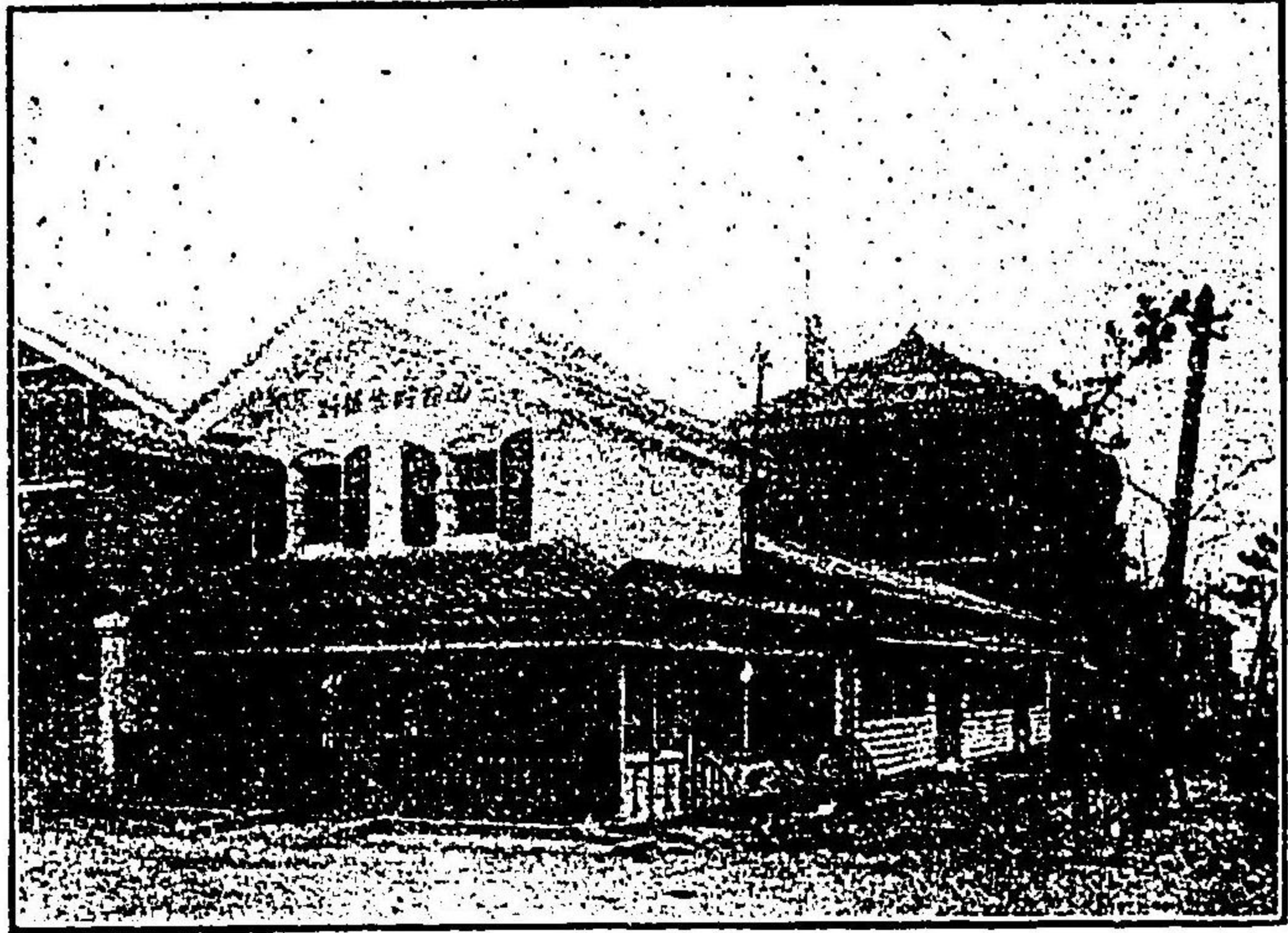
百十三銀行は資本金を壹百萬圓とす營業確實にして最も信用あり、取引盛んに行はる、其創立は明治十一年に在り店員勤勉、取扱懇切にして實業界に利便を與ふる鮮からざるを以て皆喜んで信頼す東京、小樽に支店あり又全國到る所に爲換取引約定店あり、營業益々隆盛なり、頭取田中正右衛門君は富豪の舊家にして温厚篤實の長者なり、又公共に盡瘁する所少からず函館今日の繁榮を致せるもの與かりて力ありと云ふべし、宿徳重望名聲最も高し、支配人中西友吉君は銀行業に付て最も多年の實歴あり、經濟の事に精通し、其名亦世に知らる

全上東京支店(江戸橋南詰)



全上小樽支店(堺町)

株式會社函館貯蓄銀行



一五〇 函館貯蓄銀行

函館末廣町十四番地。

函館貯蓄銀行（電話五二三）

鶴岡町出張所（電話三六二）

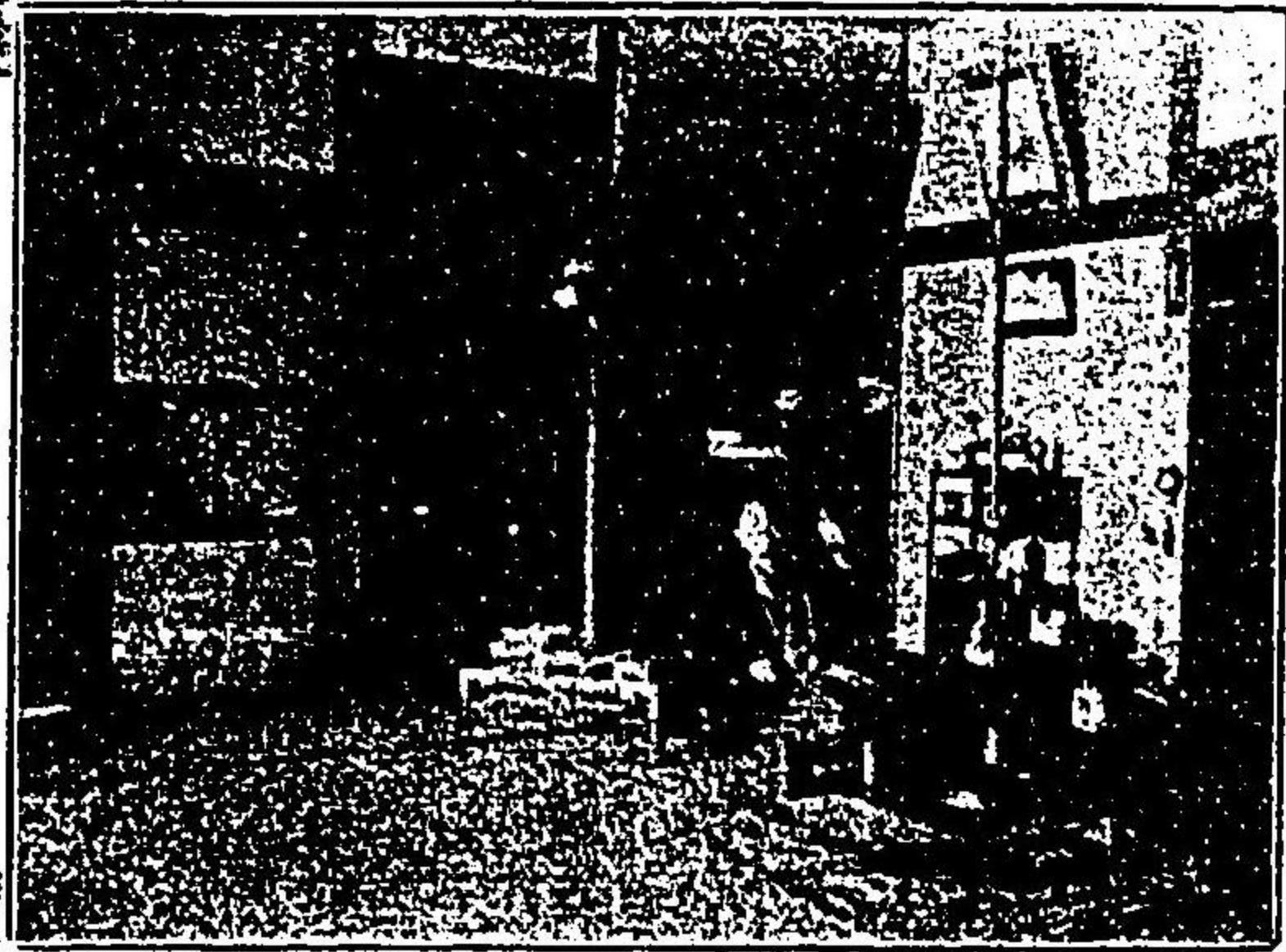
辨天町出張所（電話六三七）

函館貯蓄銀行は其出張店を鶴岡町二番地、辨天町十七番地の兩所に設け、店員熱誠、市内公衆の便利を謀れり、頭取は田中正右衛門君にして其名望最も高し、其取扱の懇切なるを以て衆皆大に喜ぶ、業務日に繁盛を加ふ、支配人辻專三君は多年銀行の業に實歴を有し、斯業に精通し、最も老成の令名あり

田中正右衛門君
天神町邸ノ一



一五一 田中正右衛門君



全上常居



全上邸ノ二

某令嬢

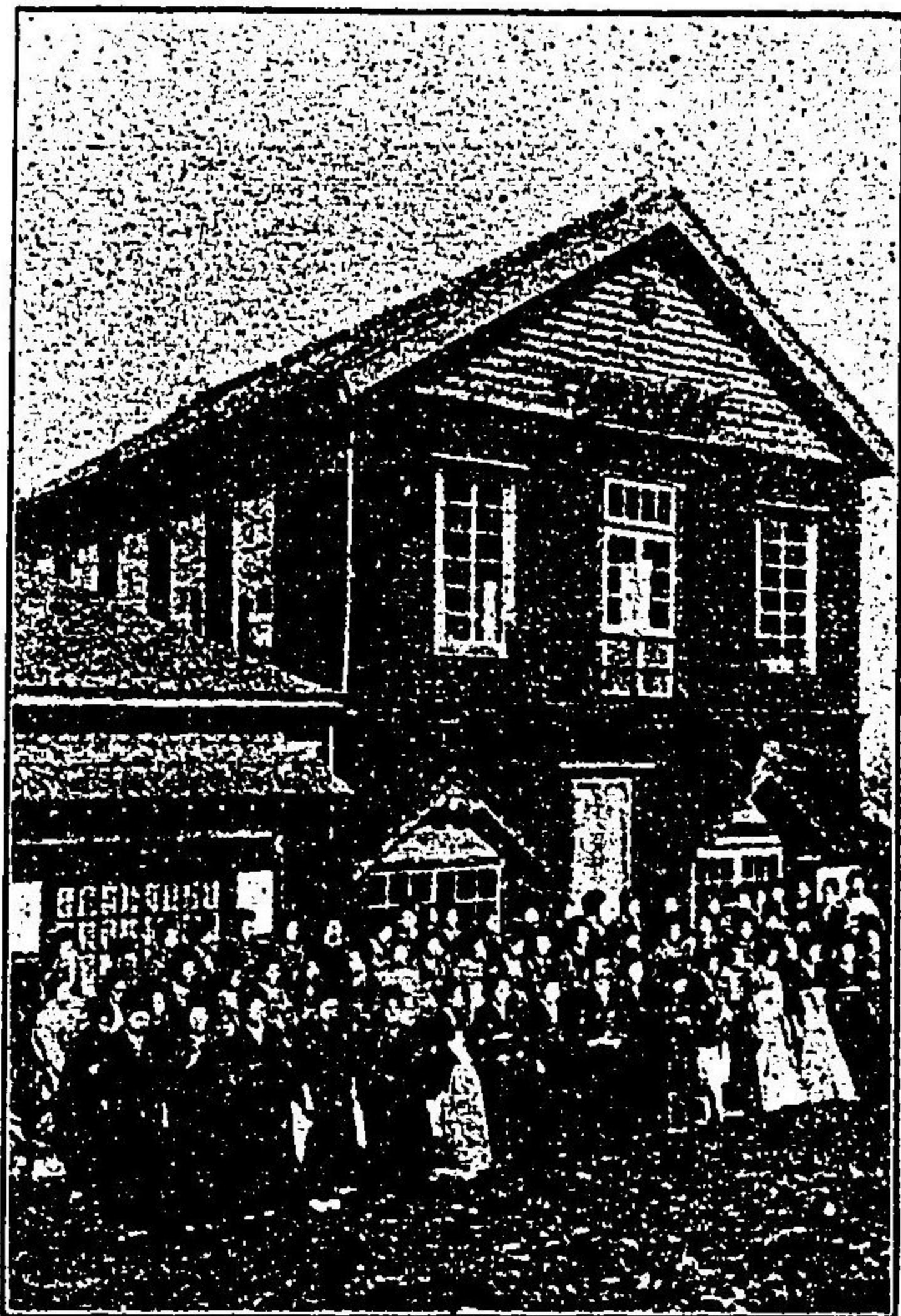


全上船見町

別莊



大石裁縫女學校



大石裁縫女學校は函館區天神町七十番地に在りて、裁縫、女禮式を教授す校長を大石トク子

と云ふ、其創立明治二十五年にあり、爾來益々隆盛に赴き豪商富家の令嬢多くは此校に入る、生徒常に數百人、卒業生を出すもの亦少からず、夫人才學に富み、和洋裁縫の蘊奥を極め、多歳の實驗を積むを以て最も其術に長ずるの稱あり、兼ねて彈

琴、插花、抹茶等、優雅の道に精し、教授懇切にして淑徳亦高し、以て軌範と爲すに足るべし



李蝶庵大川宗匠教庭

、り互張
李蝶庵の
下位夫人
三位の香
令夫人とし、
位の茶を土
令嬢とし、二
位の花を勝
夫人とし、一
半頭を横山
令夫人とし、
り、頭を松
座の形なり
此圖は茶道
且

○花月
是れを茶道の花月式とす、主客の位置にあるを網塚令嬢とし客坐の第一を松吉令夫人とし、第二を東浦令夫人とし、第三を小貫令嬢とし、第四を網塚令嬢とす、参席の第一を長森令嬢とし、第二を田嶋令嬢とし、第三を木下令嬢とす、皆是李蝶庵門下の優秀なり、而して其四は大川令夫人なりとす、中央の上席にありて、利休帽を頂くものは李蝶庵宗匠其人なりとす



李蝶庵宗匠は函館元町三十五番地に閑居し、千家表流師範代理として抹茶插花の帷を垂る、富豪紳士及令嬢令夫人の教を請ふもの最も多く、教庭の優麗にして教授懇切なり、斯業日に榮ひ徳望愈々高し

●北海道銀行諸會社表

名	稱	資	本	金	名	稱	資	本	金
北海道炭礦鐵道株式會社		一八〇〇〇〇〇〇			前田製紙合名會社		二〇〇〇〇〇		
北海道鐵道株式會社		一〇〇〇〇〇〇〇			後藤合名會社		二〇〇〇〇〇		
北海道拓殖銀行		三〇〇〇〇〇〇			江差銀行		二〇〇〇〇〇		
北海道製麻株式會社		一六〇〇〇〇〇			根室銀行		二〇〇〇〇〇		
函館船渠株式會社		一三〇〇〇〇〇			函館汽船株式會社		二〇〇〇〇〇		
百十三銀行		一〇〇〇〇〇〇			北海道木材株式會社		一五〇〇〇〇		
北海道商業銀行		一〇〇〇〇〇〇			天鹽木材株式會社		一五〇〇〇〇		
十勝開墾合資會社		七〇〇〇〇〇			函館馬車鐵道株式會社		一五〇〇〇〇		
札幌麥酒株式會社		六〇〇〇〇〇			北海道機械網株式會社		一五〇〇〇〇		
函館銀行		五〇〇〇〇〇			北海道造林合資會社		一五〇〇〇〇		
小樽銀行		五〇〇〇〇〇			北海道拓殖合資會社		一五〇〇〇〇		
北海道セメント株式會社		三六〇〇〇〇			松前銀行		一〇〇〇〇〇		
北海銀行		三〇〇〇〇〇			札幌倉庫株式會社		一〇〇〇〇〇		
共成株式會社		三〇〇〇〇〇			北海道共同株式會社		一〇〇〇〇〇		
今井合名會社		三〇〇〇〇〇			岩內汽船株式會社		一〇〇〇〇〇		

二 北海道銀行諸會社表

札幌電燈株式會社	一〇〇,〇〇〇	函館博愛株式會社	七,四〇〇
開墾委託株式會社	一〇〇,〇〇〇	旭川盛有株式會社	二〇,〇〇〇
小樽貨物火災保險株式會社	一〇〇,〇〇〇	上川倉庫株式會社	二〇,〇〇〇
岡田合資會社	一〇〇,〇〇〇	壽郎倉庫株式會社	一五,四〇〇
合名會社大島商店	一〇〇,〇〇〇	室蘭物產株式會社	四,〇〇〇
札幌貯蓄銀行	六〇,〇〇〇	鶴川外七ヶ村馬市株式會社	三,二五〇
函館貯蓄銀行	七〇,〇〇〇	日高馬市株式會社	一,一〇〇
江差貯蓄銀行	三〇,〇〇〇	北見株式會社	五〇,〇〇〇
壽都銀行	一〇〇,〇〇〇	小樽土木株式會社	一〇,〇〇〇
小樽株式外五品取引所	五〇,〇〇〇	祝津共同株式會社	一〇,〇〇〇
日本昆布株式會社	二五〇,〇〇〇	三益株式會社	一〇,〇〇〇
江差米穀類取引所	四〇,〇〇〇	旭共贊會社	一〇,〇〇〇
北海道物產株式會社	二〇,〇〇〇	室蘭倉庫株式會社	一〇,〇〇〇
魚印株式會社	五,〇〇〇	北海道鐵道貨物運送株式會社	一〇,〇〇〇
小樽集鱗株式會社	一〇,〇〇〇	濱益汽船株式會社	二〇,〇〇〇
小樽生魚株式會社	一〇,〇〇〇	函館運送株式會社	六〇,〇〇〇
小樽倉庫株式會社	五〇,〇〇〇	兩島汽船株式會社	一五,〇〇〇
函館魚商株式會社	二五,〇〇〇	噴火灣汽船株式會社	五五,〇〇〇

釧路海陸運送株式會社	一三,〇〇〇	曙薪炭合資會社	六,一〇〇
札幌精米株式會社	六〇,〇〇〇	合資會社清水菓店	八,〇〇〇
北海道凍水株式會社	三〇,〇〇〇	酒友合資會社	二〇,〇〇〇
小樽製油株式會社	二五,〇〇〇	合資船具會社	一〇,〇〇〇
小樽牛乳株式會社	七,五〇〇	合資會社八雲商會	五,〇〇〇
小樽精米株式會社	七五,〇〇〇	巴厘合資會社	一三,六五〇
酒造株式會社	一〇,〇〇〇	函館米商合資會社	一〇,〇〇〇
七重蓄産株式會社	五,〇〇〇	函館炭商合資會社	四,〇〇〇
後志興農株式會社	一五,〇〇〇	北海產業合資會社	一〇,〇〇〇
加越能開耕株式會社	七〇,〇〇〇	函館魚商合資會社	一〇,〇〇〇
漁業株式會社	三,二四〇	合資會社金久市内商店	五,五〇〇
北海生命保險株式會社	二〇〇,〇〇〇	仲尾合資會社	四〇,〇〇〇
合資會社赤星商店	五〇,〇〇〇	江差座合資會社	四,二二五
合資會社二二商會	三〇,〇〇〇	熊石物產合資會社	一〇,〇〇〇
北海タイムス合資會社	五五,〇〇〇	壽都合資物產會社	三三,〇〇〇
丸小合資會社	一五,〇二五	羽幌倉庫合資會社	三,〇〇〇
札幌菲儀合資會社	五,〇〇〇	合資會社石昌商會	四,〇〇〇
北海道薪炭合資會社	四,〇〇〇	弁邊合資會社	五,〇〇〇

三 北海道銀行諸會社表

帶廣倉庫合資會社	四〇〇〇	小樽製氷合資會社	三〇〇〇〇
釧路倉庫合資會社	五〇〇〇〇	札幌味噌醬油合資會社	二〇〇〇〇
根室倉庫合資會社	三〇〇〇〇	札幌煉乳合資會社	三〇〇〇〇
北辰合資會社	二〇〇〇	札幌製氷合資會社	四〇〇〇〇
岩內古宇海陸產合資會社	五、二五〇	蝦夷陶器合資會社	六〇〇〇
岩內倉庫合資會社	一〇、〇〇〇	札幌精穀合資會社	一〇、〇〇〇
石狩川瀛船合資會社	一五、〇〇〇	北海道牧畜合資會社	二二、〇〇〇
山中船合資會社	一二、〇〇〇	合資會社北越殖民社	五〇、〇〇〇
洞渡船合資會社	一、〇〇〇	菓木殖裁合資會社	四、四五一
大津運送合資會社	三、四〇〇	赤井川農事合資會社	一五、〇八〇
海陸運送合資會社	二、〇〇〇	北海道蠶桑合資會社	三、〇〇〇
禮文解合資會社	七、二〇〇	培木合資會社	一五、〇〇〇
尻日沃度製造合資會社	二、五〇〇	膽振牧畜合資會社	一二、五〇〇
江差製糸合資會社	一〇、〇〇〇	日高實業合資會社	三、〇〇〇
函館製紙合資會社	一〇、〇〇〇	日高牧畜合資會社	三〇、〇〇〇
小樽銅鐵船具合資會社	一六、〇〇〇	牧畜合資會社	一二、〇〇〇
共益貝灰合資會社	二、〇〇〇	晚成合資會社	四五、〇〇〇
小樽鑄鐵合資會社	一〇、〇〇〇	牧養合名會社	一、五〇〇

岩內炭礦合名會社	五〇、〇〇〇	大橋合名會社	七〇、〇〇〇
松川合名會社	二〇、〇〇〇	室蘭漁業合名會社	四、四五〇
札幌新開合名會社	三、〇〇〇	室蘭運送合名會社	一〇、〇〇〇
小樽博善合名會社	四、〇〇〇	札幌酒造合名會社	四〇、〇〇〇
早川合名會社	二〇、〇〇〇	佐野硝子合名會社	四、三〇〇
山崎合名會社	三〇、〇〇〇	煉瓦石製造合名會社	二、〇〇〇
函館薪材合名會社	八、〇〇〇	松陸合名殖產會社	二八、〇〇〇
合名會社松居吳服店	一〇、〇〇〇	網走酒造合名會社	一〇、〇〇〇
漁夫保證稻川合名會社	三、〇〇〇		

函館港銀行會社及支店代理店

日本銀行北海道支店	株式會社江差銀行函館支店
株式會社百十三銀行	函館汽船株式會社
株式會社函館貯蓄銀行	日本郵船株式會社
株式會社函館銀行	函館運送株式會社
株式會社二十銀行函館支店	函館馬車鐵道株式會社
合名會社三井銀行函館支店	佐野硝子製造合名會社
株式會社第三銀行函館支店	漁夫保證稻川合名會社